

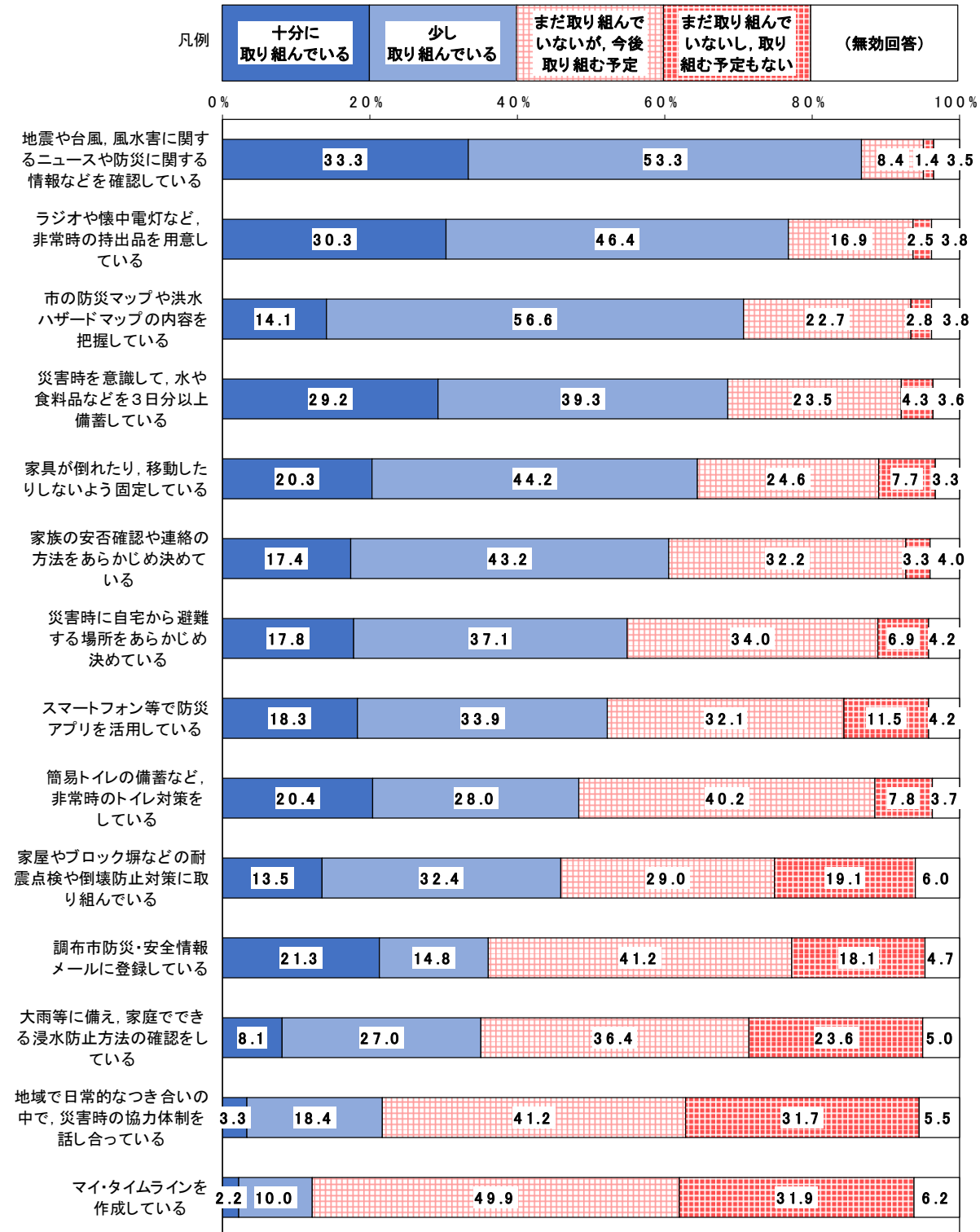
(4) 日ごろの意識や行動

【防災について】

問 20) あなたは、日ごろからどのような防災対策に取り組んでいますか。

<全体 (n=1105) >

○「十分に取り組んでいる」と「少し取り組んでいる」の合計は、「地震や台風，風水害に関するニュースや防災に関する情報などを確認している」が 86.6%と最も高く，次いで「ラジオや懐中電灯など，非常時の持出品を用意している」が 76.7%，「市の防災マップや洪水ハザードマップの内容を把握している」が 70.7%の順となっています。

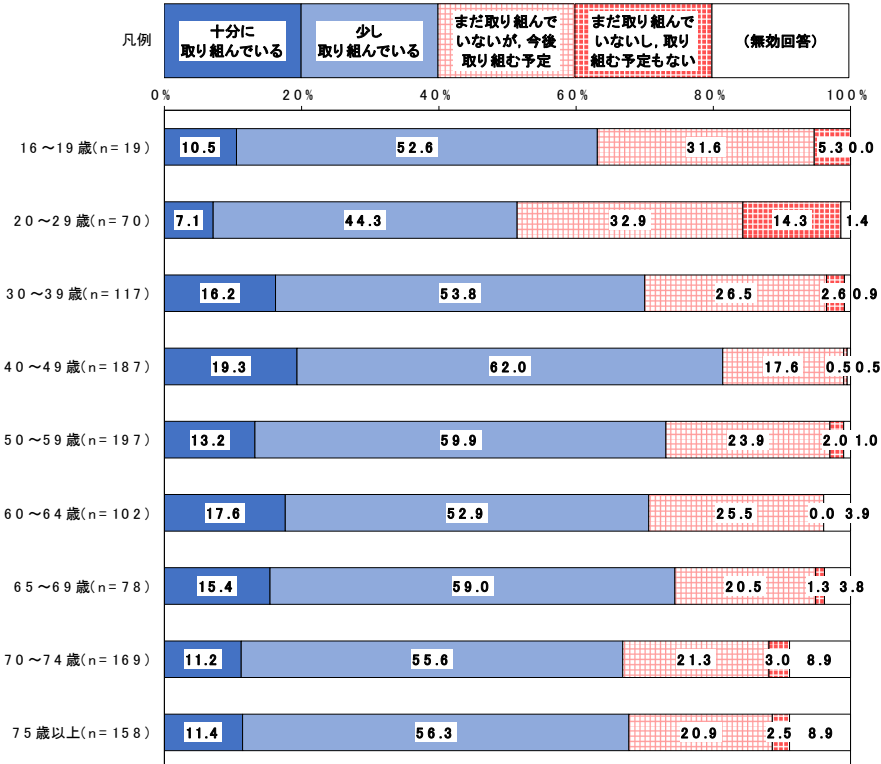


第3章 調査結果<日ごろの意識や行動>

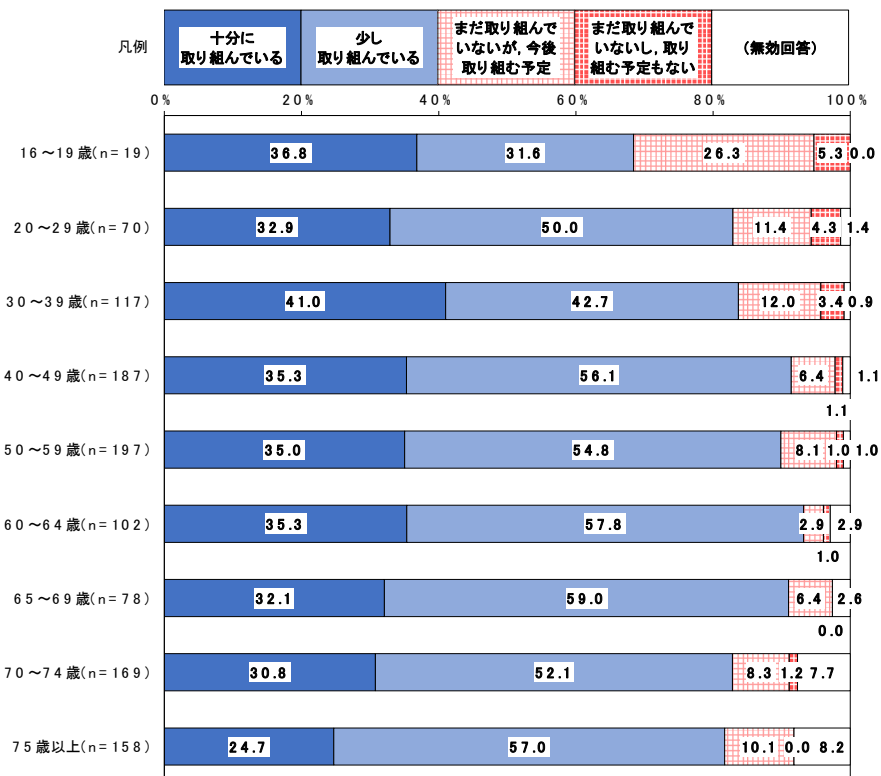
<年齢層別>

○「スマートフォン等で防災アプリを活用している」では、30～69歳で、「十分に取り組んでいる」と「少し取り組んでいる」の合計が半数を超えています。また、「調布市防災・安全情報メールに登録している」では、40～59歳が他の年齢層に比べ高くなっています。

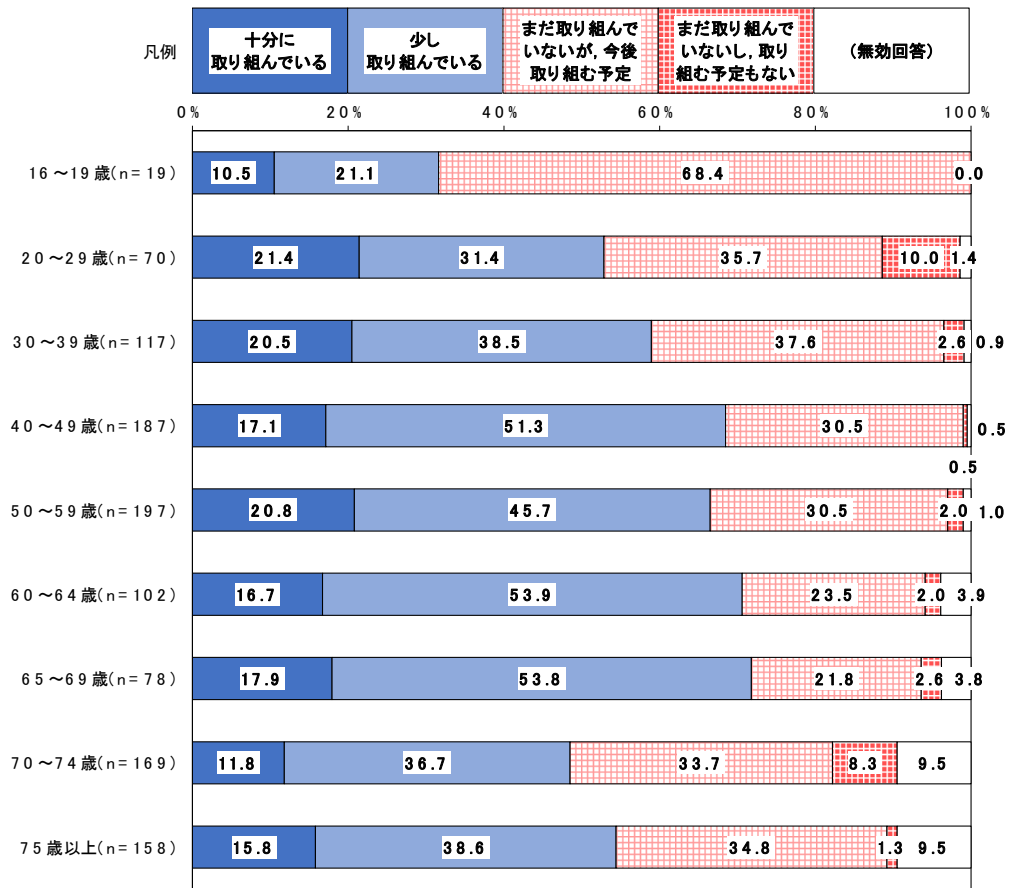
1 市の防災マップや洪水ハザードマップの内容を把握している



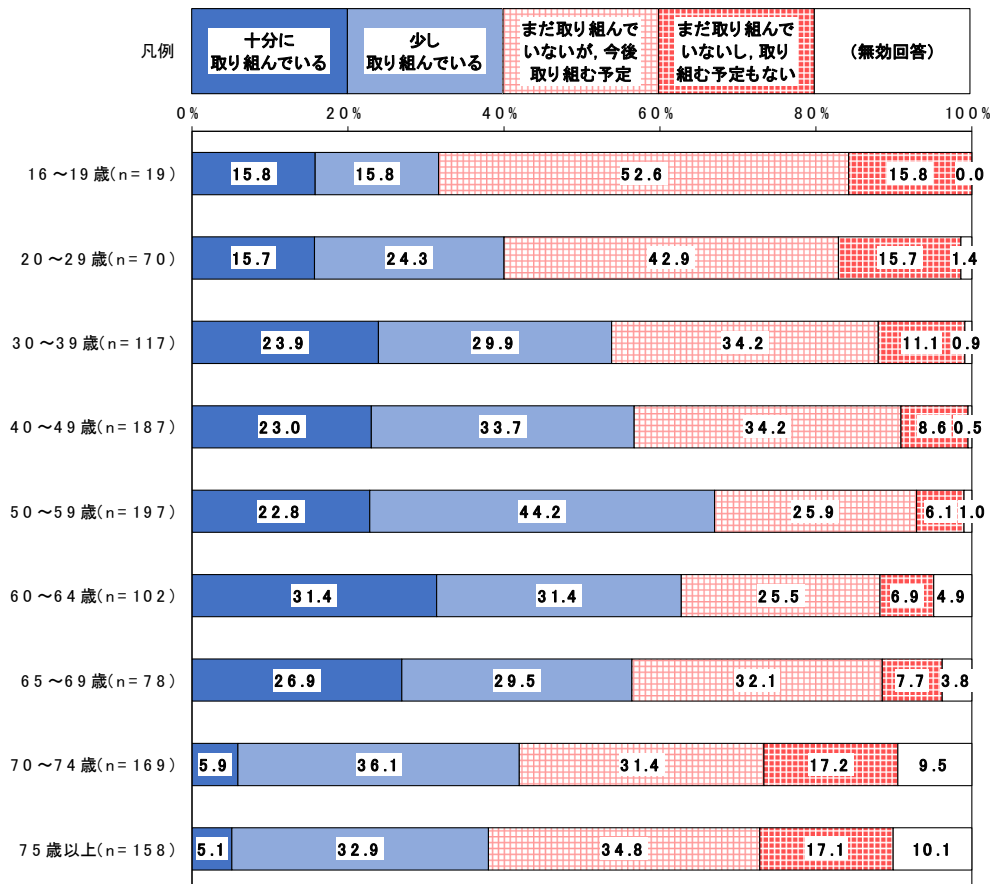
2 地震や台風、風水害に関するニュースや防災に関する知識など（テレビ・新聞・ラジオ・インターネット）を確認している



3 家族の安否確認や連絡の方法をあらかじめ決めている

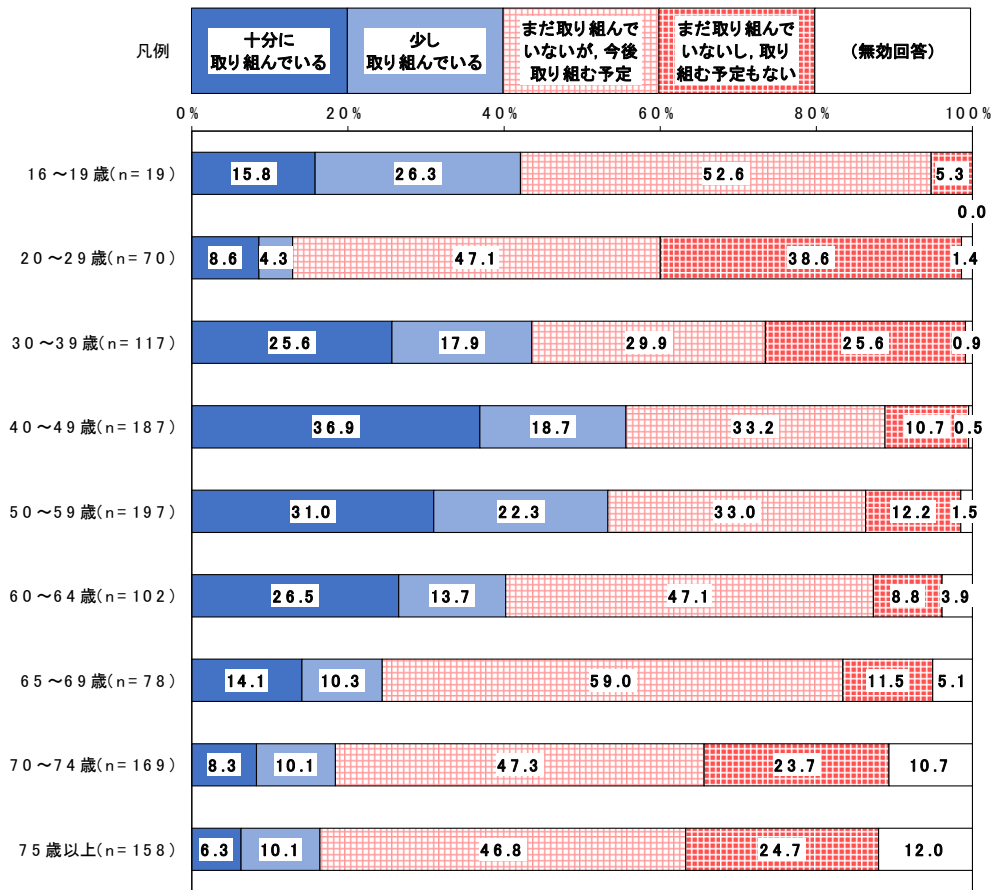


4 スマートフォン等で防災アプリを活用している



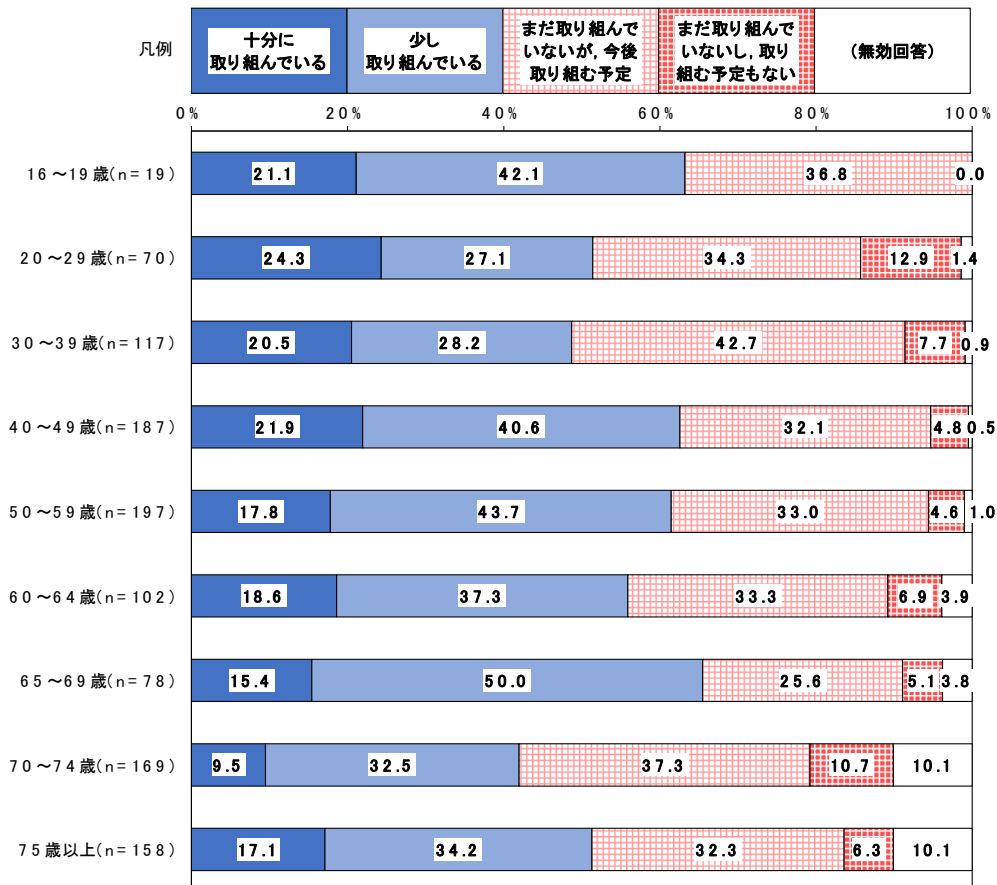
第3章 調査結果<日ごろの意識や行動>

5 調布市防災・安全情報メールに登録している

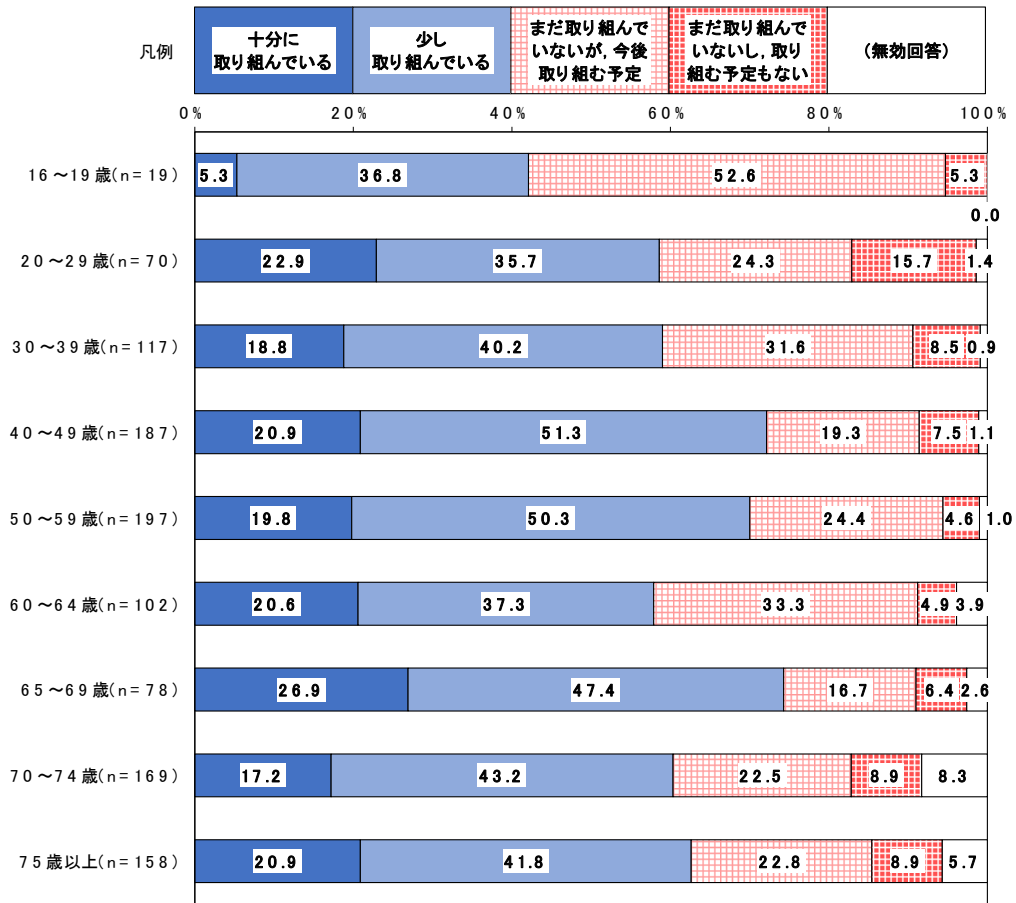


6 災害時に自宅から避難する場所（避難所・自宅の上層階・親族や友人、知人宅）をあらかじめ決めてい

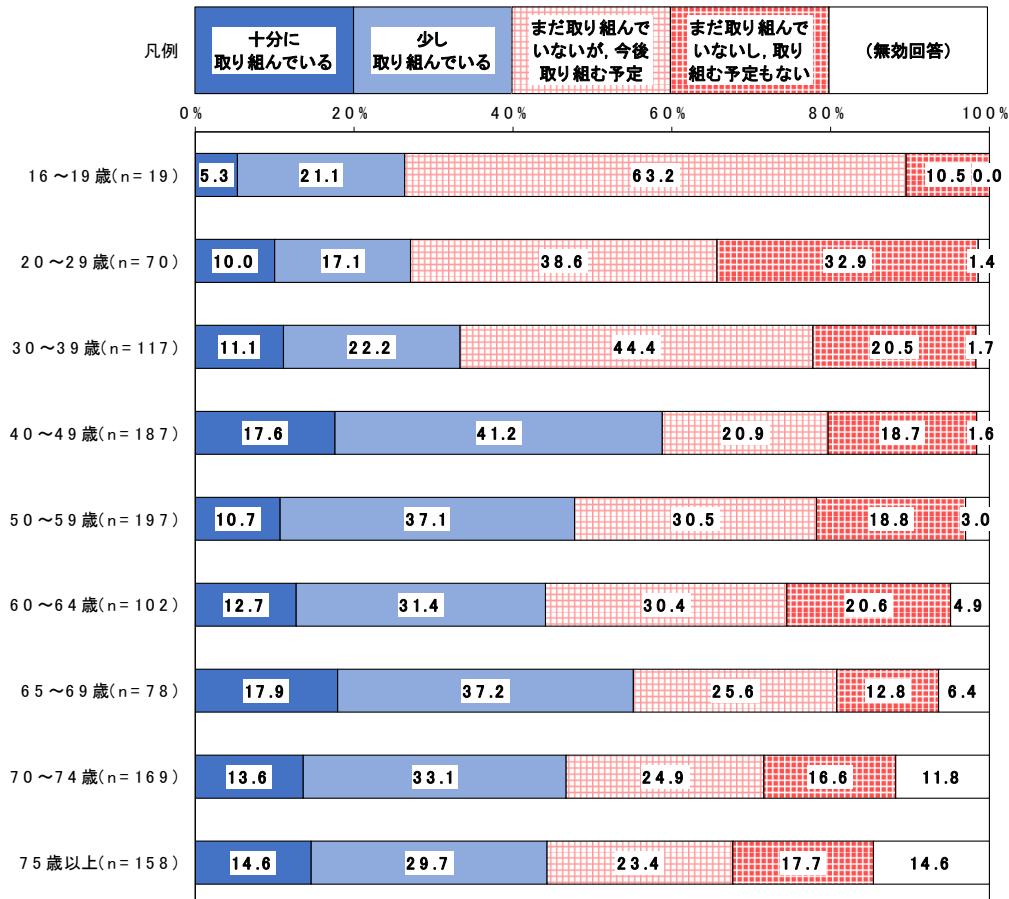
る



7 家具が倒れたり、移動したりしないよう固定している

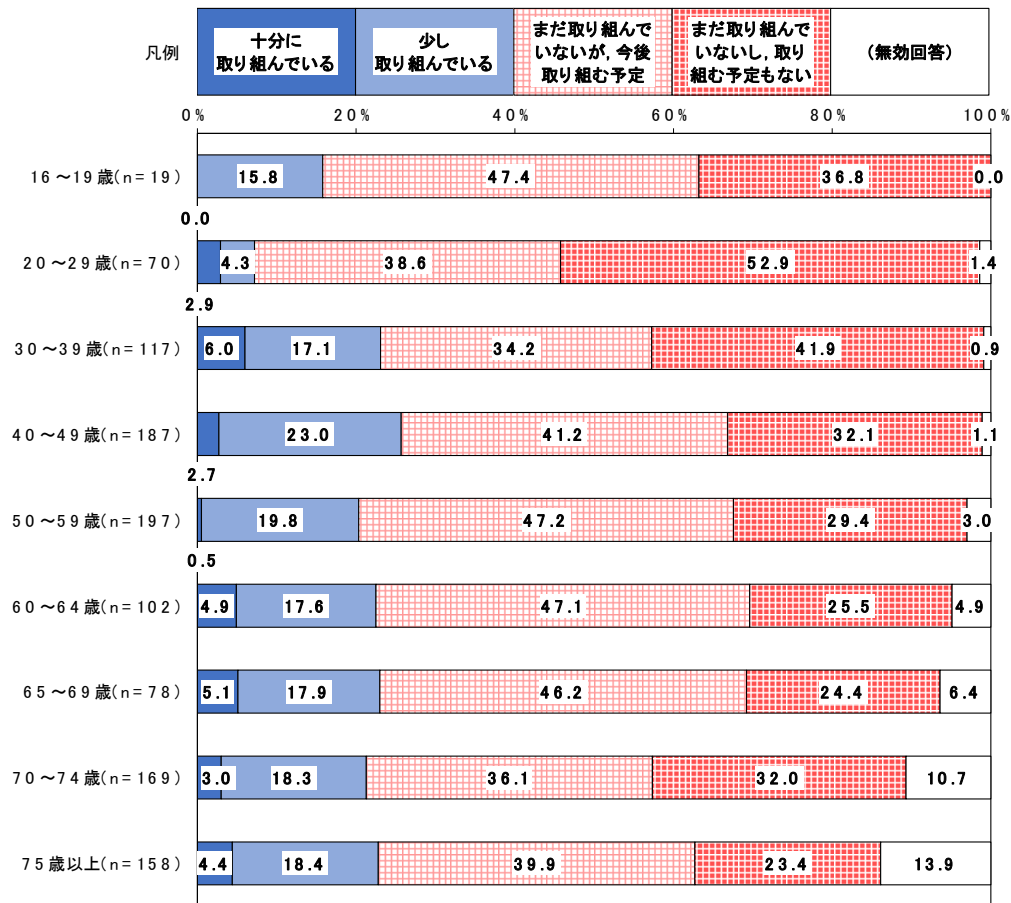


8 家屋やブロック塀などの耐震点検や倒壊防止対策に取り組んでいる

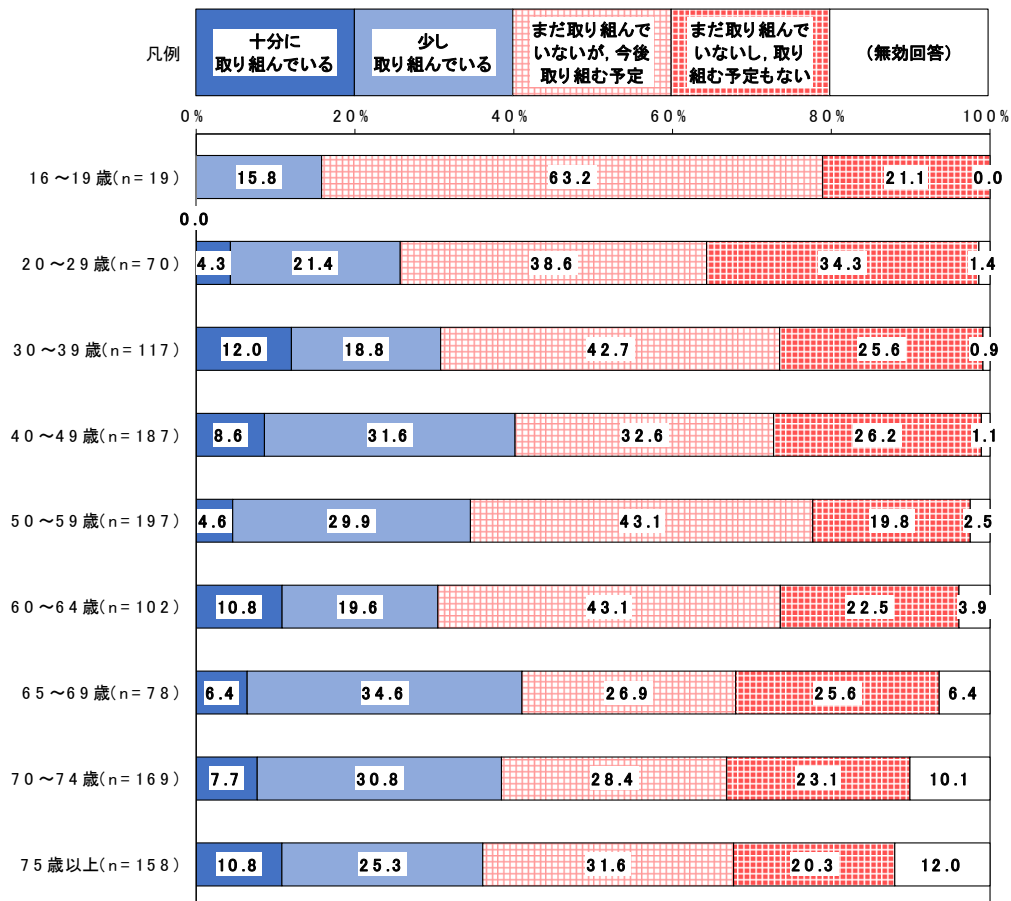


第3章 調査結果<日ごろの意識や行動>

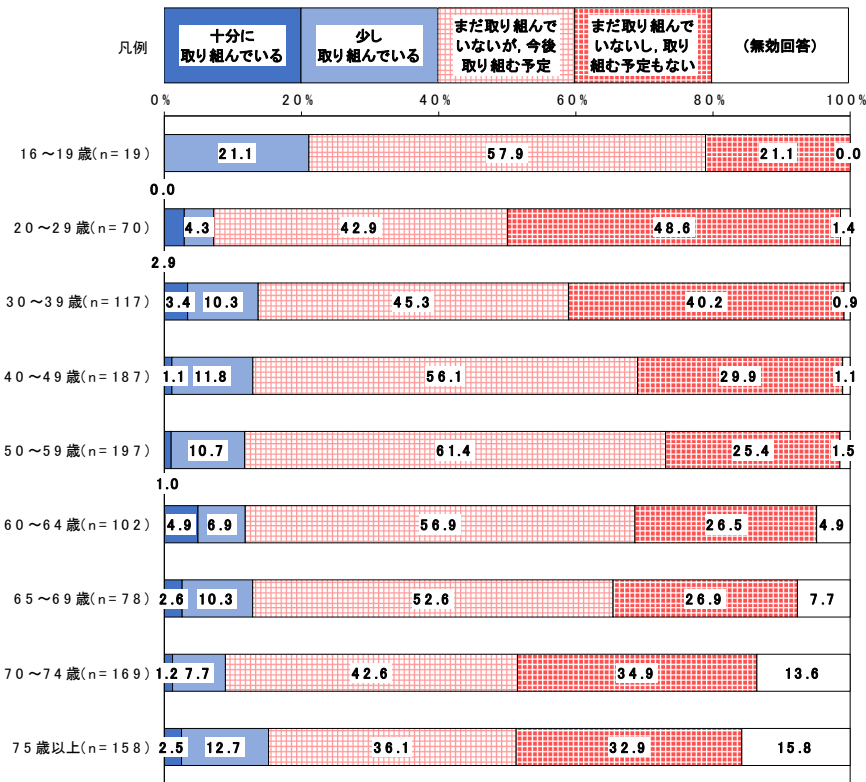
9 地域で日常的なつき合いの中で、災害時の協力体制を話し合っている



10 大雨等に備え、家庭でできる浸水防止方法の確認をしている

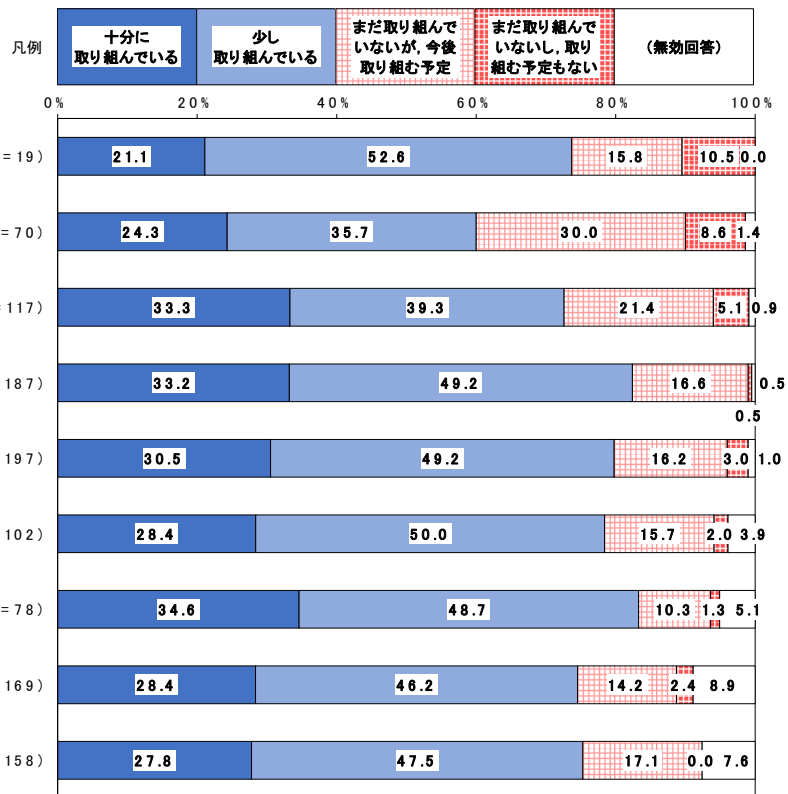


11 マイ・タイムライン[※]を作成している



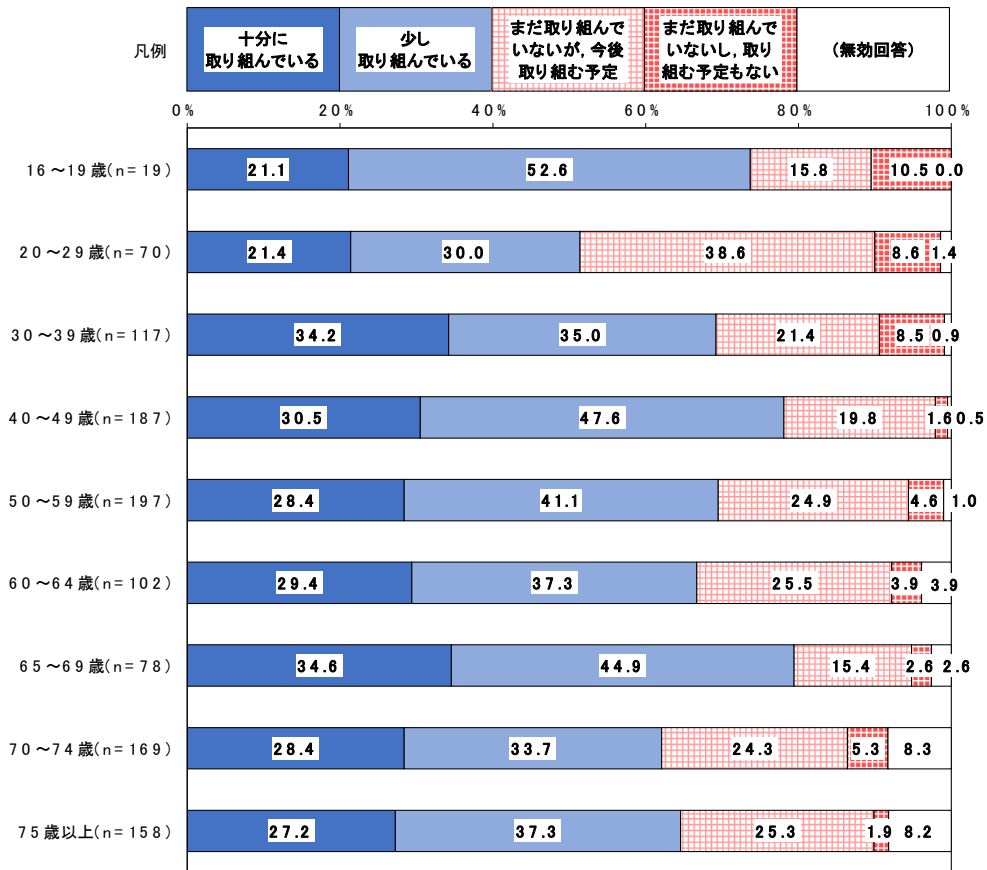
※マイ・タイムラインとは、台風や大雨の水害等、これから起きるかもしれない災害に対し、一人ひとりの家族構成や生活環境に合わせて、「いつ」、「誰が」、「何をするのか」をあらかじめ時系列で整理した自分自身の防災行動計画のことです。

12 ラジオや懐中電灯など、非常時の持出品を用意している

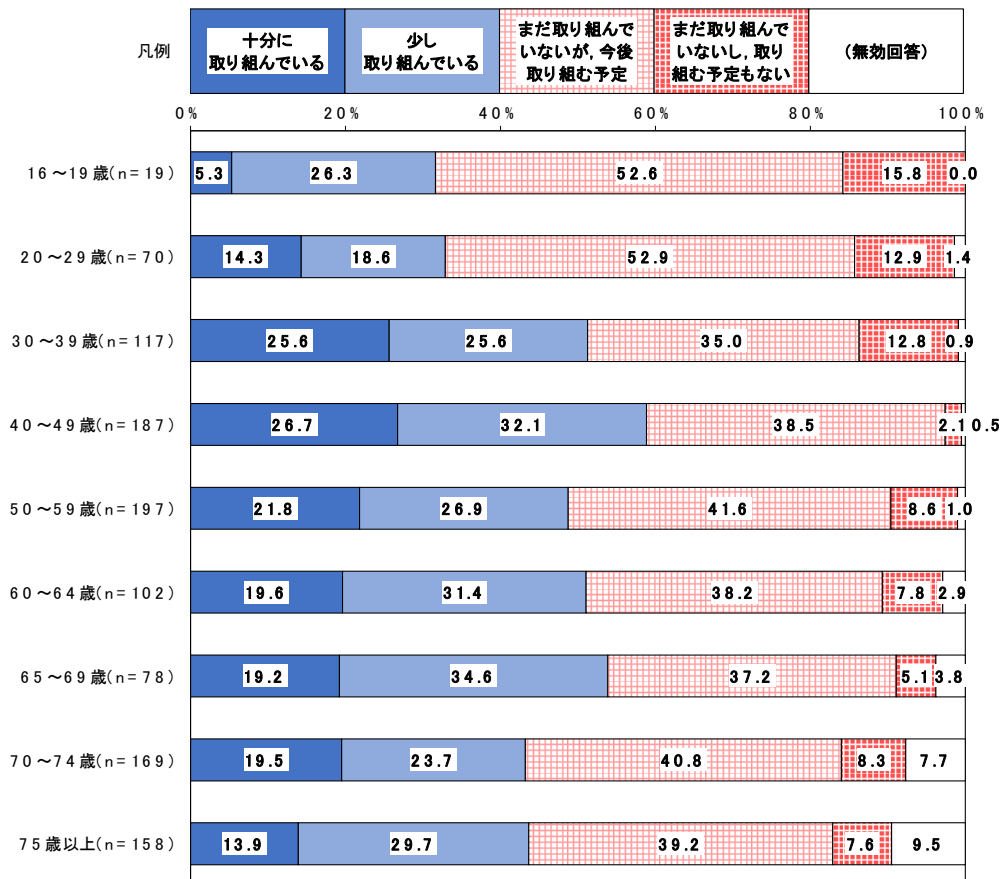


第3章 調査結果<日ごろの意識や行動>

13 災害時を意識して、水や食料品などを3日分以上備蓄している



14 簡易トイレの備蓄など、非常時のトイレ対策をしている



<自由記述>主な意見を抜粋

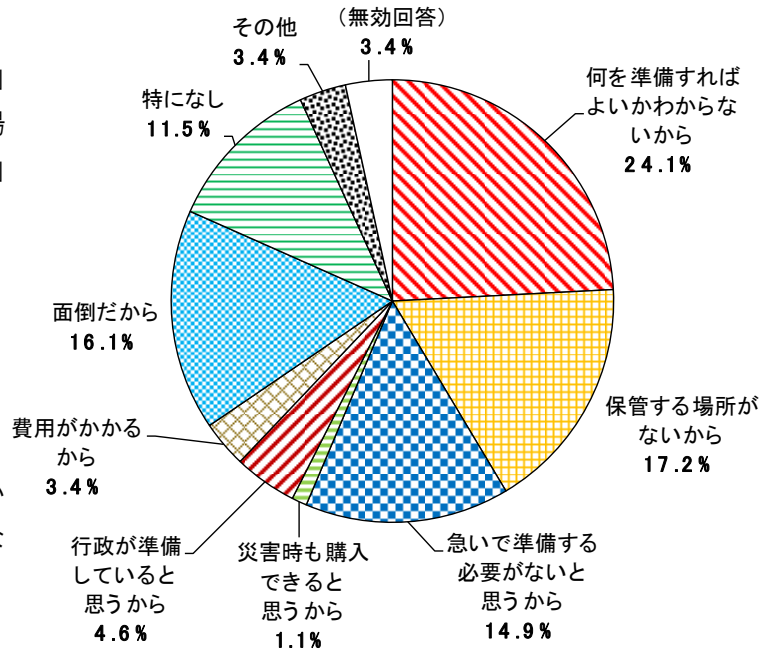
【図表 防災対策についてのご意見・ご提案】(67件)

- ・ オンラインで防災対策についての動画を流して、いつでもどこでも視聴できるコンテンツを作成するのもよいのではないのでしょうか。
- ・ 多摩川の氾濫の危険性を防災アナウンス、メール、HP で細かく早めの段階から予想も含めて情報提供する。
- ・ ペット可の避難所を作ってほしい。
- ・ 調布市の放送が聞こえにくいので、聞こえやすい工夫をしてほしい。何を言っているのか分からないことがある。
- ・ 避難所は、限られた被災者しか入れないことを広報した方がよい。

問 20-1) 問 20 の「ラジオや懐中電灯など、非常時の持出品を用意している」「災害時を意識して、水や食料品などを3日分以上備蓄している」「簡易トイレの備蓄など、非常時のトイレ対策をしている」について、「まだ取り組んでいないし、取り組む予定もない」と回答した主な理由をお聞かせください。

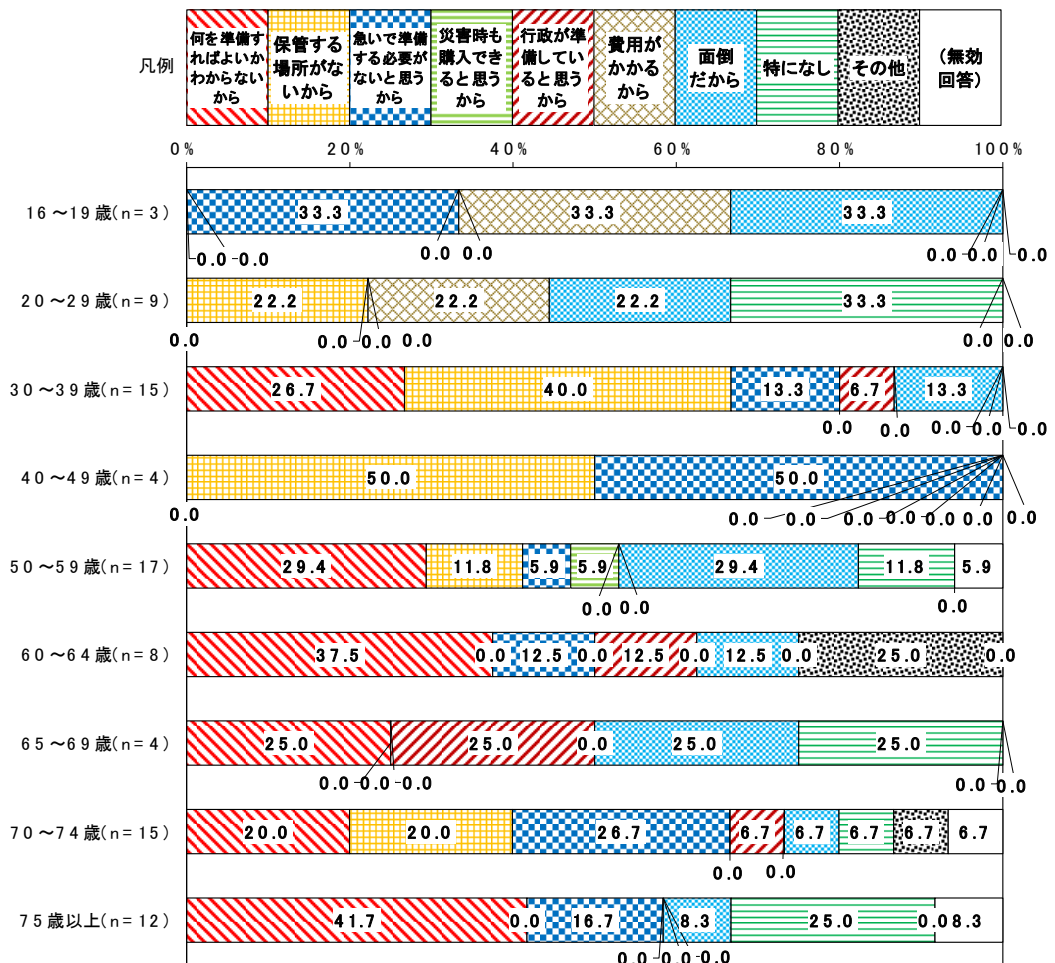
<全体 (n=87) >

○「何を準備すればよいかわからないから」が24.1%で最も高く、次いで「保管する場所がないから」の17.2%、「面倒だから」の16.1%の順となっています。



<年齢層別>

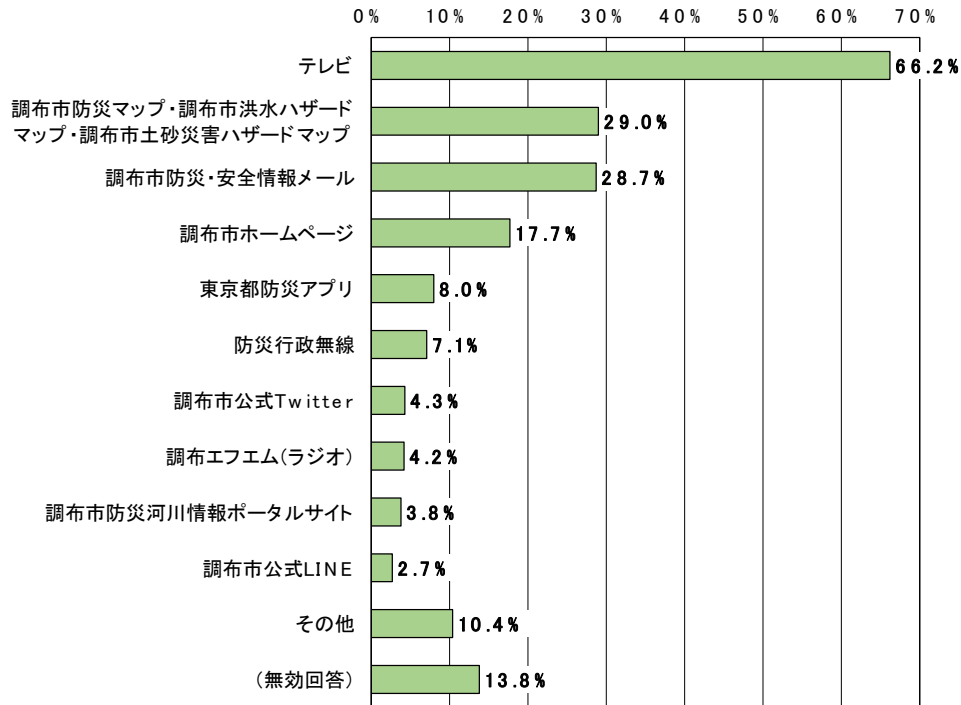
○75歳以上で「何を準備すればよいかわからないから」が、他の年齢層に比べ高くなっています。



問 21) あなたは台風や地震等の災害時にどのように情報を得ていますか。

<全体 (n=1105) >

○「テレビ」が66.2%で最も高く、次いで「調布市防災マップ・調布市洪水ハザードマップ・調布市土砂災害ハザードマップ」の29.0%、「調布市防災・安全情報メール」の28.7%の順となっています。



<年齢層別>

○すべての年齢層で「テレビ」が最も高く、16～64歳は概ね「調布市防災・安全情報メール」、65歳以上は「調布市防災マップ・調布市洪水ハザードマップ・調布市土砂災害ハザードマップ」の順となっています。

選択肢	合計	16～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75歳以上
全体	1,105	19	70	117	187	197	102	78	169	158
テレビ	731	10	48	69	112	114	67	60	128	117
調布市防災マップ・調布市洪水ハザードマップ・調布市土砂災害ハザードマップ	321	2	7	21	63	53	26	22	60	65
調布市防災・安全情報メール	317	4	9	33	75	74	32	18	34	33
調布市ホームページ	196	3	7	24	36	36	19	17	28	26
東京都防災アプリ	88	2	2	8	16	14	19	7	10	9
防災行政無線	78	3	3	5	10	7	6	7	21	15
調布市公式Twitter	47	1	8	12	9	13	3	0	1	0
調布エフエム(ラジオ)	46	1	1	0	4	5	5	5	14	11
調布市防災河川情報ポータルサイト	42	0	1	7	7	10	4	2	5	6
調布市公式LINE	30	0	0	5	8	2	2	4	4	5
その他	115	3	13	16	26	25	8	3	13	6
(無効回答)	152	5	6	16	25	28	16	8	23	24

(上段：実数(人)，下段：構成比)

回答割合が最も高い：

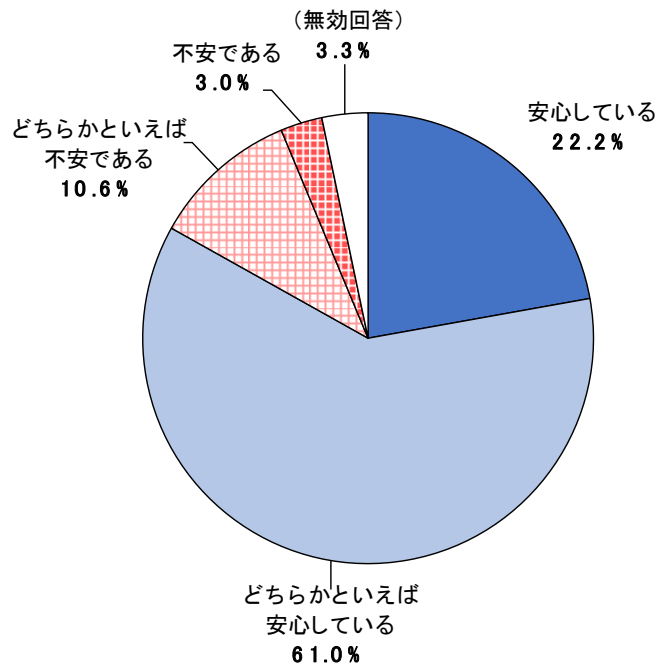
回答割合が2番目に高い：

【防犯対策について】

問22) あなたは、自分の住んでいる地域が治安の面で安心して暮らせる場所だと感じていますか。

<全体 (n=1105) >

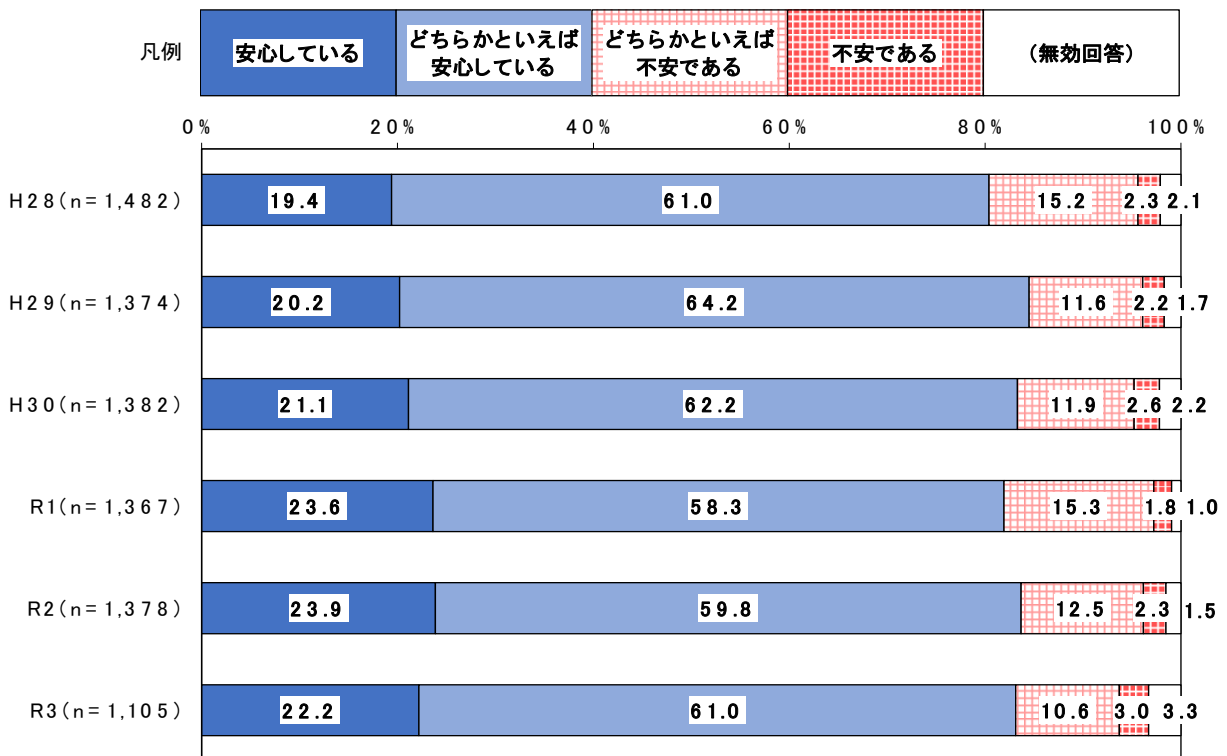
○「安心してしている」は22.2%、「どちらかといえば安心してしている」は61.0%であり、合計83.2%を占めています。



<経年比較>

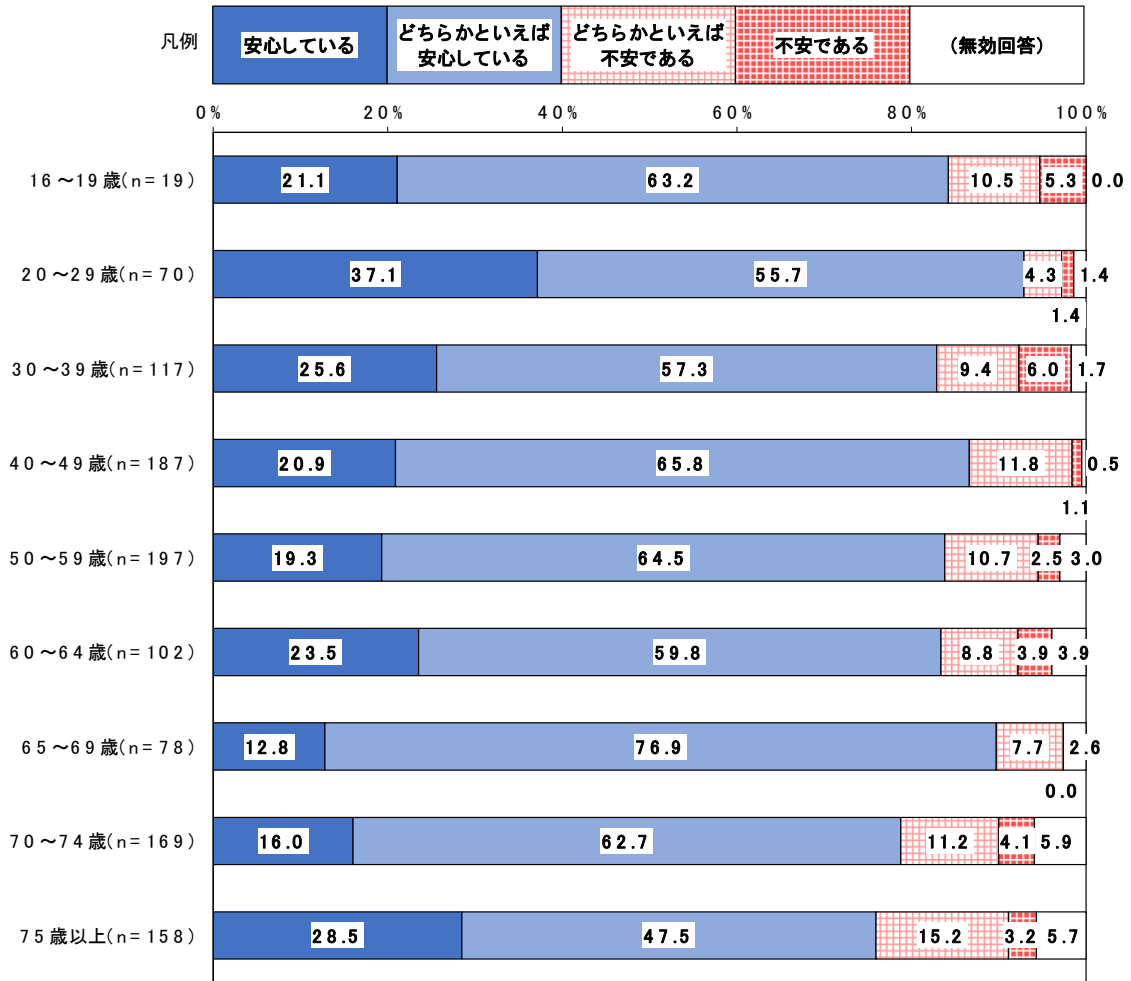
○「安心してしている」、「どちらかといえば安心してしている」の合計 (83.2%) は、令和2年度 (83.7%) に比べ0.5ポイント減少しています。

○一方、「不安である」、「どちらかといえば不安である」の合計 (13.6%) は、令和2年度 (14.8%) に比べ1.2ポイント減少しています。



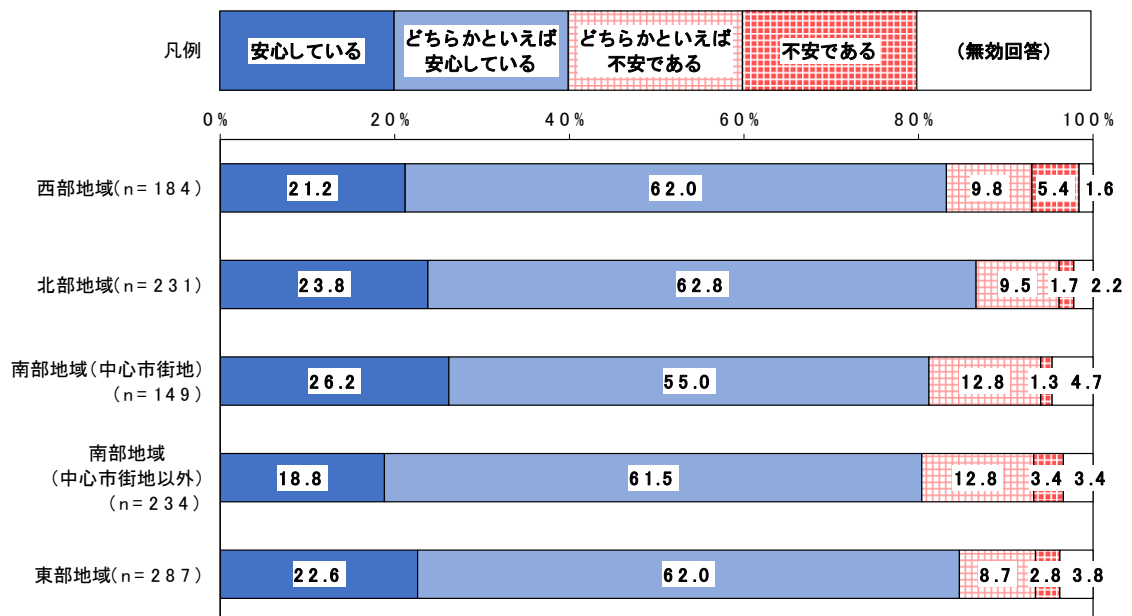
<年齢層別>

○70歳以上を除いた年齢層で、「安心している」と「どちらかといえば安心している」の合計が80%以上を占めています。



<地域別>

○いずれの地域でも、「安心している」と「どちらかといえば安心している」の合計が80%以上を占めています。



第3章 調査結果<日ごろの意識や行動>

<自由記述>主な意見を抜粋

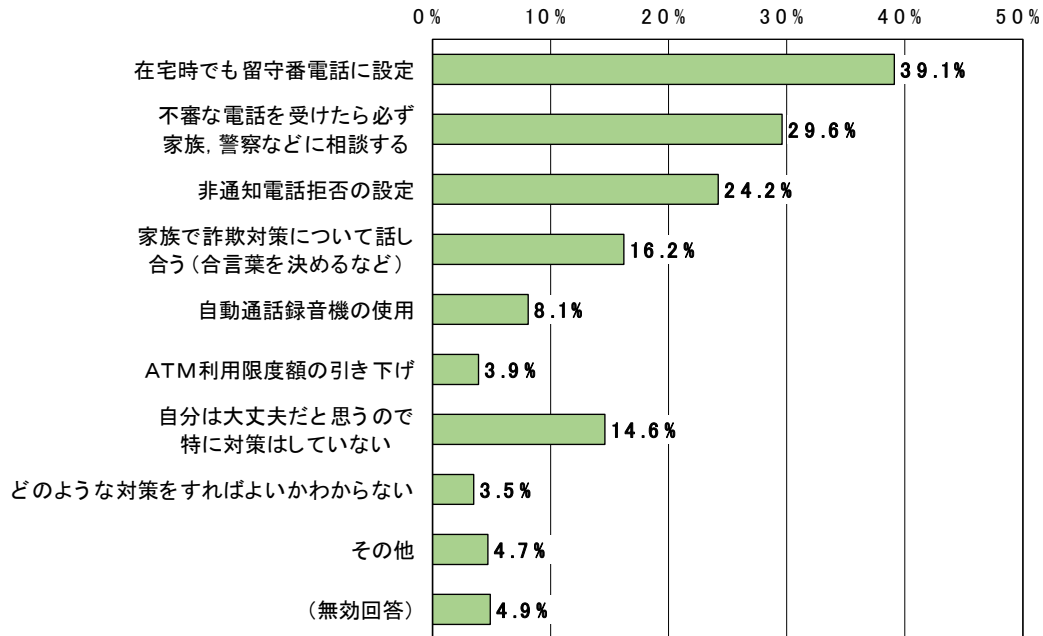
【図表 住んでいる地域が安心, または不安と感じる理由】(212件)

「安心している」「どちらかといえば安心している」	「どちらかといえば不安である」「不安である」
<ul style="list-style-type: none">・ 不審者が少なく感じる。賃貸だが建物内に防犯カメラが設置されているから。・ 近所の人達のつながりが深く, 安心である。・ 交番が近く, よくパトロールしてくれている。	<ul style="list-style-type: none">・ コロナ禍で治安がこれからどうなるのか漠然とした不安があります。・ 場所により街灯が少なく夜道に不安。ついていても暗い, 間隔が広い等も。・ 夜間の人通りが少ない。公共の防犯カメラの未設置。・ 日中はのんびりとすごせているが, 夜調布駅の広場などを通ると若物達が騒いでいるのをよく目にするので, そういう点で不安を感じる時がある。

問 23) あなたは、特殊詐欺※被害防止のためにどのような対策をしていますか。

<全体 (n=1105) >

○特殊詐欺への対策は、「在宅時でも留守番電話に設定」が 39.1%で最も高く、「不審な電話を受けたら必ず家族、警察などに相談する」の 29.6%、「非通知電話拒否の設定」の 24.2%の順となっています。



※特殊詐欺とは、不特定の人に対して直接顔を合わせることなく、電話やメールなどを使い、嘘を言って信じこませ、犯人の銀行口座に現金を振り込ませたりする等、現金などをだまし取る犯罪のことです。

<年齢層別>

○特殊詐欺への対策は、16~19歳、40歳以上で「在宅時でも留守番電話に設定」、20~39歳で「不審な電話を受けたら必ず家族、警察などに相談する」が最も高くなっています。

選択肢	合計	16~19歳	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~64歳	65~69歳	70~74歳	75歳以上
全体	1,105	19	70	117	187	197	102	78	169	158
在宅時でも留守番電話に設定	432	7	7	11	53	98	57	44	76	75
不審な電話を受けたら必ず家族、警察などに相談する	327	3	20	32	49	55	23	30	54	58
非通知電話拒否の設定	267	0	17	27	49	44	30	19	45	34
家族で詐欺対策について話し合う(合言葉を決めるなど)	179	3	8	15	27	32	13	14	28	37
自動通話録音機の使用	89	2	4	4	6	14	6	7	20	26
ATM利用限度額の引き下げ	43	0	0	5	11	10	4	4	4	4
自分は大丈夫だと思うので特に対策はしていない	161	4	17	35	37	27	10	6	14	11
どのような対策をすればよいかわからない	39	3	4	10	9	4	1	1	5	2
その他	52	0	5	5	7	11	4	3	7	9
(無効回答)	54	0	2	3	6	7	5	4	12	14

(上段：実数(人)，下段：構成比)

回答割合が最も高い：

回答割合が2番目に高い：

第3章 調査結果<日ごろの意識や行動>

<自由記述>主な意見を抜粋

【図表 防犯対策についてのご意見・ご提案】(47件)

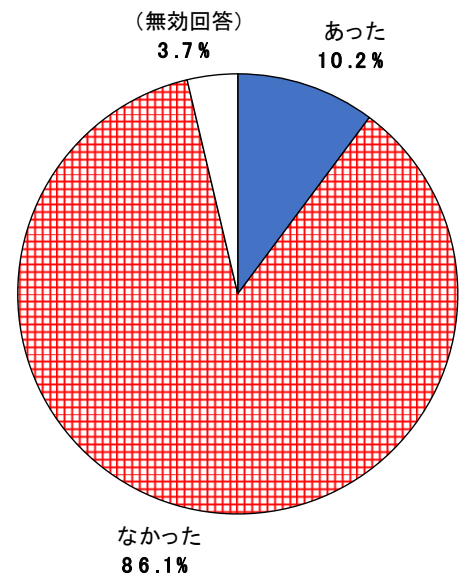
- ・ だまされないようにしたいが、手口や、具体的なやりとりの例などもっと公開してほしい。
- ・ ナンバーディスプレイの機能の活用。
- ・ 外灯を暗い場所に取り付ける（暗い公園が多い）。
- ・ 監視カメラを増やす。

【各種相談について】

問24) あなたは、この1年間に日常生活の中で、身に覚えのない請求や、しつこい勧誘など、消費生活に関するトラブルに巻き込まれそうになった経験がありますか。

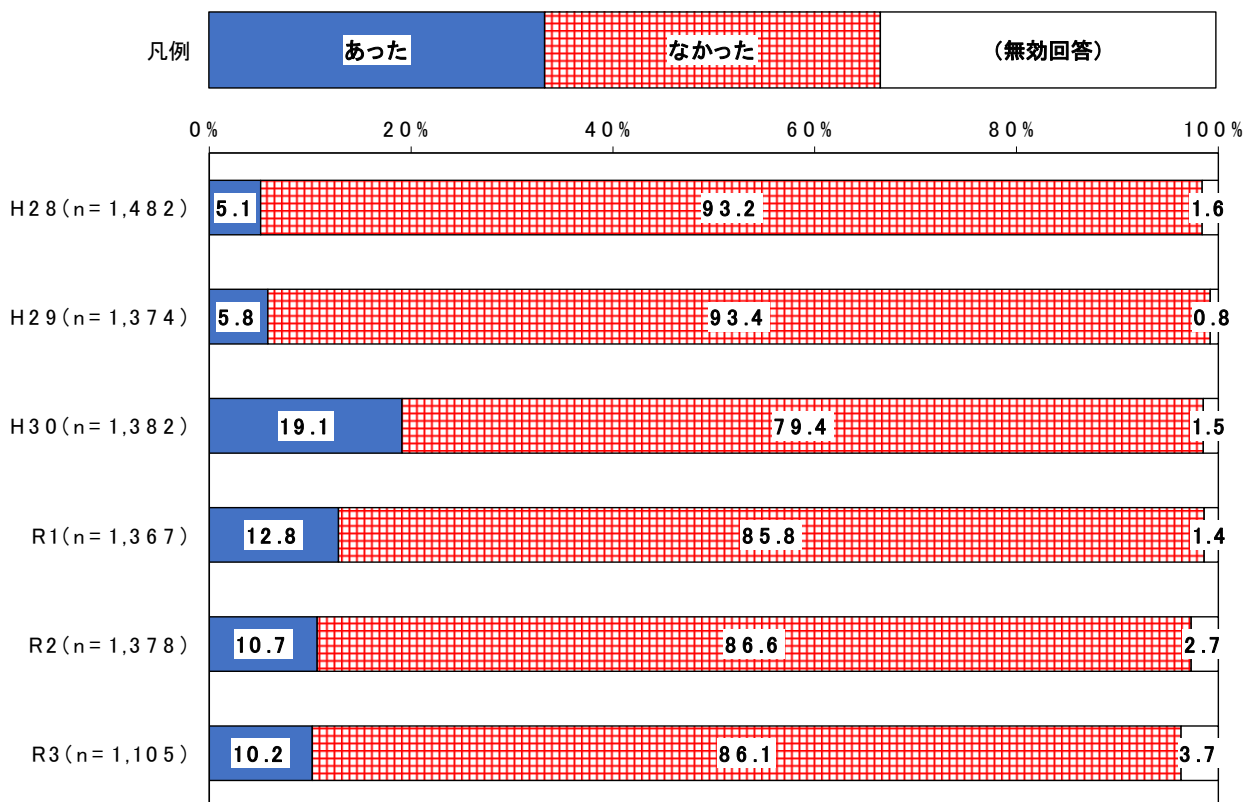
<全体 (n=1105) >

○消費生活上のトラブルに巻き込まれそうになった経験が「あった」は10.2%、「なかった」は86.1%となっています。



<経年比較>

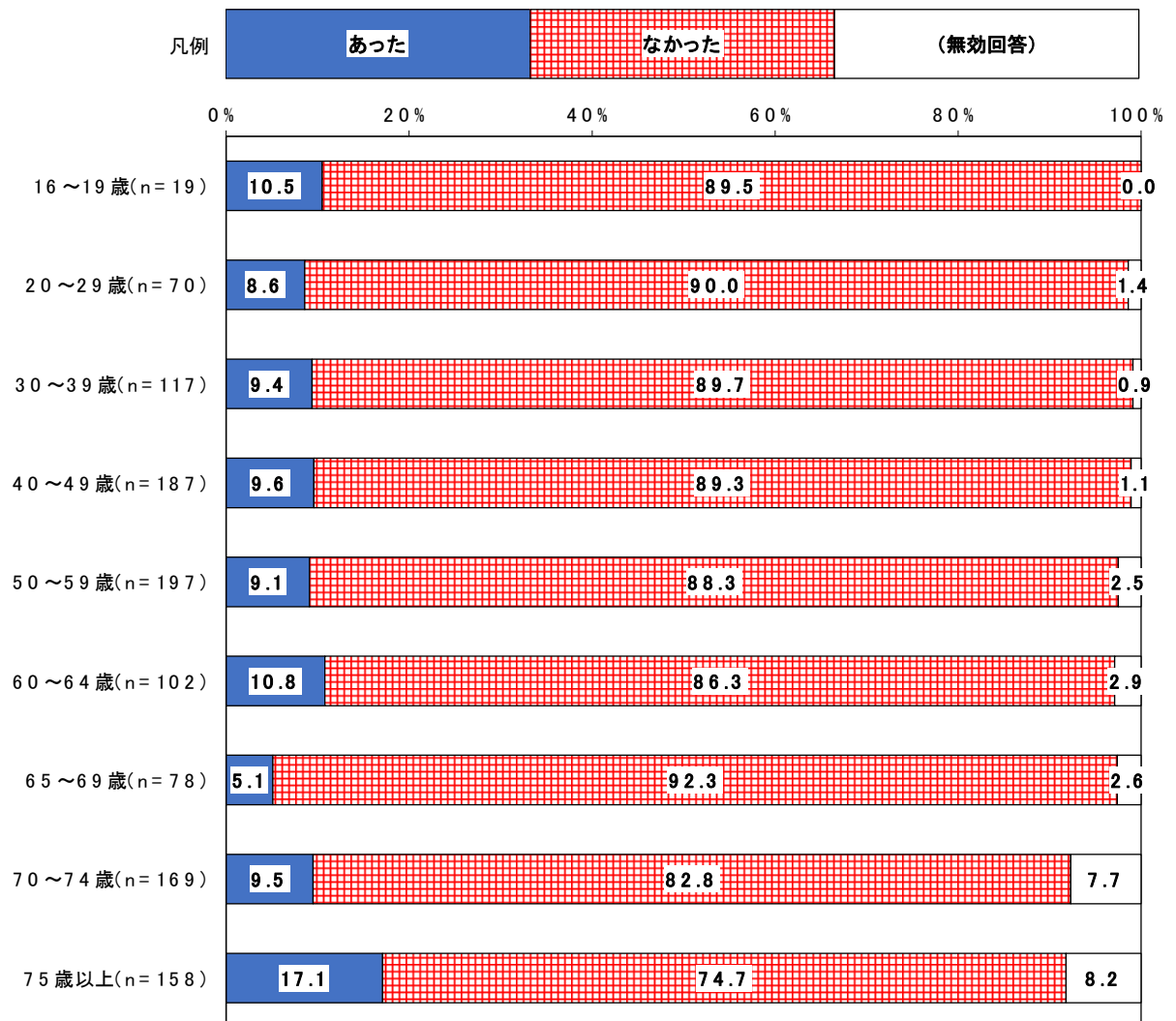
○消費生活上のトラブルに「あった」は、平成30年度以降、減少傾向にあり、令和3年度(10.2%)は、令和2年度(10.7%)に比べ0.5ポイント減少しています。また、「なかった」も令和3年度(86.6%)に比べ、0.5ポイント減少しています。



第3章 調査結果<日ごろの意識や行動>

<年齢層別>

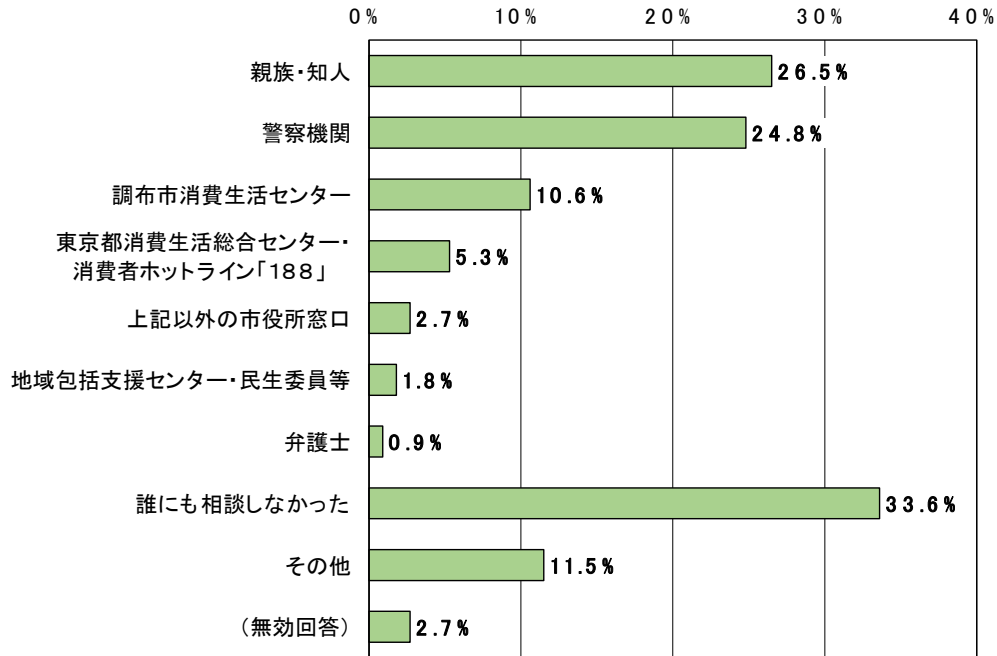
○75歳以上は、他の年齢層と比べて、消費生活上のトラブルに「あった」が高くなっています。



問 24-1) トラブルに巻き込まれそうになった際、どちらかへ相談しましたか。

<全体 (n=113) >

○「親族・知人」が26.5%で最も高く、次いで「警察機関」の24.8%の順となっています。また、「誰にも相談しなかった」は33.6%となっています。



<年齢層別>

○いずれの年齢層においても、おおむね「警察機関」,「親族・知人」への相談が高くなっています。

選択肢	合計	16~19歳	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~64歳	65~69歳	70~74歳	75歳以上
全体	113	2	6	11	18	18	11	4	16	27
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
親族・知人	30	1	2	3	3	6	1	0	4	10
	26.5%	50.0%	33.3%	27.3%	16.7%	33.3%	9.1%	0.0%	25.0%	37.0%
警察機関	28	0	0	4	3	1	2	2	6	10
	24.8%	0.0%	0.0%	36.4%	16.7%	5.6%	18.2%	50.0%	37.5%	37.0%
調布市消費生活センター	12	1	0	2	2	2	0	1	2	2
	10.6%	50.0%	0.0%	18.2%	11.1%	11.1%	0.0%	25.0%	12.5%	7.4%
東京都消費生活総合センター・消費者ホットライン「188」	6	0	0	1	1	0	1	1	2	0
	5.3%	0.0%	0.0%	9.1%	5.6%	0.0%	9.1%	25.0%	12.5%	0.0%
上記以外の市役所窓口	3	0	0	0	1	0	0	0	0	2
	2.7%	0.0%	0.0%	0.0%	5.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	7.4%
地域包括支援センター・民生委員等	2	1	0	0	0	0	0	0	1	0
	1.8%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	6.3%	0.0%
弁護士	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0
	0.9%	0.0%	0.0%	9.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
誰にも相談しなかった	38	0	3	3	8	7	7	0	6	4
	33.6%	0.0%	50.0%	27.3%	44.4%	38.9%	63.6%	0.0%	37.5%	14.8%
その他	13	0	1	0	2	5	1	0	0	4
	11.5%	0.0%	16.7%	0.0%	11.1%	27.8%	9.1%	0.0%	0.0%	14.8%
(無効回答)	3	0	0	0	0	0	0	0	1	2
	2.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	6.3%	7.4%

(上段:実数(人), 下段:構成比)

回答割合が最も高い:

回答割合が2番目に高い:

【地域福祉・高齢者施策・障害者施策について】

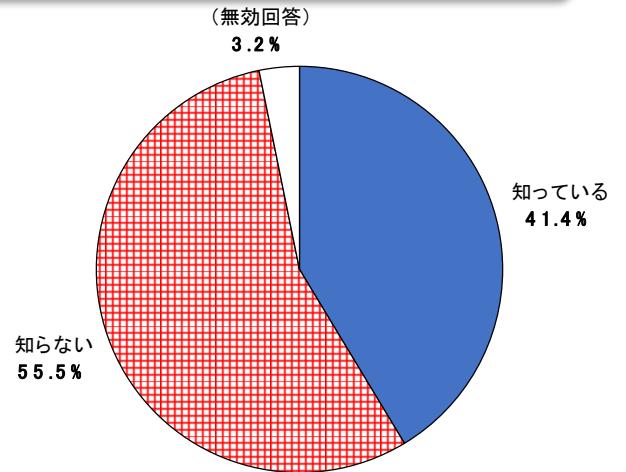
問 25) あなたは、地域福祉や高齢者福祉に関する次の相談窓口を知っていますか。

地域包括支援センター

<全体 (n=1105) >

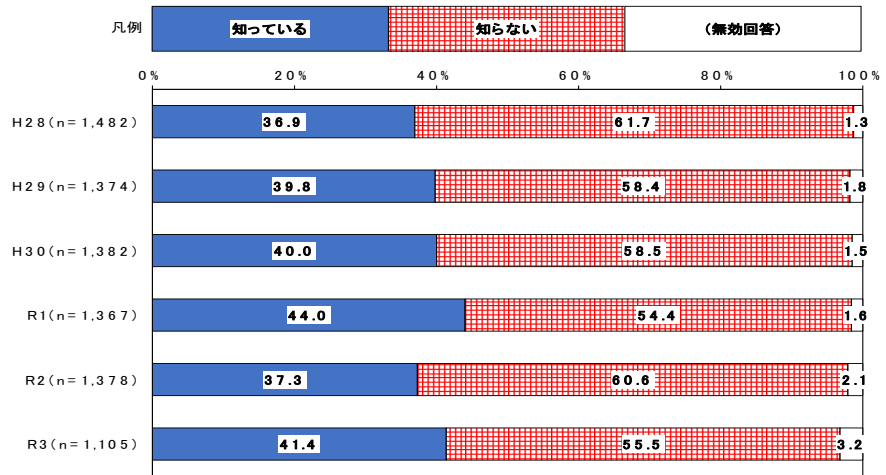
○「知っている」(41.4%)は、「知らない」(55.5%)
を 14.1 ポイント下回っています。

※地域包括支援センターは、市内 8 箇所・サブセンター
2 箇所では高齢者に関する様々な相談のほか、介護予防
ケアマネジメント業務、成年後見制度の利用手続や高
齢者虐待に関する相談などの権利擁護業務、包括的・
継続的ケアマネジメント支援業務等を行っています。



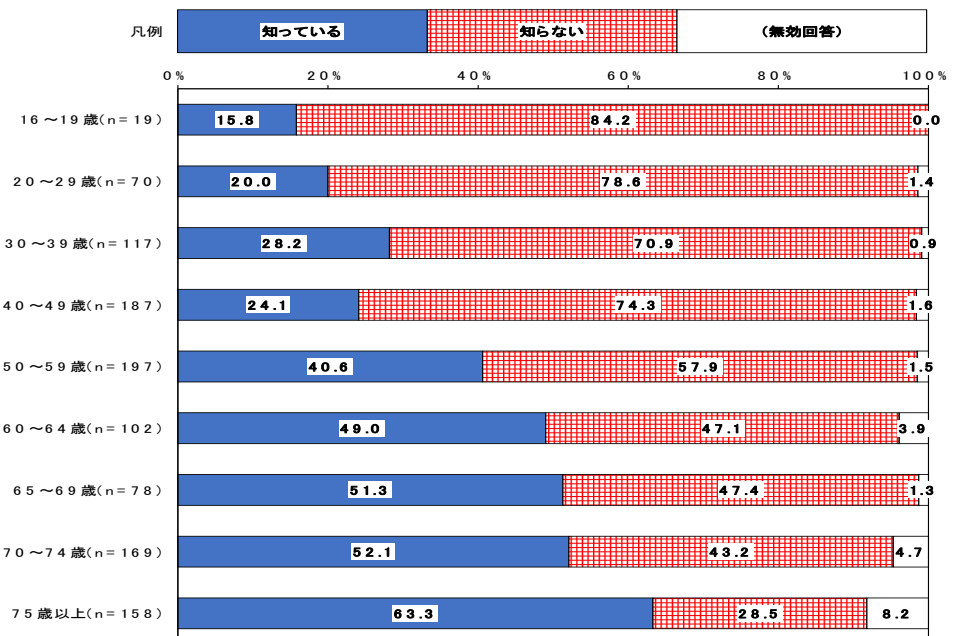
<経年比較>

○「知っている」(41.4%)は、令和 2 年度 (37.3%) に比べ 4.1 ポイント増加しています。



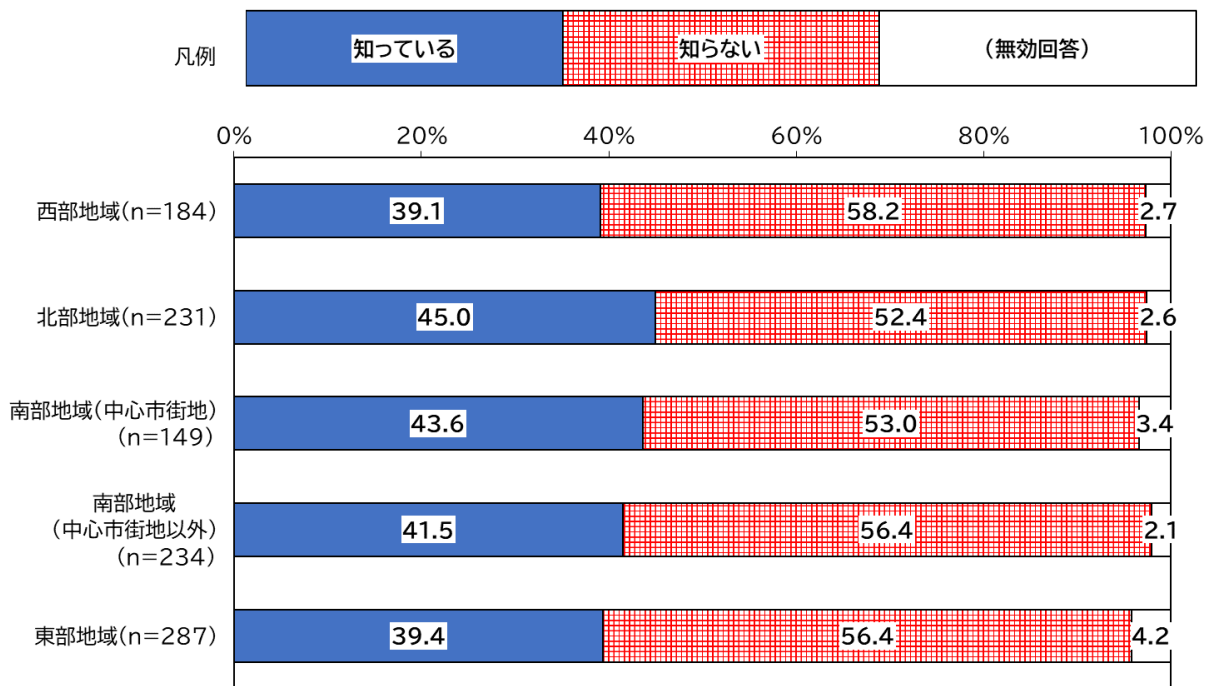
<年齢層別>

○「知っている」は年齢が上がるにつれて高くなる傾向にあり、50 歳以上では 40%を超えています。



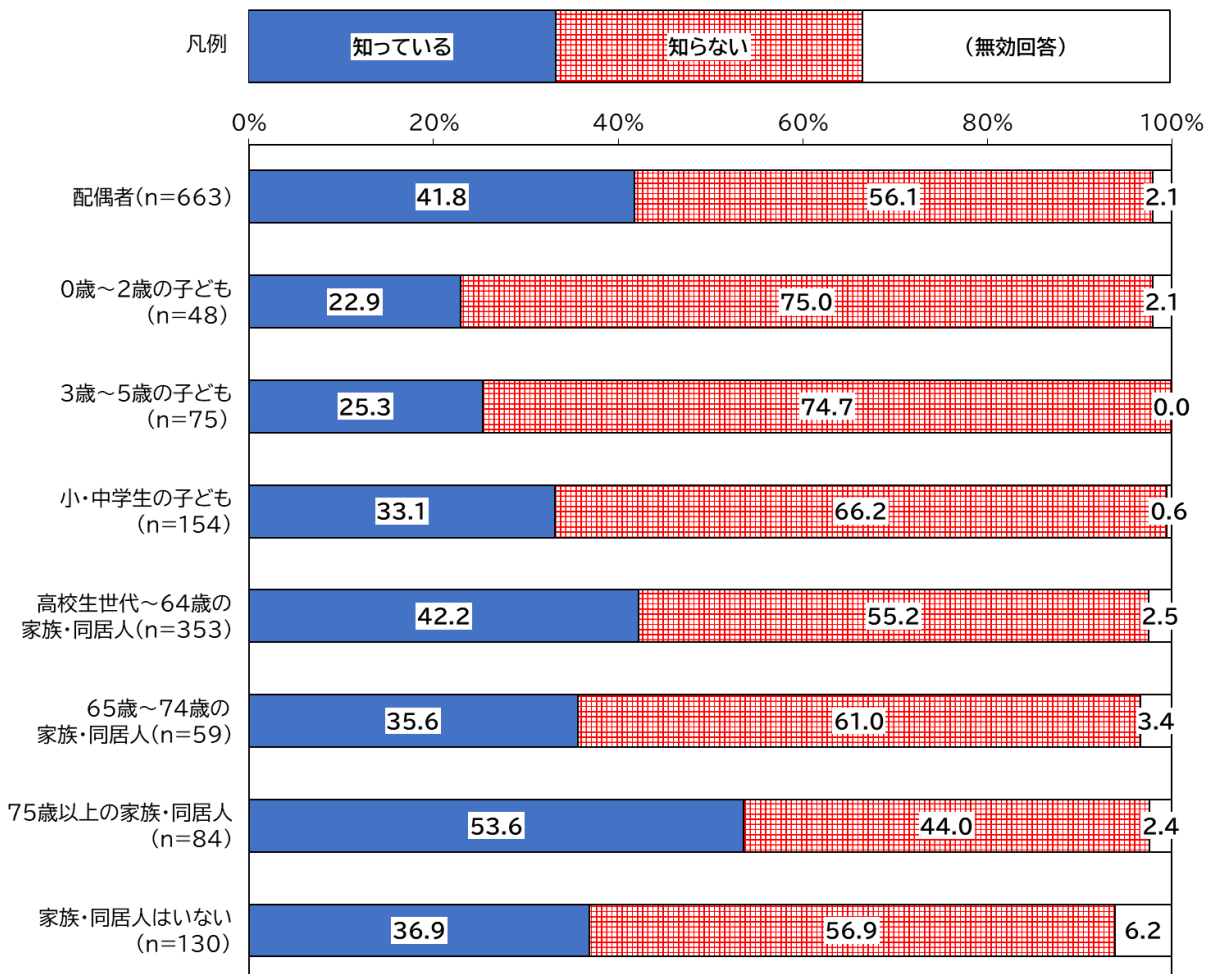
<地域別>

○いずれの地域でも「知っている」は40%前後となっており、「知らない」を下回っています。



<同居人別>

○75歳以上の同居人がいる方の「知っている」は、53.6%に上っています。



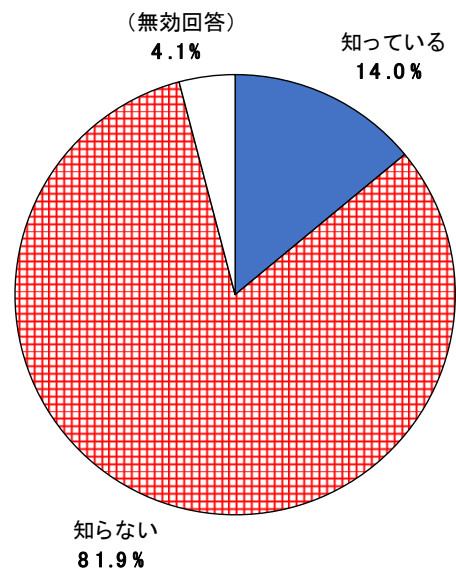
第3章 調査結果<日ごろの意識や行動>

地域福祉コーディネーター

<全体 (n=1105)>

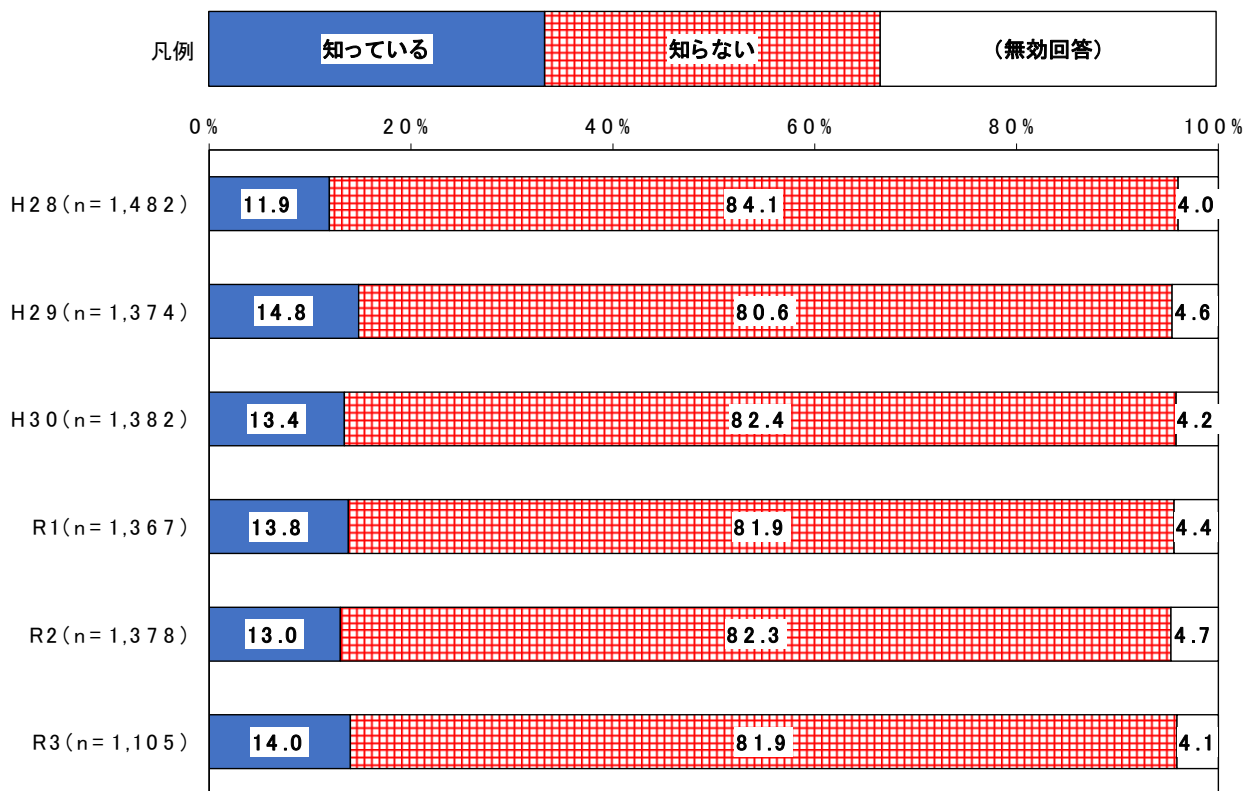
○「知っている」は14.0%であり、「知らない」の81.9%を大きく下回っています。

※地域福祉コーディネーターは、市内を8つに分けた福祉圏域にそれぞれ1人を配置し、既存の公的な福祉サービスだけでは十分な対応ができない方、制度の狭間で困っている方などに対し、地域の生活課題の解決に向けた相談・支援を行っています。



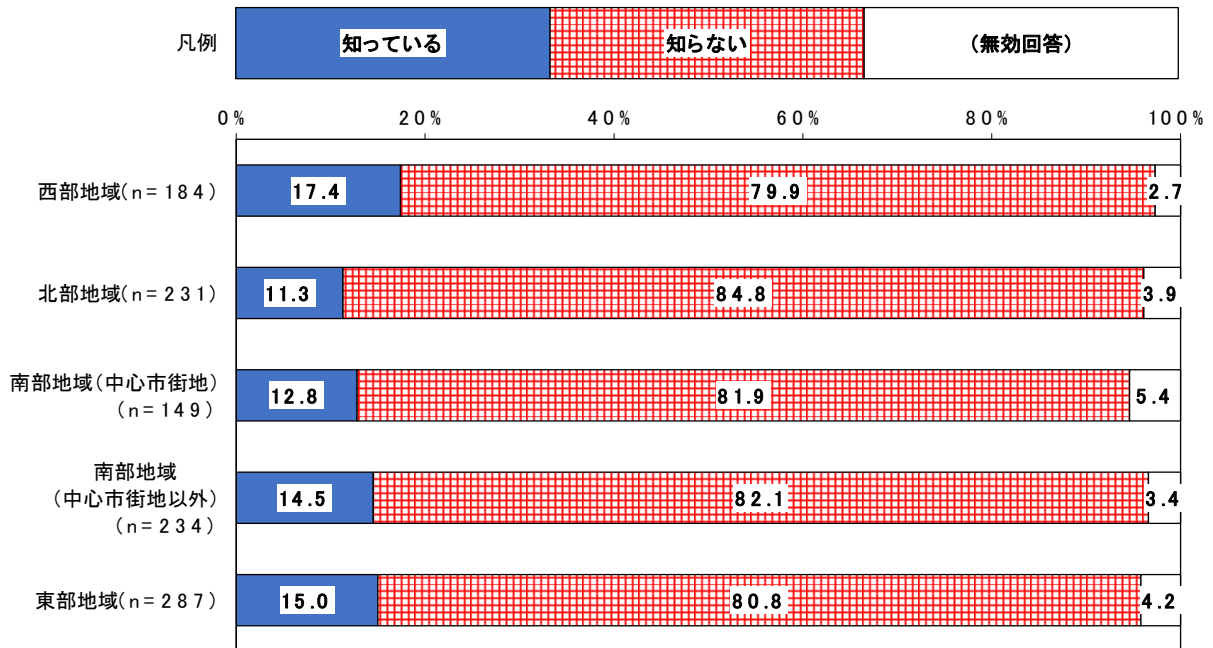
<経年比較>

○「知っている」は、平成28年度の11.9%から微増・微減を繰り返しながら推移し、令和3年度では14.0%となっています。



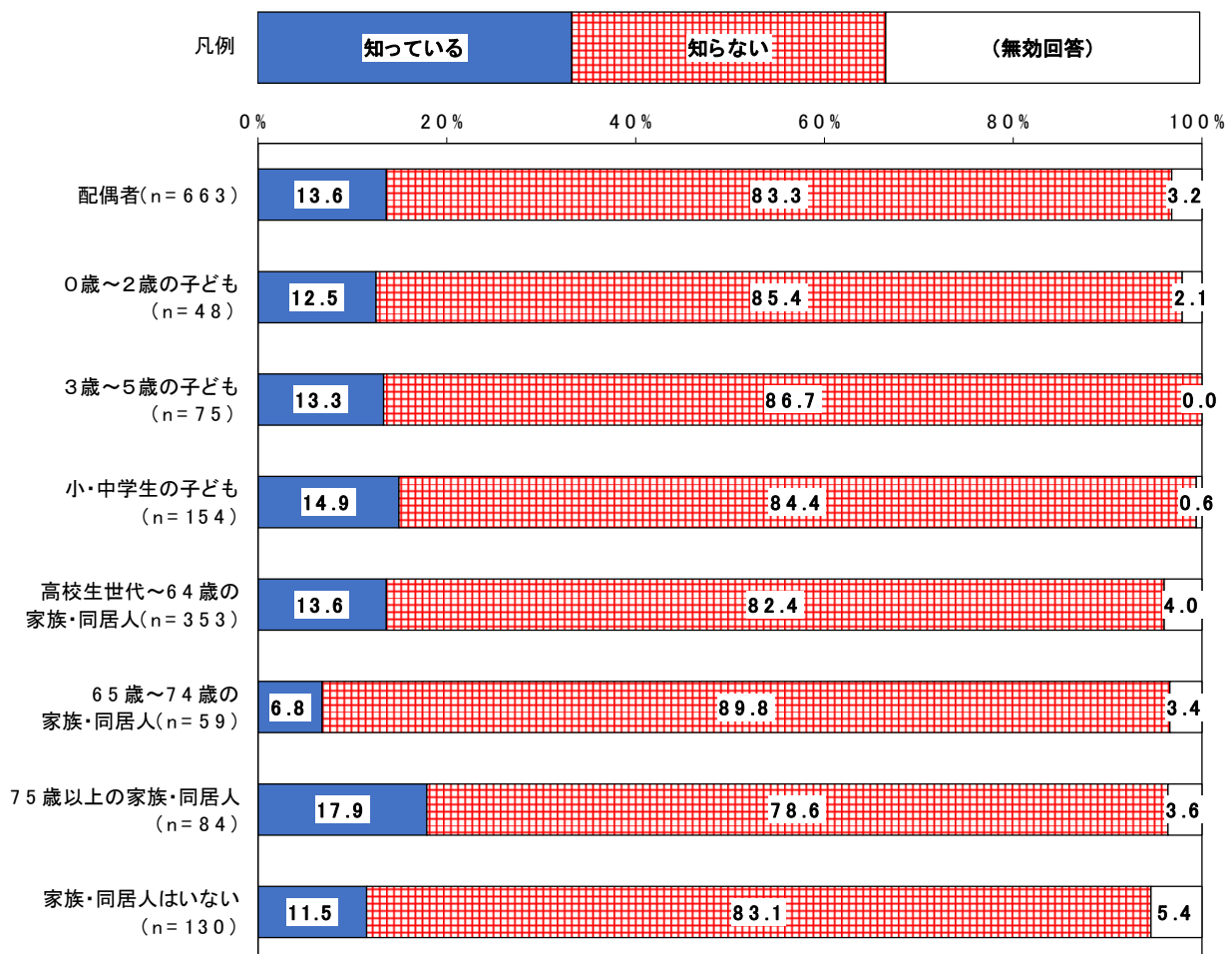
<地域別>

○いずれの地域でも「知っている」は10%台にとどまっており、「知らない」がおおむね80%台に上っています。



<同居人別>

○同居人がいずれの場合でも、「知っている」は20%を下回っています。

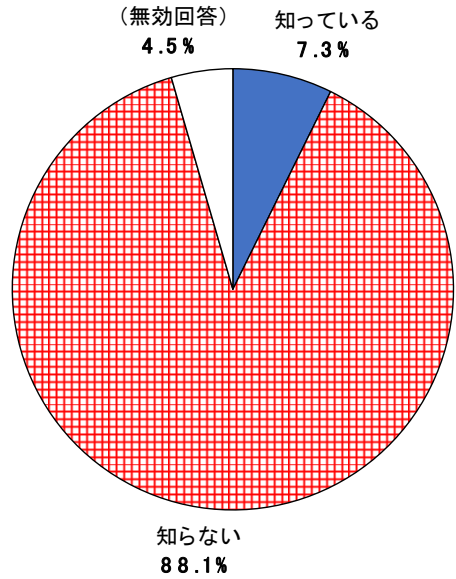


第3章 調査結果<日ごろの意識や行動>

地域支え合い推進員

<全体 (n=1105) >

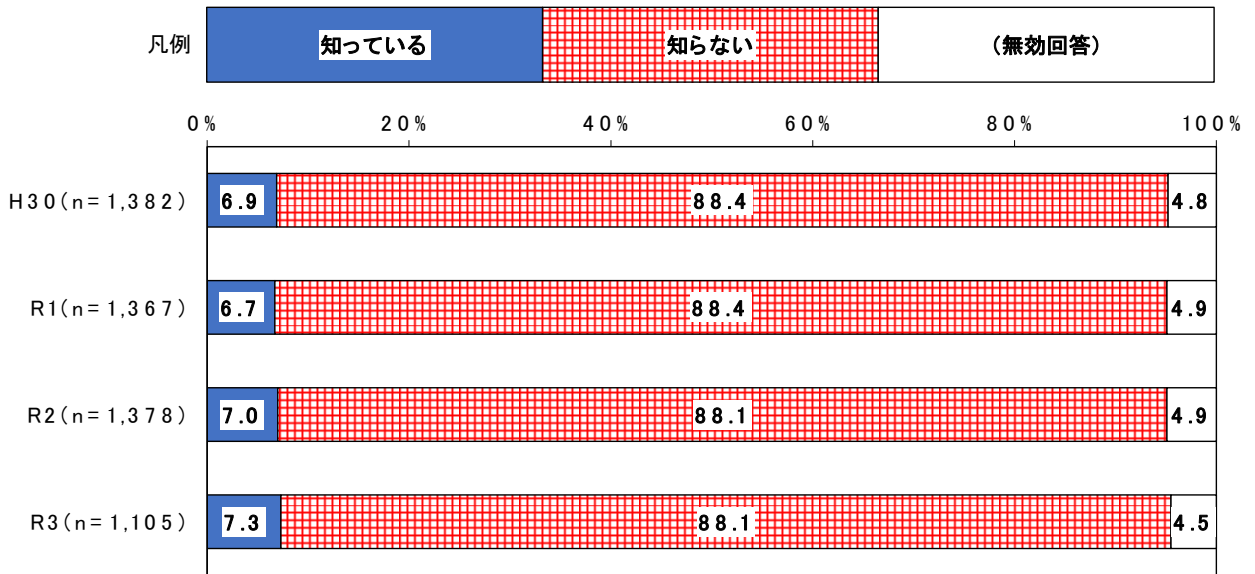
○「知っている」は7.3%、「知らない」は88.1%であり、後者が前者を大きく上回っています。



※地域支え合い推進員は、市全域を活動エリアとする推進員に加え、市内を8つに分けた福祉圏域に段階的に配置を進めています。介護予防や交流を目的とした活動に関する相談等に応じるなど、高齢者等が地域の中で安全・安心に暮らしていけるよう、生活支援・介護予防サービスの充実や強化に取り組んでいます。

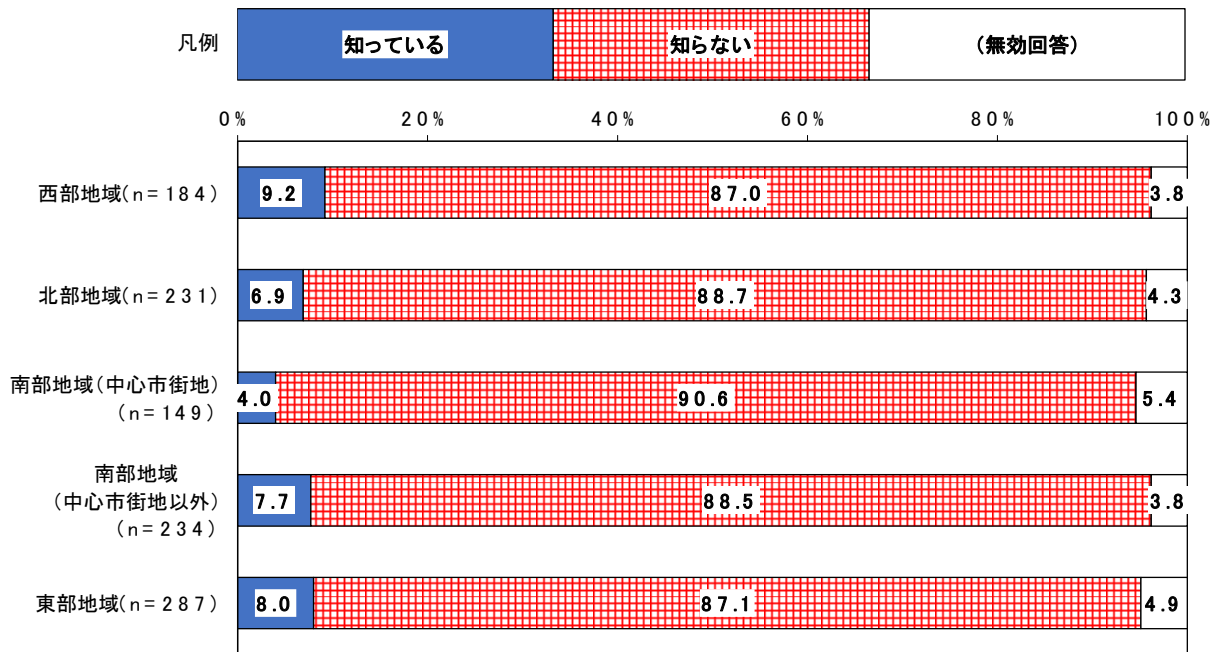
<経年比較>

○「知っている」は、平成30年度の6.9%からほぼ横ばいから微増で推移し、令和3年度では7.3%となっています。



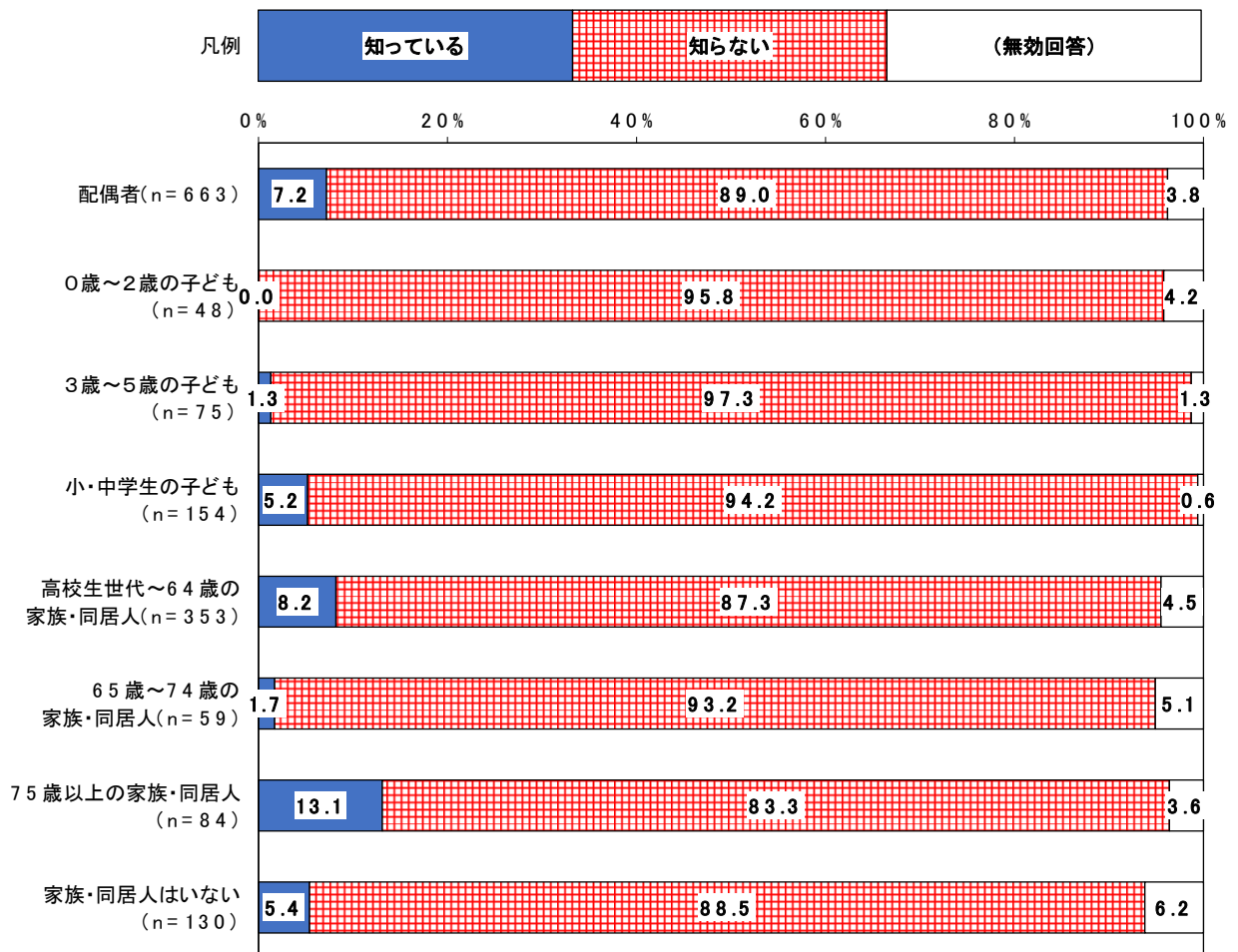
<地域別>

○いずれの地域でも「知っている」は10%未満であり、「知らない」が90%前後に上っています。



<同居人別>

○「75歳以上の家族・同居人」を除き、「知っている」は10%を下回っています。



第3章 調査結果<日ごろの意識や行動>

<自由記述>主な意見を抜粋

【図表 地域福祉，高齢者・障害者福祉についてのご意見・ご提案】（44件）

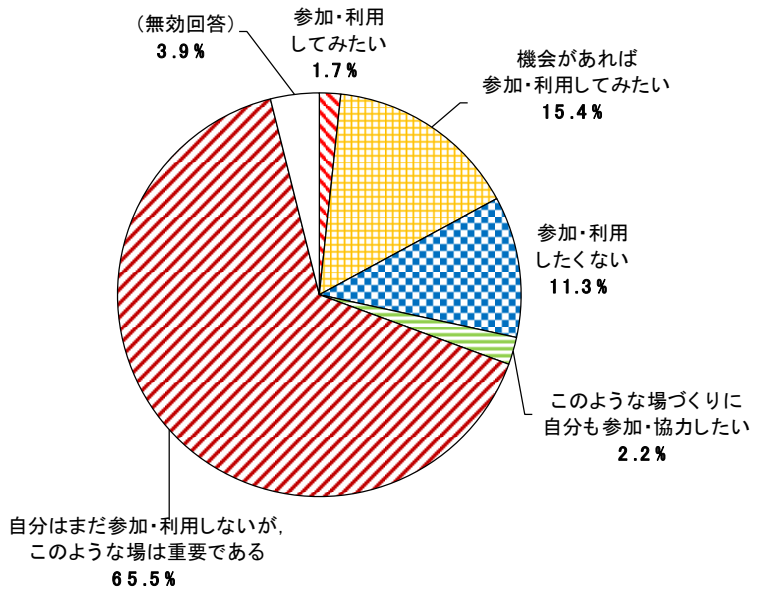
- ・地域福祉コーディネーター，地域支え合い推進員，知る機会がないので，もっと身近に感じられるように教えてほしいです。
- ・今後，高齢者が増えてくるので，気軽に相談や雑談ができる場を増やしてほしい。

問26) あなたは、地域における交流の場（「ひだまりサロン※」など）についてどのように感じますか。

<全体 (n=1105) >

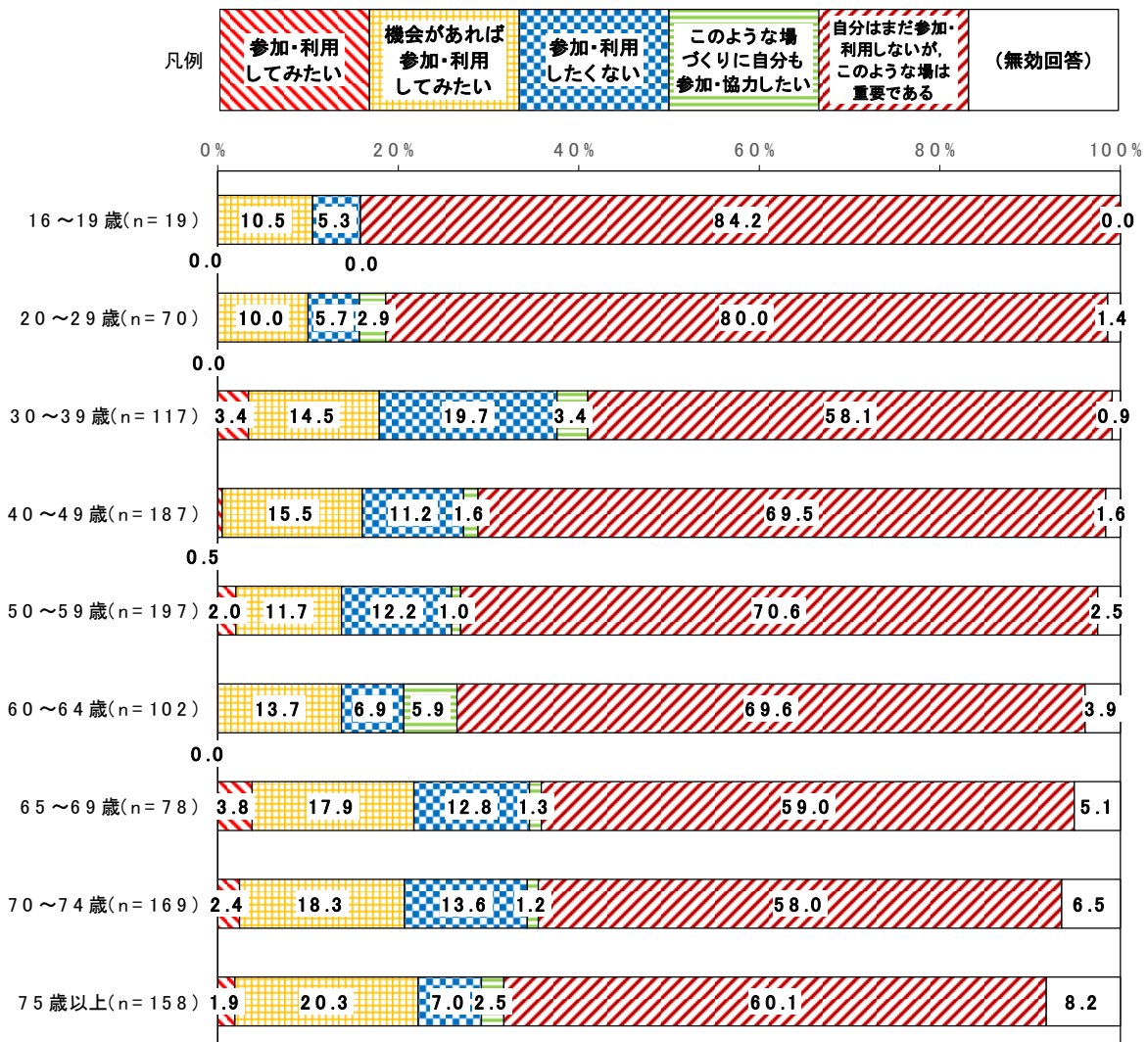
○「自分はまだ参加・利用しないが、このような場は重要である」が65.5%で最も高く、次いで「機会があれば参加・利用してみたい」の15.4%、「参加・利用したくない」の11.3%の順となっています。

※「ひだまりサロン」とは、市民が主体となり、自宅や公共施設等のスペースを活用して、ご近所同士など市民が気軽に集い、お茶やお食事をしながら、おしゃべりや趣味活動などを行う場です。市内にはひだまりサロン（令和4年1月1日現在98箇所）をはじめとした様々な交流活動の場があります。



<年齢層別>

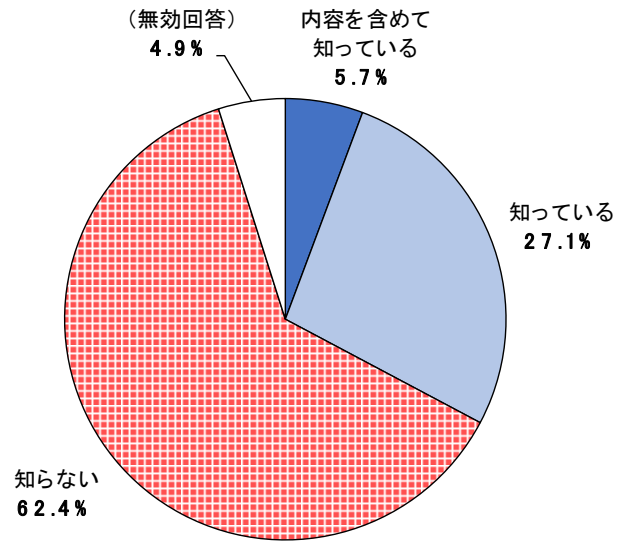
○「参加・利用してみたい」と「機会があれば参加・利用してみたい」の合計は、75歳以上が22.2%で最も高く、次いで65～69歳の21.7%となっています。



問27) あなたは、「障害者差別解消法※」を知っていますか。

<全体 (n=1105) >

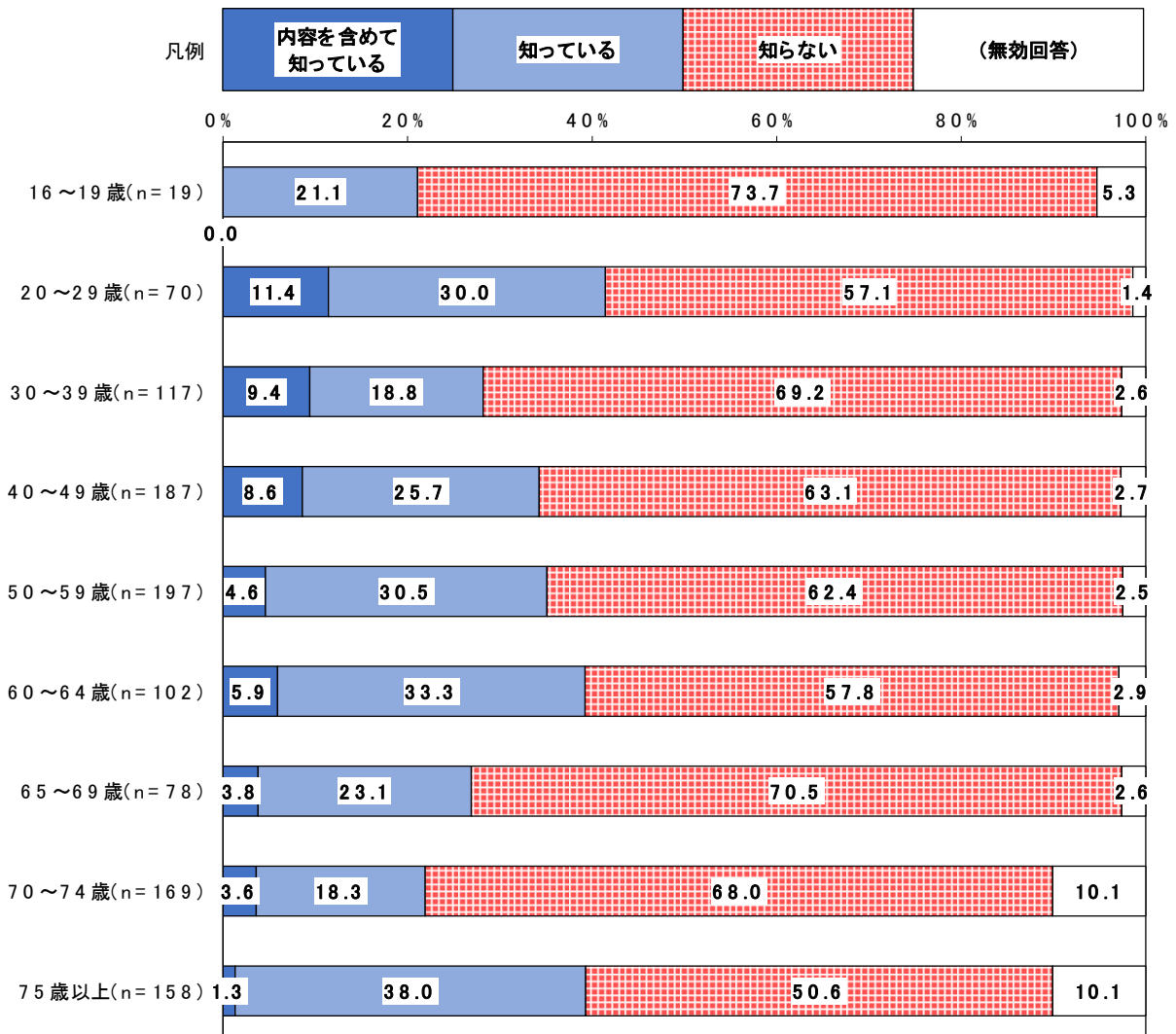
○「内容を含めて知っている」は5.7%、「知っている」は27.1%であり、合計で32.8%となっています。



※障害のある方への差別をなくすことで、障害のある方もない方も共に生きる社会（共生社会）を目指すため、国は、平成28年4月に「障害者差別解消法」を施行しました。この中で、差別とは「不当な差別的取扱いをすること」「合理的配慮をしないこと」とされています。

<年齢層別>

○20～29歳が、「内容を含めて知っている」、「知っている」の合計が41.4%で最も高く、次いで75歳以上の39.3%、60～64歳の39.2%の順となっています。

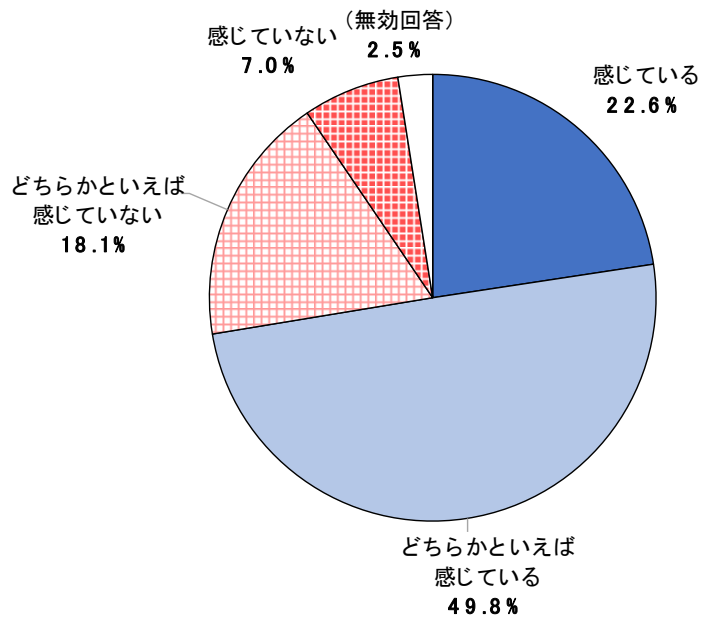


【健康づくりについて】

問 28) あなたは、心身ともに健康だと感じていますか。

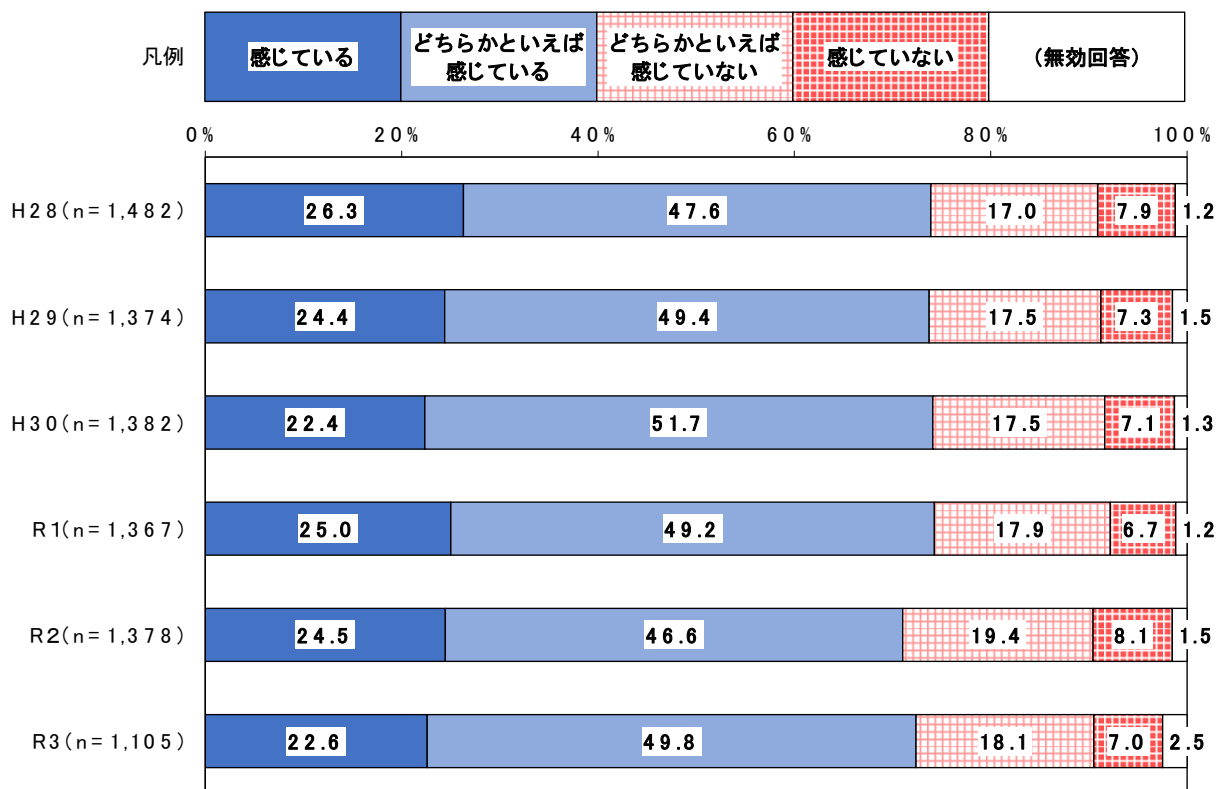
<全体 (n=1105) >

- 心身ともに健康だと「感じている」は 22.6%、「どちらかといえば感じている」は 49.8%であり、合計で 72.4%を占めています。
- 一方、「感じていない」と「どちらかといえば感じていない」の合計は 25.1%となっています。



<経年比較>

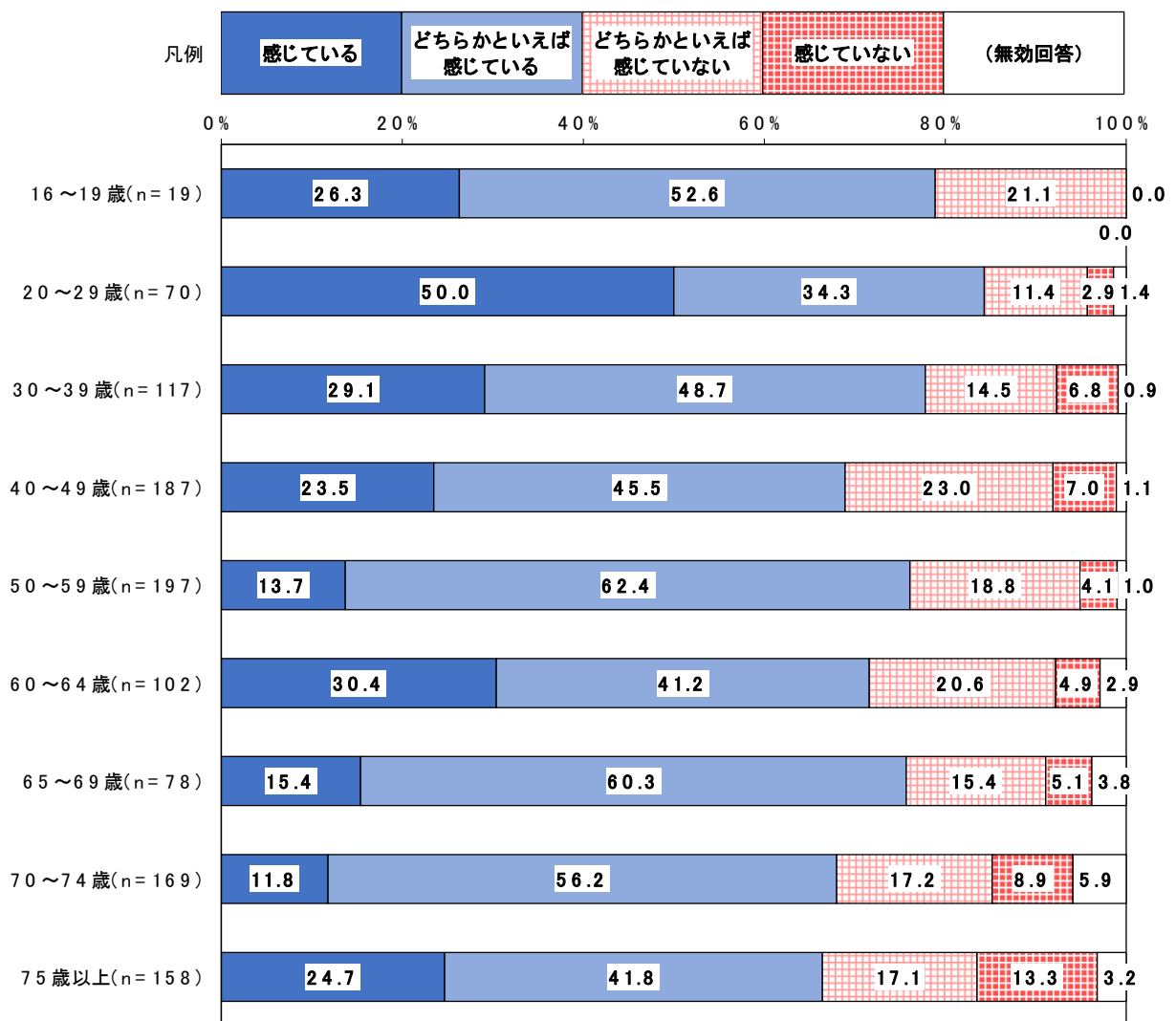
- 「感じている」、「どちらかといえば感じている」の合計 (72.4%) は、令和 2 年度 (71.1%) に比べ 1.3 ポイント増加しています。
- 一方、「感じていない」、「どちらかといえば感じていない」の合計 (25.1%) は、令和 2 年度 (27.5%) に比べ 2.4 ポイント減少しています。



第3章 調査結果<日ごろの意識や行動>

<年齢層別>

○「感じている」と「どちらかといえば感じている」の合計は、全ての年齢層で60%を超えています。



<自由記述>主な意見を抜粋

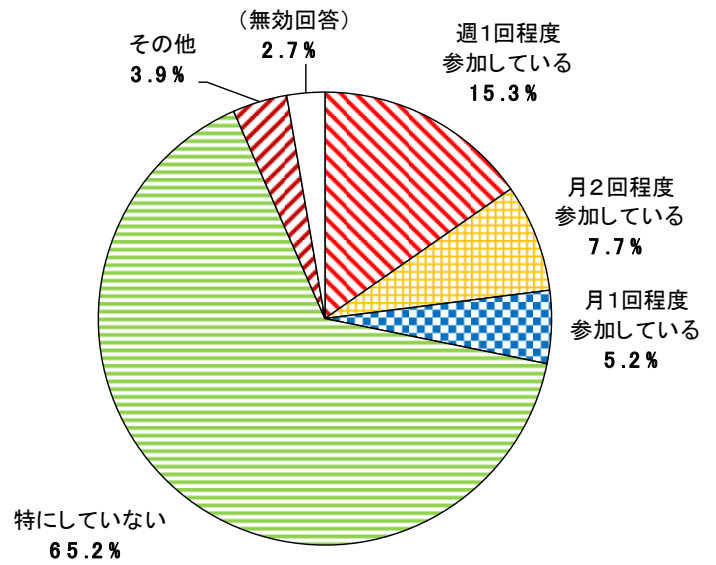
【図表 健康づくりに関する施策についてのご意見・ご提案】(59件)

- ・働く世代の健康づくりイベントがほしい。
- ・空地や公園・大きな駐車場を利用して、ラジオ体操など運動する機会を設ける。

問29) あなたは、健康ではりのある生活のため、趣味活動や地域活動などに参加していますか。

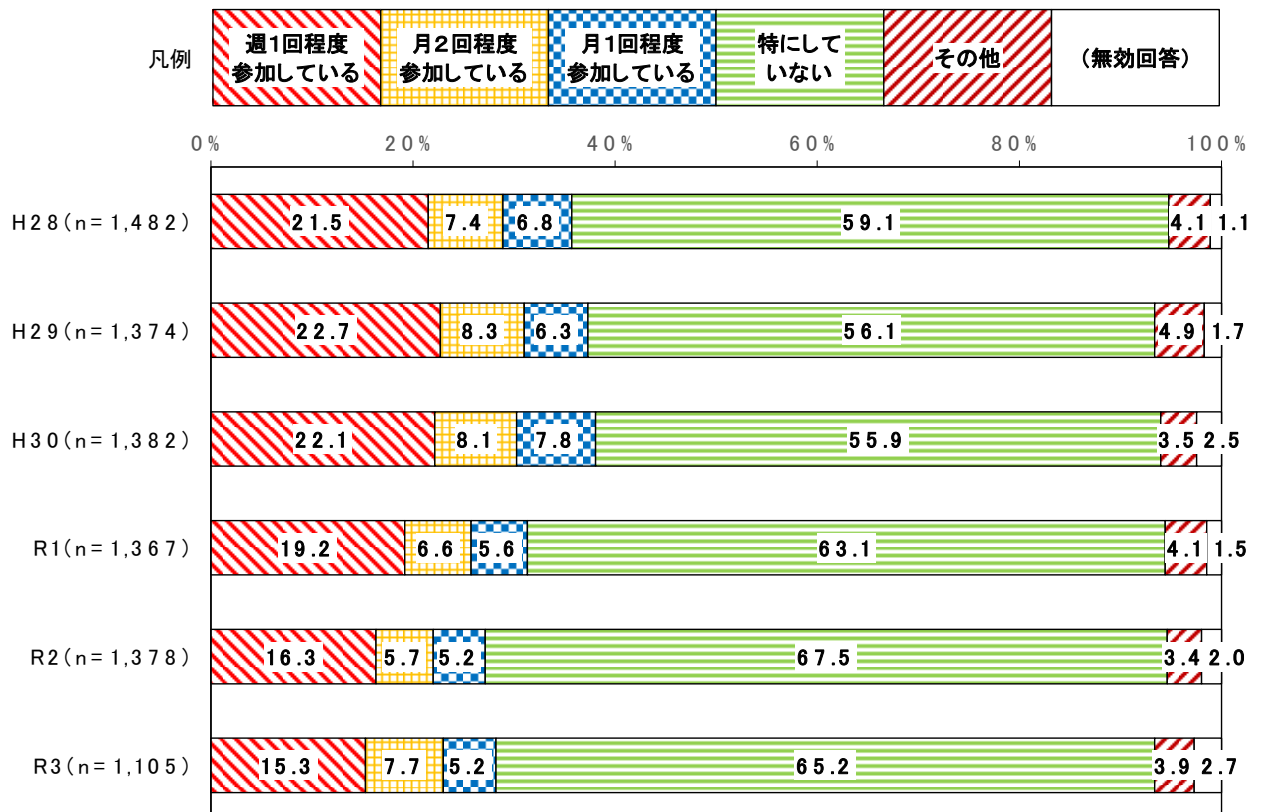
<全体 (n=1105) >

- 「週1回程度参加している」が15.3%、「月2回程度参加している」が7.7%、「月1回程度参加している」が5.2%であり、これらの合計が28.2%を占めています。
- 「特にしていない」は65.2%となっています。



<経年比較>

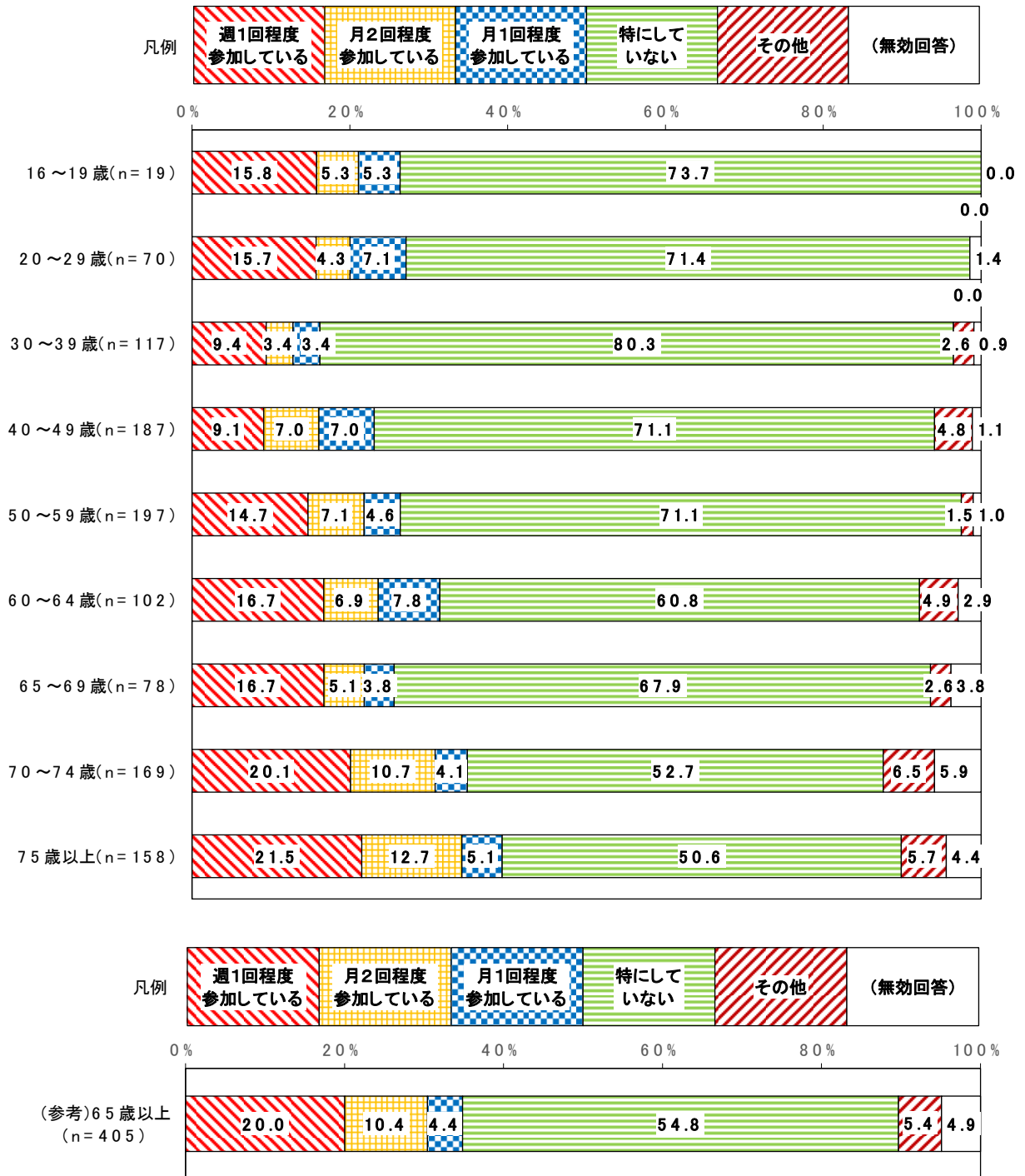
- 「参加している」の合計 (28.2%) は、令和2年度 (27.2%) に比べ1.0ポイント増加しています。
- 一方、「特にしていない」(65.2%) は、令和2年度 (67.5%) に比べ2.3ポイント減少しています。



第3章 調査結果<日ごろの意識や行動>

<年齢層別>

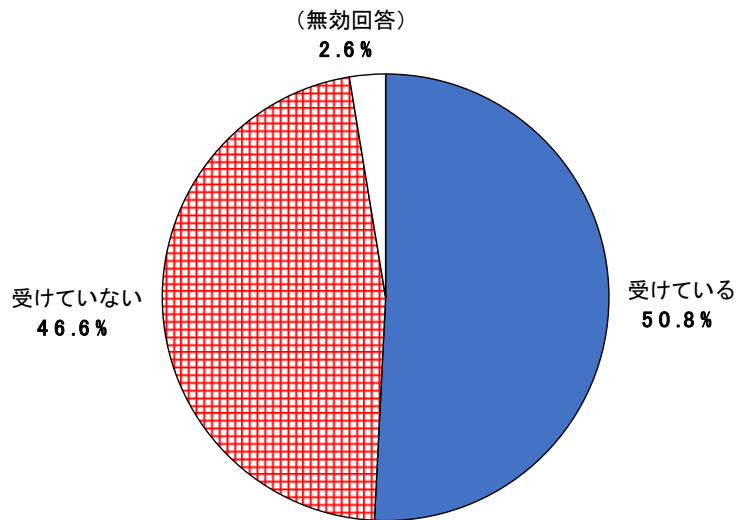
- 「週1回程度参加している」、「月2回程度参加している」、「月1回程度参加している」の合計は、60～64歳と70歳以上では30%台となっています。
- 「特にしていない」は、いずれの年齢層も50%を超えています。



問30) あなたは、定期的ながん検診を受けていますか。

<全体 (n=1105) >

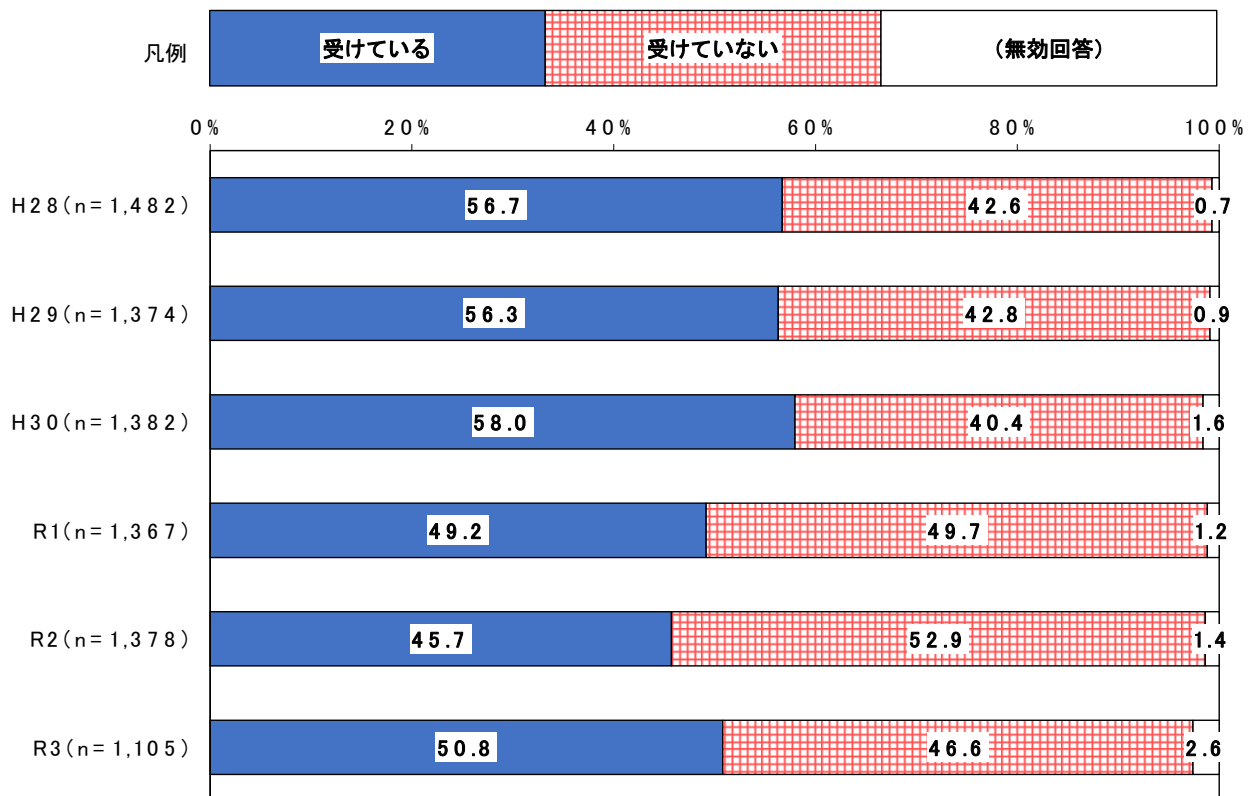
○「受けている」は50.8%、「受けていない」は46.6%であり、やや「受けている」の割合が高くなっています。



<経年比較>

○「受けている」は、令和元年度以降減少傾向にありましたが、令和3年度(50.8%)は令和2年度(45.7%)に比べて5.1ポイント増加しています。

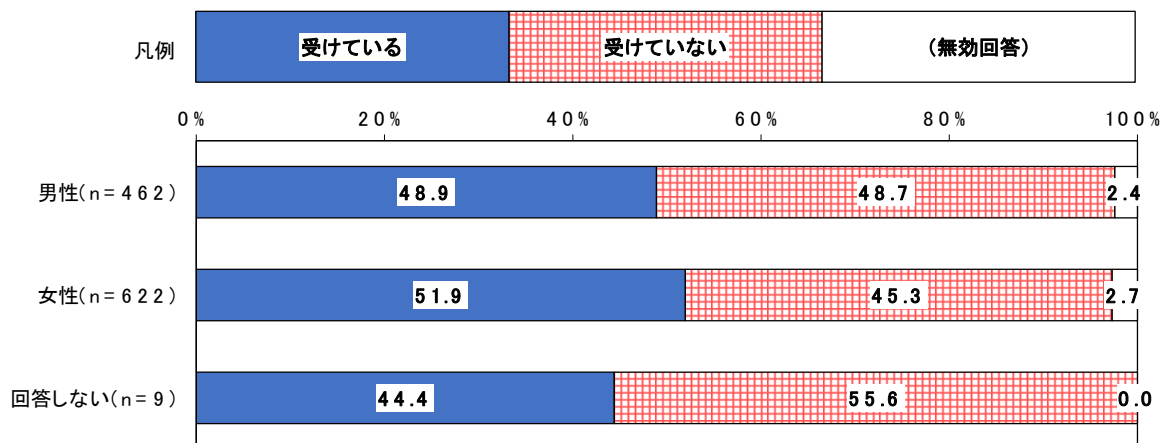
○一方、「受けていない」(46.6%)は、令和2年度(52.9%)に比べて6.3ポイント減少しています。



第3章 調査結果<日ごろの意識や行動>

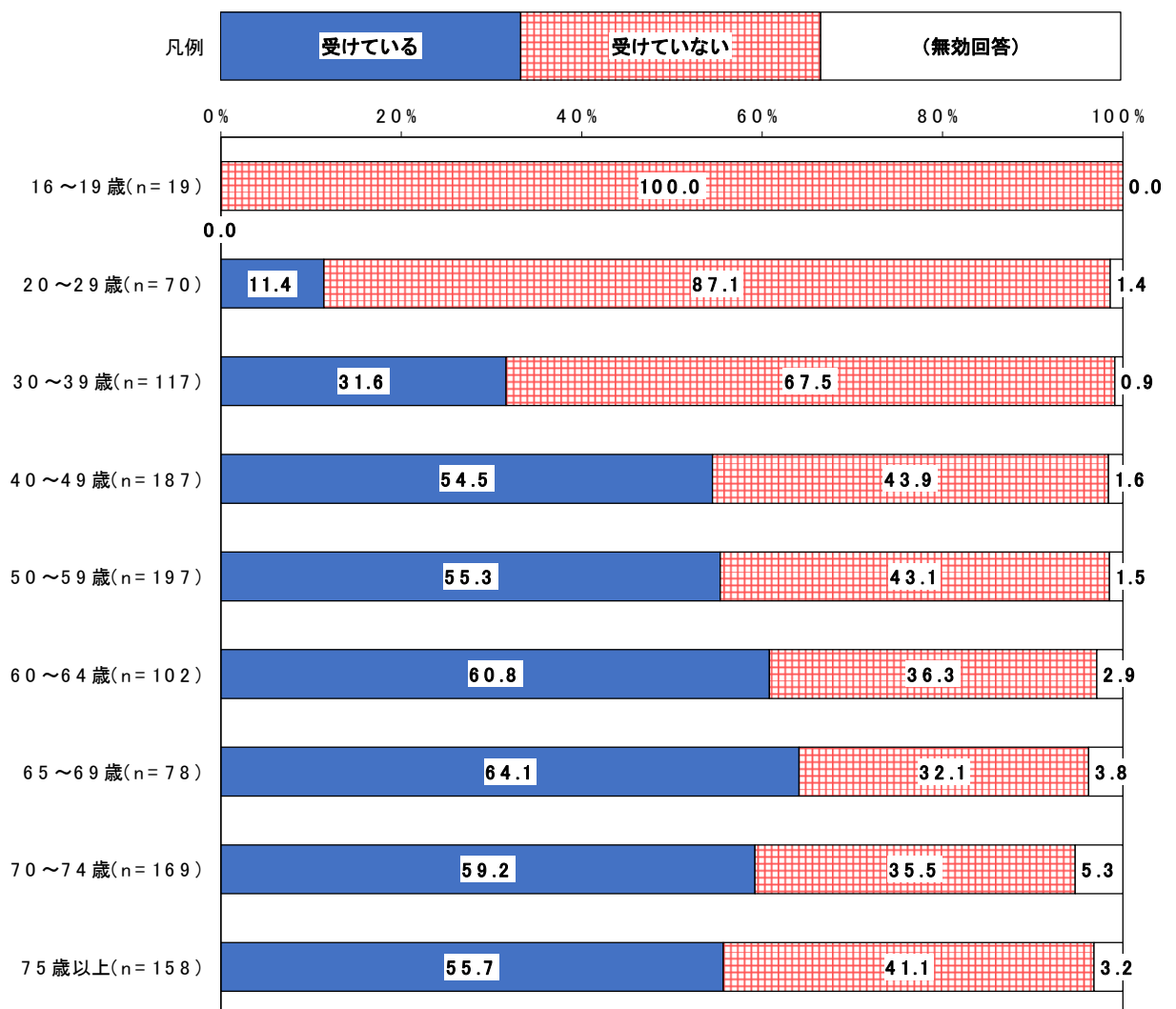
<性別>

○「受けている」は男性が48.9%で半数を下回っていますが、女性は51.9%で半数を上回っています。



<年齢層別>

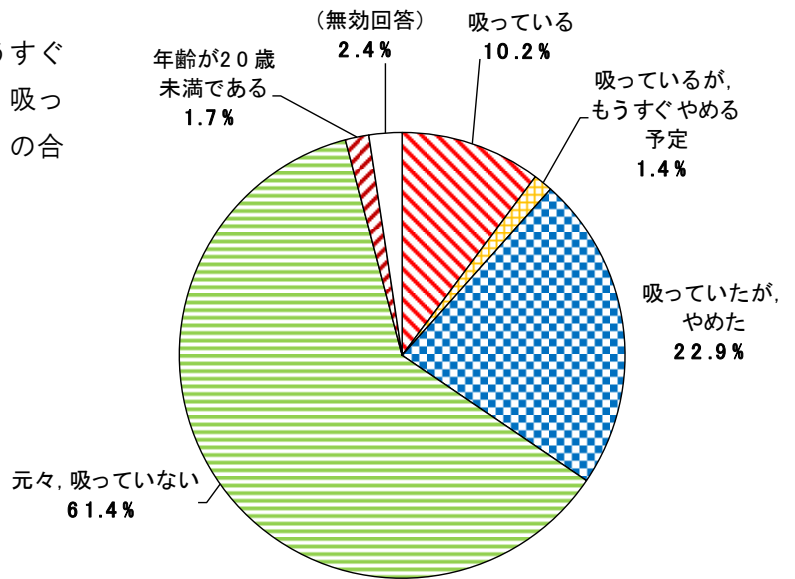
○「受けている」は、おおむね年齢が上がるにつれて高くなる傾向にあり、40歳以上ではいずれの年齢層でも50%を超えています。



問 31) あなたは普段、たばこ（紙巻きたばこ・加熱式たばこ、葉巻）を吸いますか。（ここでは、受動喫煙（他の方の喫煙によりたばこの煙を吸ってしまうこと）は含みません。）

<全体 (n=1105) >

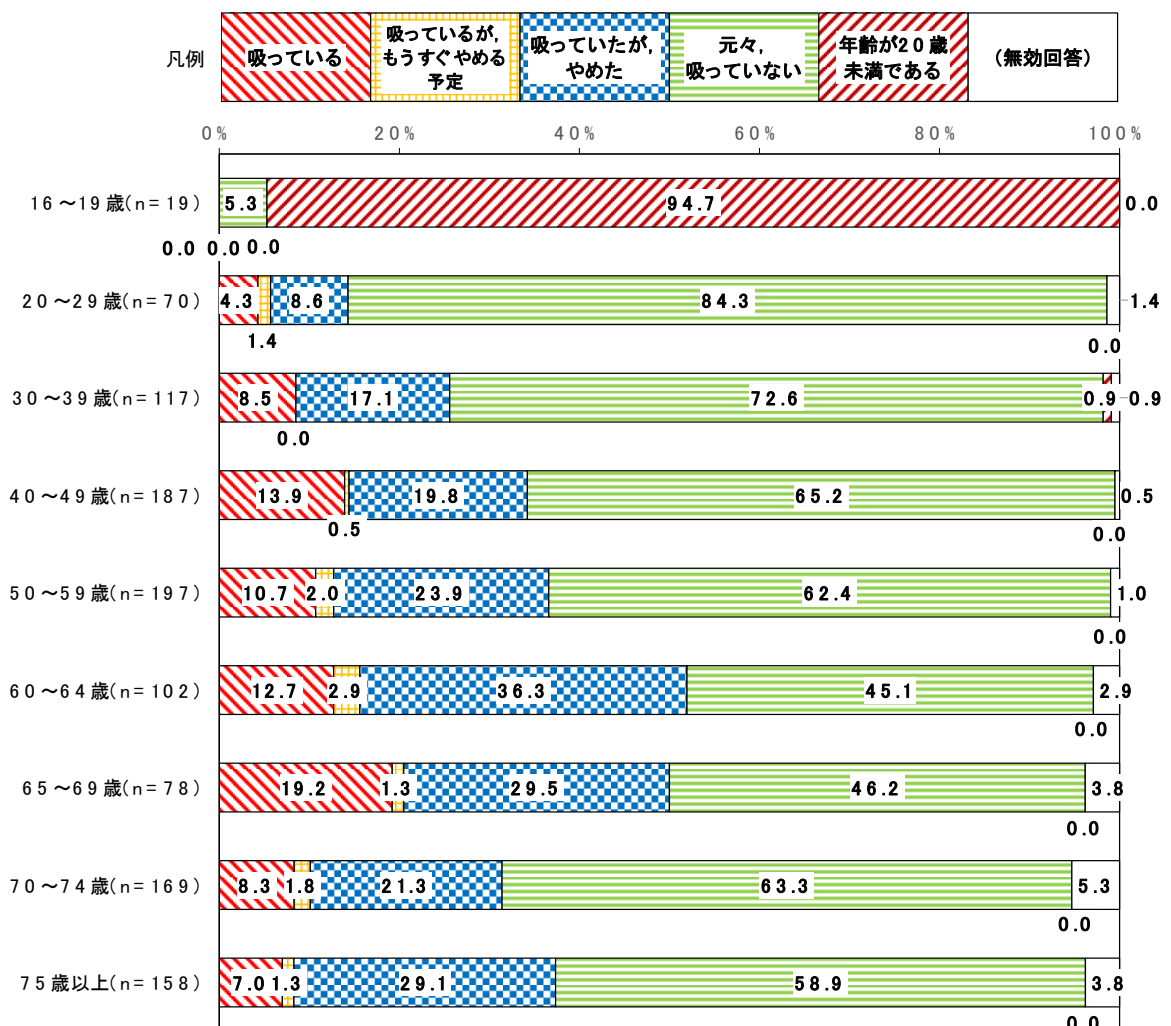
○「吸っている」と「吸っているが、もうすぐやめる予定」の合計が11.6%、「元々、吸っていない」と「吸っていたが、やめた」の合計が84.3%となっています。



<年齢層別>

○「吸っている」と「吸っているが、もうすぐやめる予定」の合計は、65～69歳が20.5%で最も高く、次いで60～64歳の15.6%の順となっています。

○20～29歳では「元々、吸っていない」が84.3%で、他の年齢層に比べて最も高くなっています。

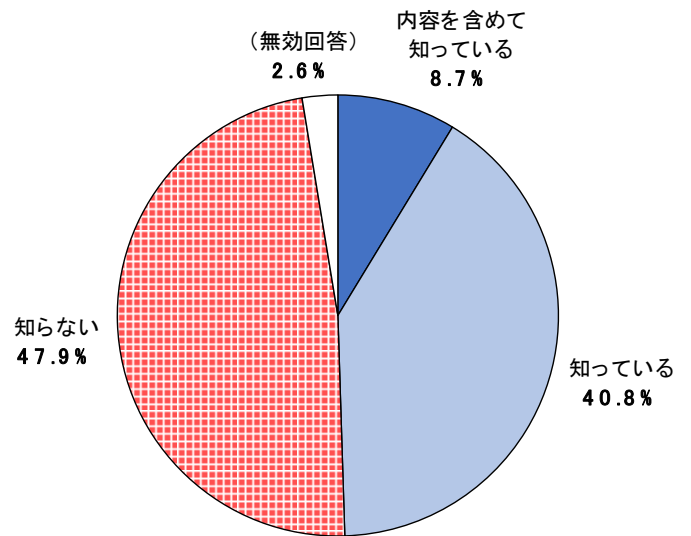


問 32) 調布市受動喫煙防止条例※（平成 31 年 3 月公布，令和元年 7 月施行）を知っていますか。

<全体 (n=1105) >

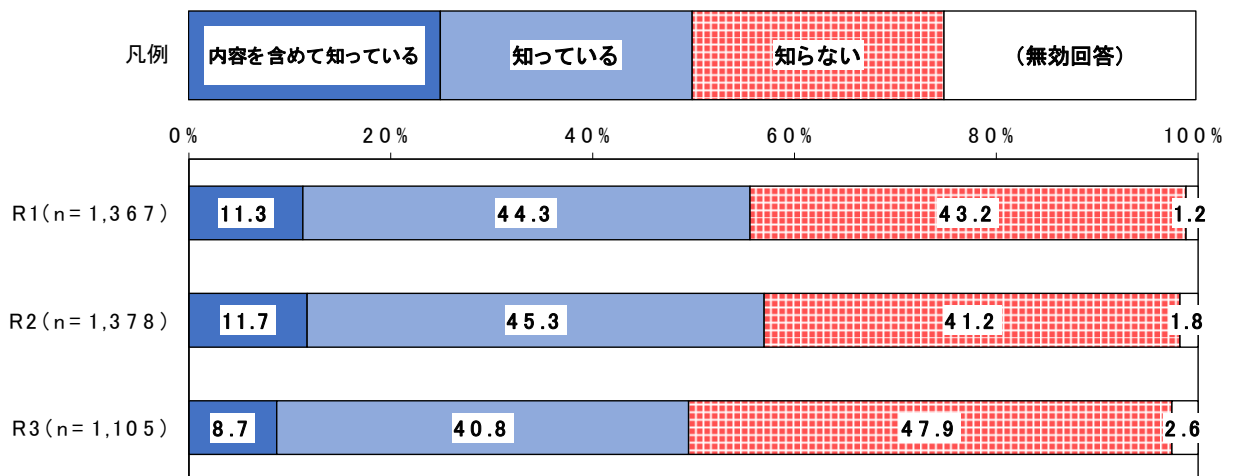
○「内容を含めて知っている」と「知っている」の合計が 49.5%となっています。

※市は，受動喫煙による健康への悪影響から市民等を守るとともに受動喫煙及び喫煙による身体への悪影響等に関する啓発及び教育を行うことにより，次代を担う子どもたちをはじめ誰もが健康に暮らせるまち調布の実現に寄与することを目的として「調布市受動喫煙防止条例」を施行しています。



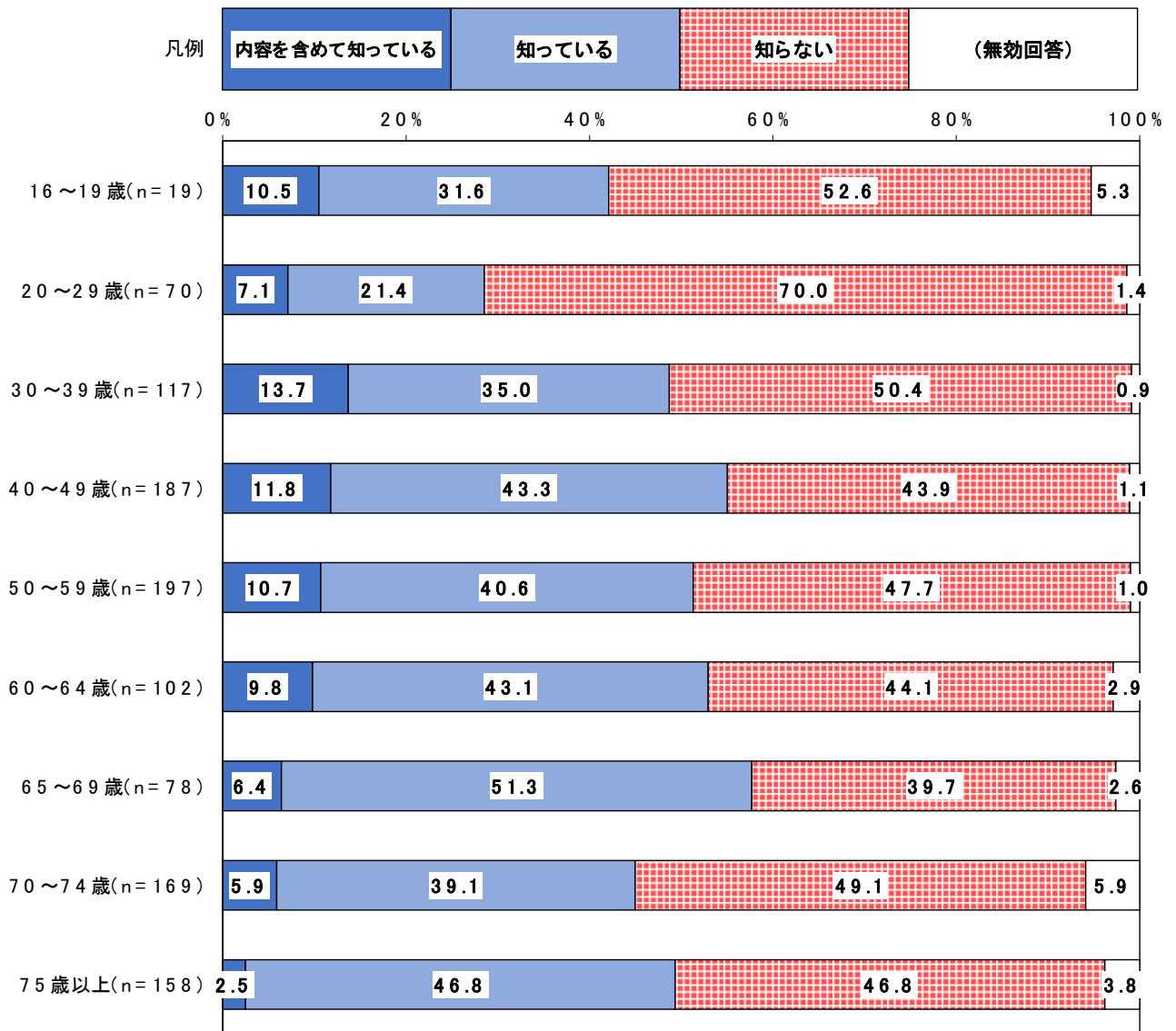
<経年比較>

○「内容を含めて知っている」と「知っている」の合計 (49.5%) は，令和 2 年度 (57.0%) に比べ 7.5 ポイント減少しています。



<年齢層別>

○「内容を含めて知っている」と「知っている」の合計は、65～69歳が57.7%で最も高く、次いで40～49歳の55.1%の順となっています。



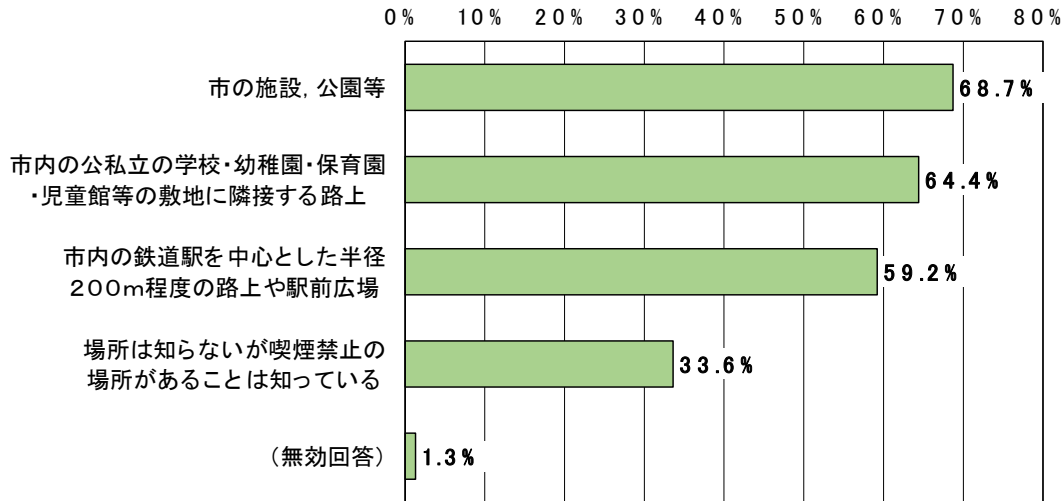
第3章 調査結果<日ごろの意識や行動>

問 32-1) 問 32 で「内容を含めて知っている」と「知っている」と回答した方にうかがいます。

あなたは、調布市受動喫煙防止条例により、次の場所が喫煙禁止とされていることを知っていますか。

<全体 (n=547) >

○「市の施設、公園等」が 68.7%で最も高く、次いで「市内の公立の学校・幼稚園・保育園・児童館等の敷地に隣接する路上」の 64.4%、「市内の鉄道駅を中心とした半径 200m程度の路上や駅前広場」の 59.2%の順となっています。



<年齢層別>

○いずれの年齢層においても、「市の施設、公園等」が最も高くなっています。

選択肢	合計	16~19歳	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~64歳	65~69歳	70~74歳	75歳以上
全体	547	8	20	57	103	101	54	45	76	78
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
市の施設、公園等	376	6	11	39	69	63	43	34	55	54
	68.7%	75.0%	55.0%	68.4%	67.0%	62.4%	79.6%	75.6%	72.4%	69.2%
市内の公立の学校・幼稚園・保育園・児童館等の敷地に隣接する路上	352	5	11	32	68	60	37	33	52	52
	64.4%	62.5%	55.0%	56.1%	66.0%	59.4%	68.5%	73.3%	68.4%	66.7%
市内の鉄道駅を中心とした半径 200m程度の路上や駅前広場	324	4	7	29	62	55	36	28	47	54
	59.2%	50.0%	35.0%	50.9%	60.2%	54.5%	66.7%	62.2%	61.8%	69.2%
場所は知らないが喫煙禁止の場所があることは知っている	184	1	10	17	31	37	14	15	25	32
	33.6%	12.5%	50.0%	29.8%	30.1%	36.6%	25.9%	33.3%	32.9%	41.0%
(無効回答)	7	0	0	0	2	0	2	0	0	2
	1.3%	0.0%	0.0%	0.0%	1.9%	0.0%	3.7%	0.0%	0.0%	2.6%

(上段：実数(人)，下段：構成比)

回答割合が最も高い：



回答割合が2番目に高い：

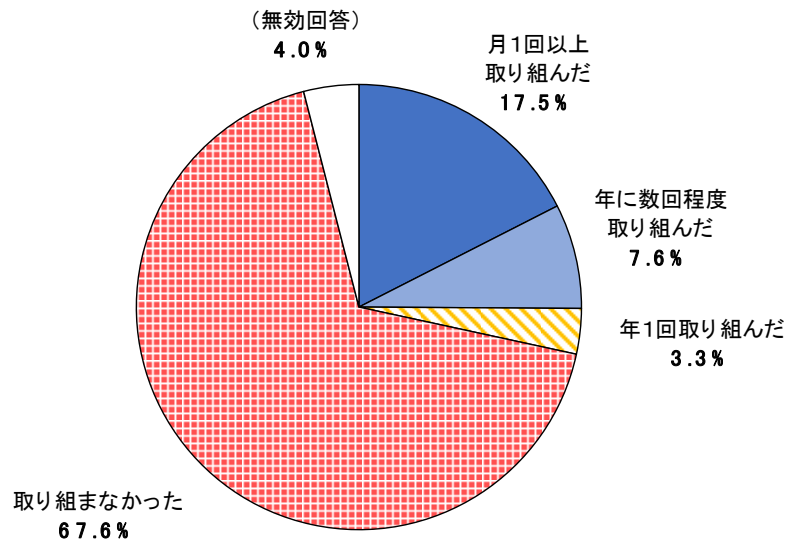


【生涯学習について】

問 33) あなたは、この1年の間に、生涯学習※に取り組みましたか。

<全体 (n=1105) >

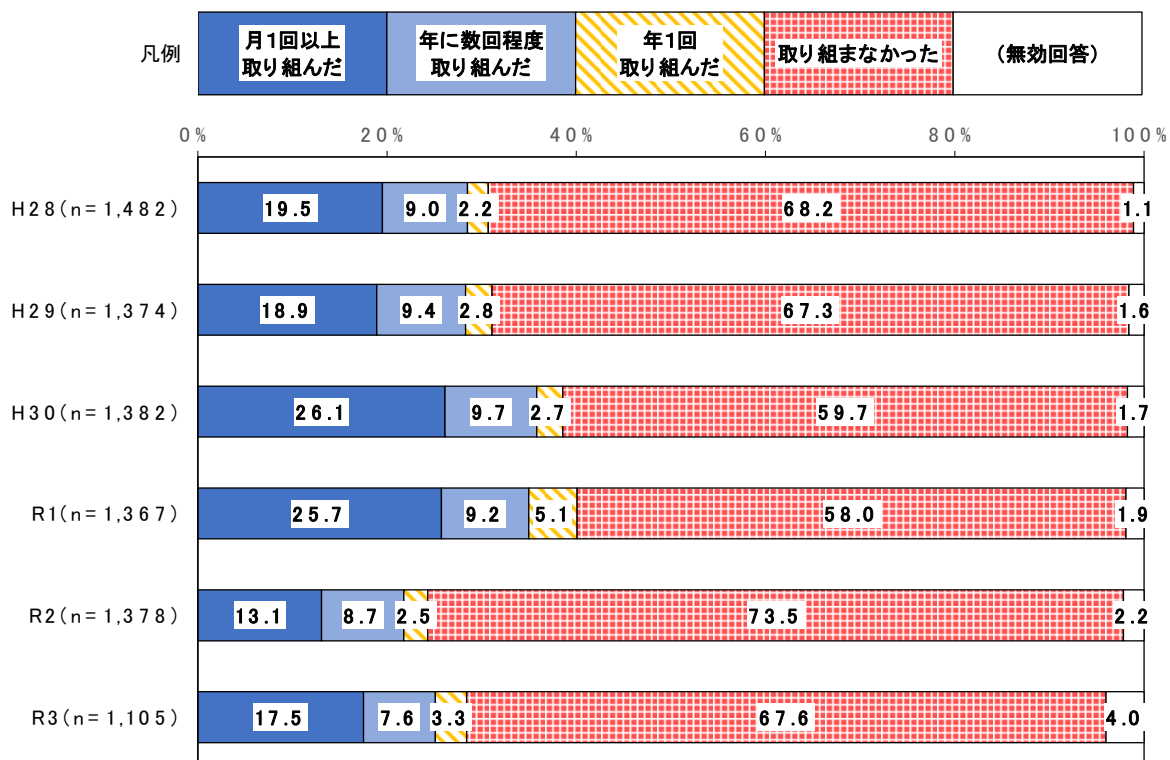
- 「月1回以上取り組んだ」が17.5%、「年に数回程度取り組んだ」が7.6%、「年1回取り組んだ」が3.3%であり、生涯学習に年1回以上取り組んだ人は合計で28.4%となっています。
- 一方、「取り組まなかった」は67.6%となっています。



※「生涯学習」とは、人々が自発的意思に基づいて生涯を通じて行う学習のことで、学校や社会教育施設のほか、家庭・職場・地域などで行われる学習や、文化・スポーツ・レクリエーション・ボランティア・趣味など生活のあらゆる場面で行われる学習が含まれます。

<経年比較>

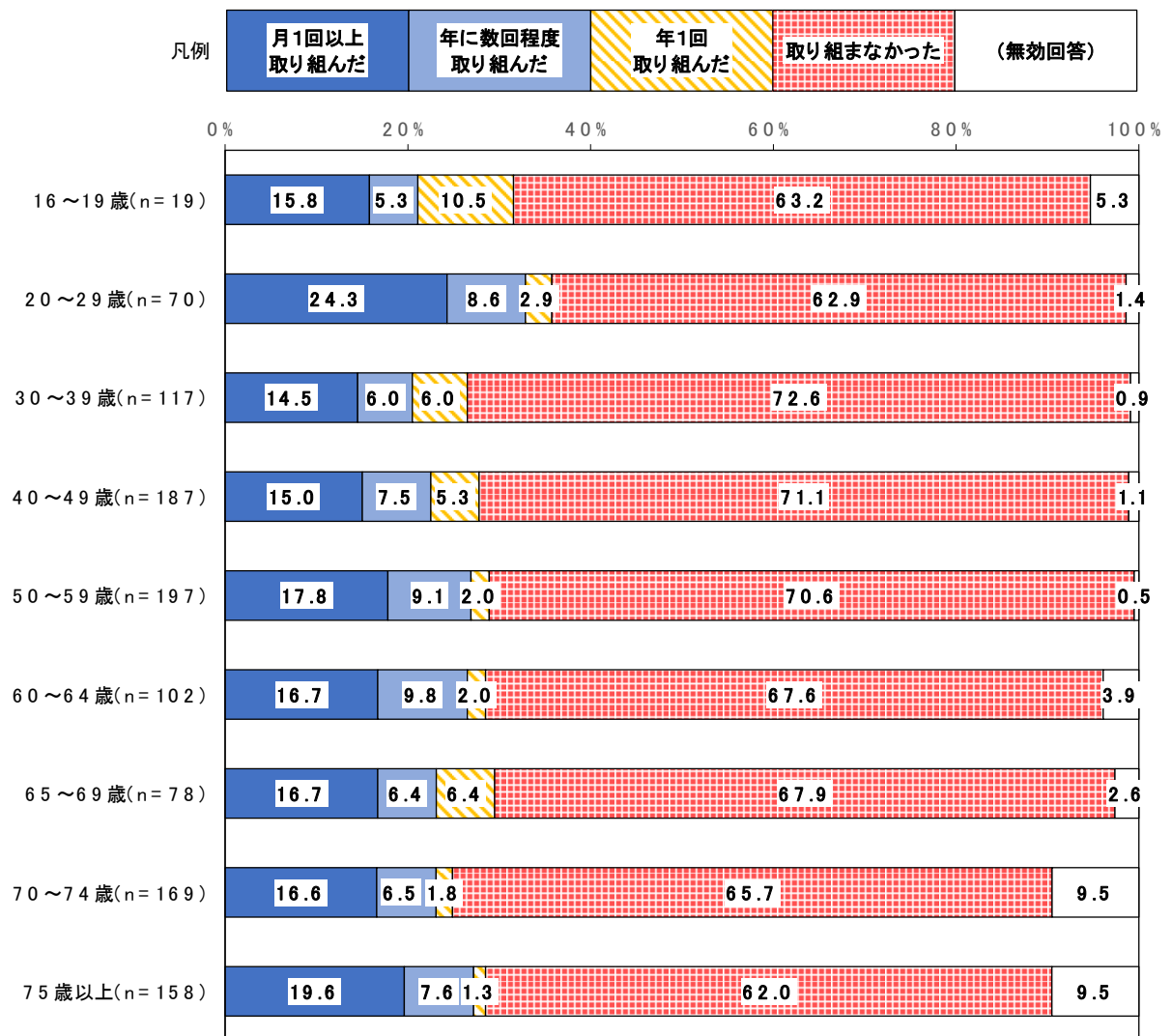
- 「取り組んだ」の合計は、令和元年度(40.0%)から令和2年度(24.3%)にかけて大きく減少しましたが、令和3年度(28.4%)には4.1ポイント増加しています。
- 一方、「取り組まなかった」は、令和元年度(58.0%)から令和2年度(73.5%)にかけて大きく増加しましたが、令和3年度(67.6%)には5.9ポイント減少しています。



第3章 調査結果<日ごろの意識や行動>

<年齢層別>

○いずれの年齢層でも生涯学習に年1回以上取り組んだ方の割合は40%を下回っています。



<自由記述>主な意見を抜粋

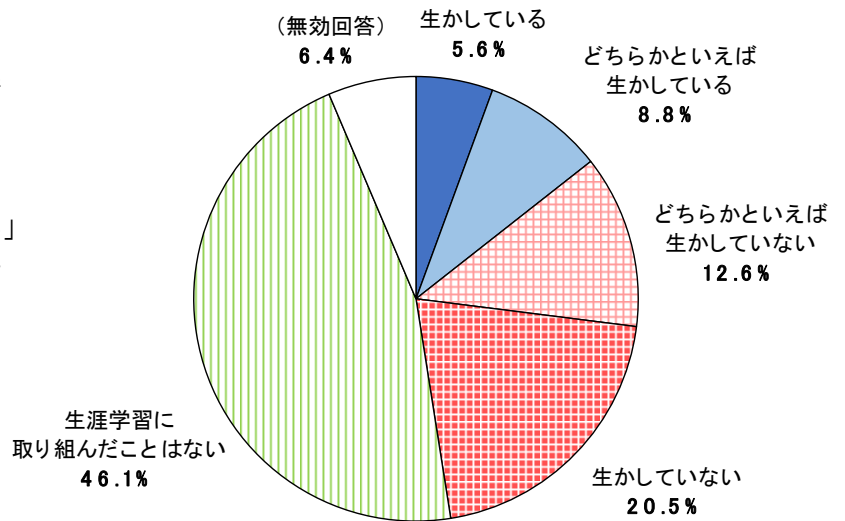
【図表 生涯学習に関する施策についてのご意見・ご提案】(40件)

- ・スペースを市で貸して欲しい。ふれあいの家などあるのがとても助かっています。空き家などを活用して欲しい。
- ・たづくりとかでやるワークショップがもう少しおもしろいものになればいいと思う。民間の企業の力を貸りてでも、もう少し文化的なワクワクするイベントが増えてほしい。そうすることで、街としての魅力もUPすると思う。

問 34) あなたは、生涯学習を通じて身につけた知識・技能を、まちづくりや仲間づくり、地域活動など自分以外のために活かしていますか。

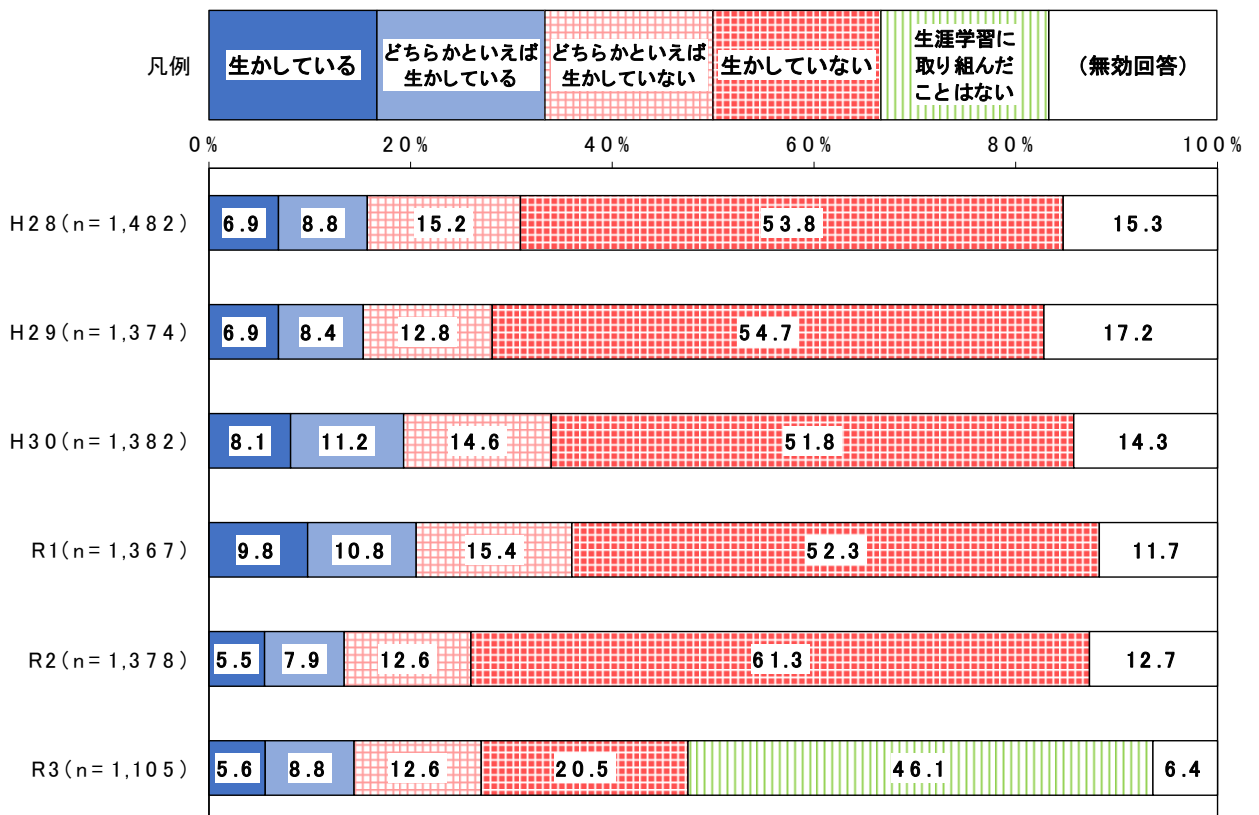
<全体 (n=1105) >

- 「活かしている」は 5.6%、「どちらかといえば活かしている」は 8.8%であり、合計で 14.4%となっています。
- 一方、「活かしていない」は 20.5%、「どちらかといえば活かしていない」は 12.6%であり、合計で 33.1%を占めています。



<経年比較>

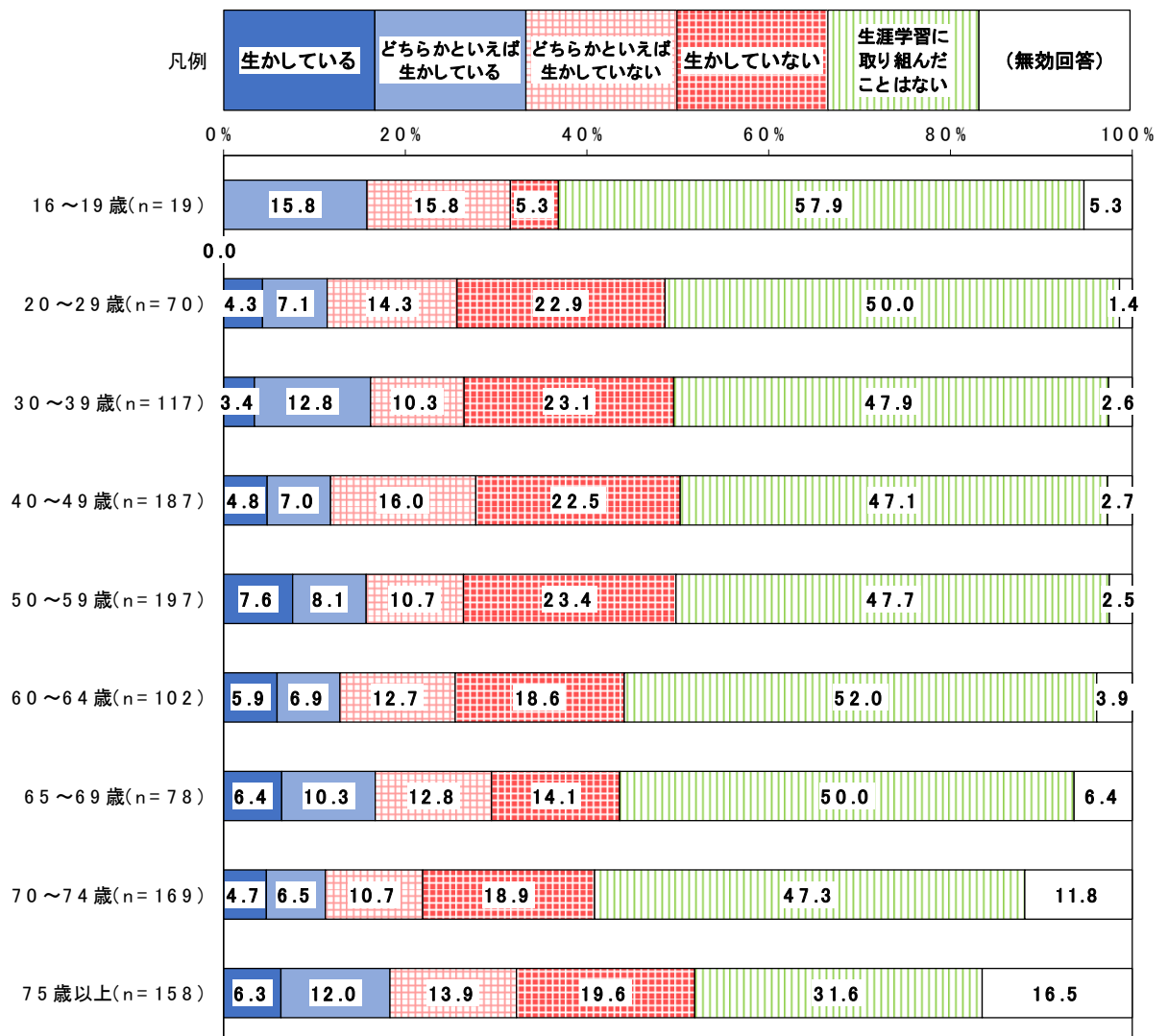
- 「活かしている」と「どちらかといえば活かしている」の合計 (14.4%) は、令和2年度 (13.4%) に比べて 1.0 ポイント増加しています。



第3章 調査結果<日ごろの意識や行動>

<年齢層別>

○「生かしている」と「どちらかといえば生かしている」の合計は、20～29歳(11.4%)、40～49歳(11.8%)、70～74歳(11.2%)で、他の年齢層に比べてやや低くなっています。

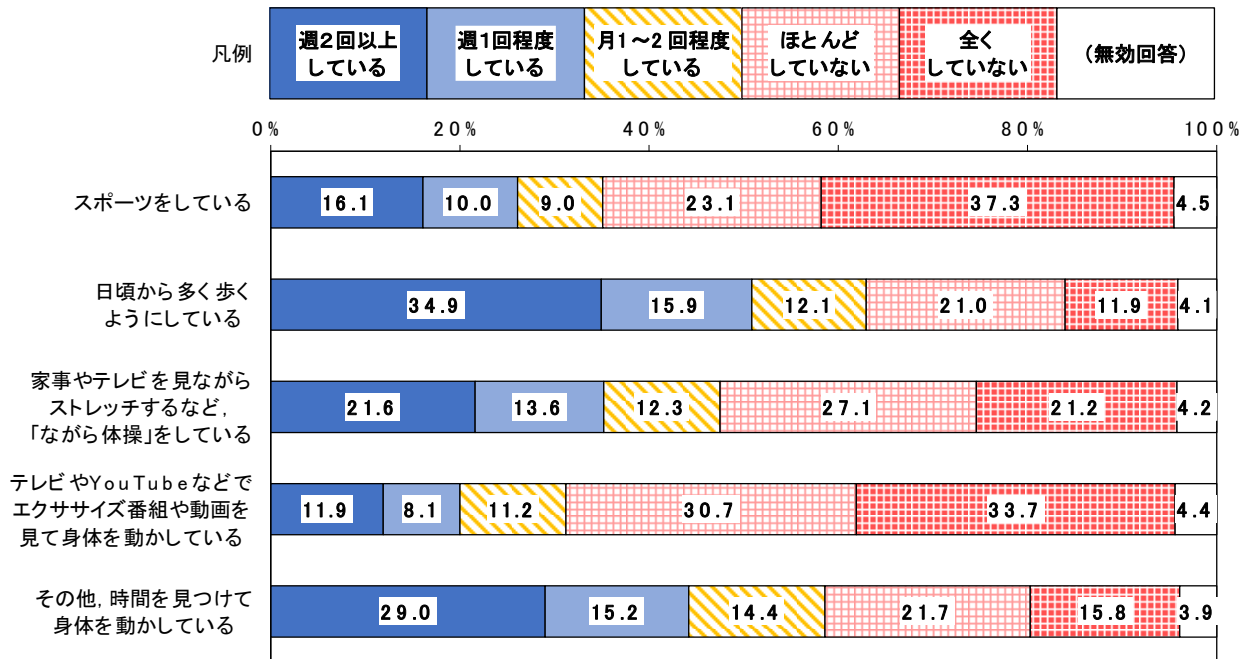


【スポーツ振興について】

問 35) あなたは、健康・体力づくりのために体を動かしていますか。

<全体 (n=1105) >

○「週2回以上している」と「週1回程度している」の合計は、「日頃から多く歩くようにしている（電車やバス等の最寄りの駅で降車せず、1駅分多く歩いているなど）」が50.8%と最も高く、次いで「その他、時間を見つけて身体を動かしている」の44.2%の順となっています。

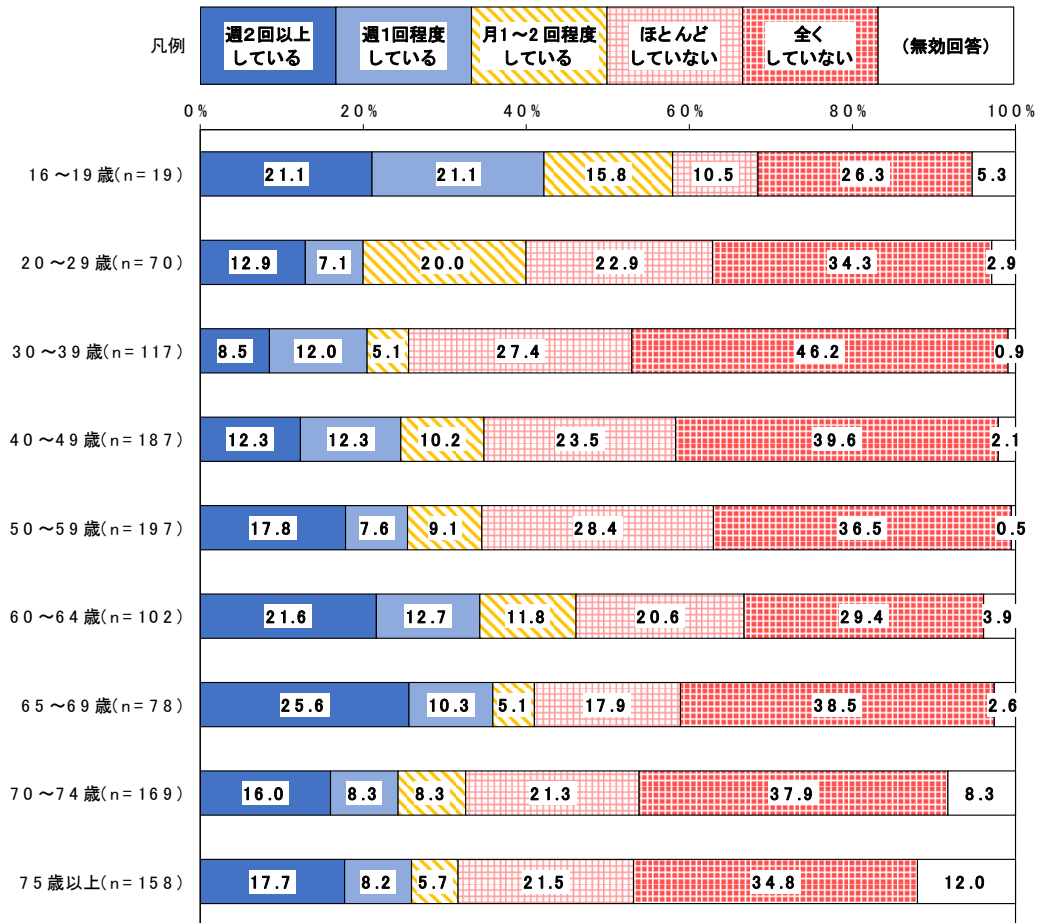


<年齢層別>

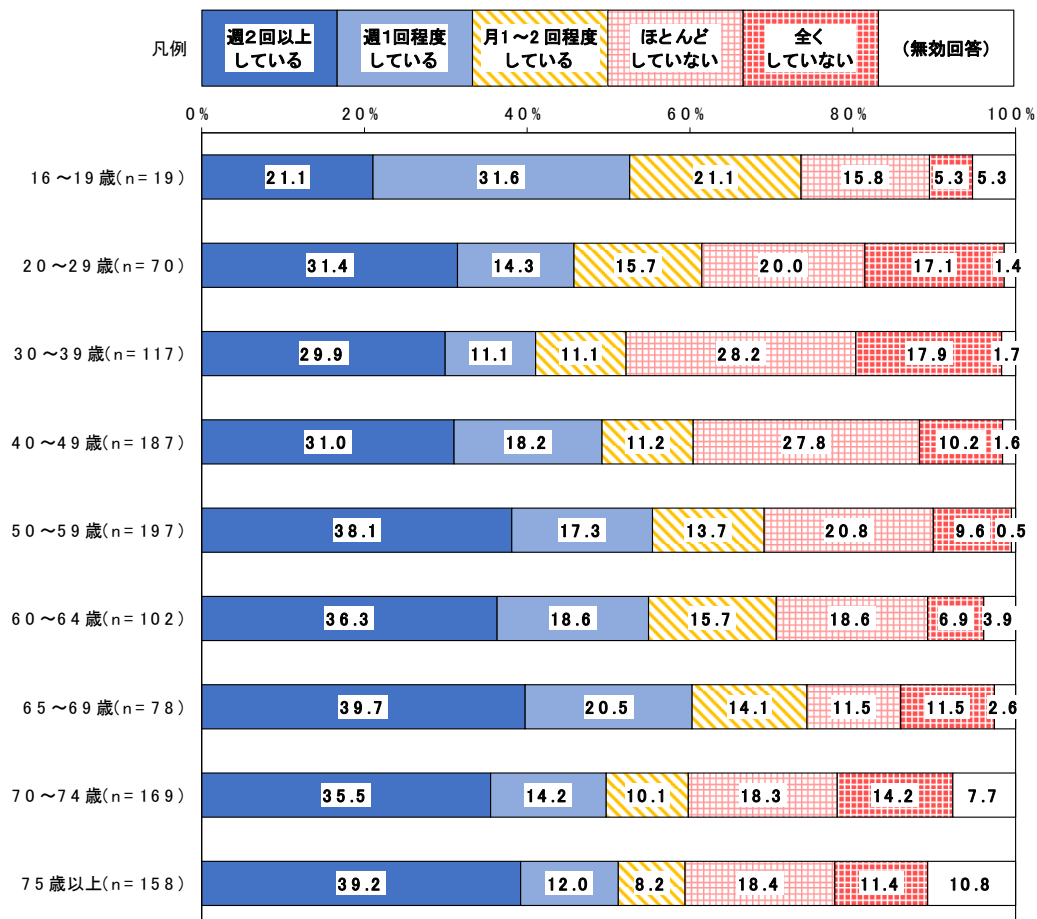
○「週2回以上している」と「週1回程度している」の合計は、ほとんどの年齢層で「日頃から多く歩くようにしている（電車やバス等の最寄りの駅で降車せず、1駅分多く歩いているなど）」が高くなっています。

第3章 調査結果<日ごろの意識や行動>

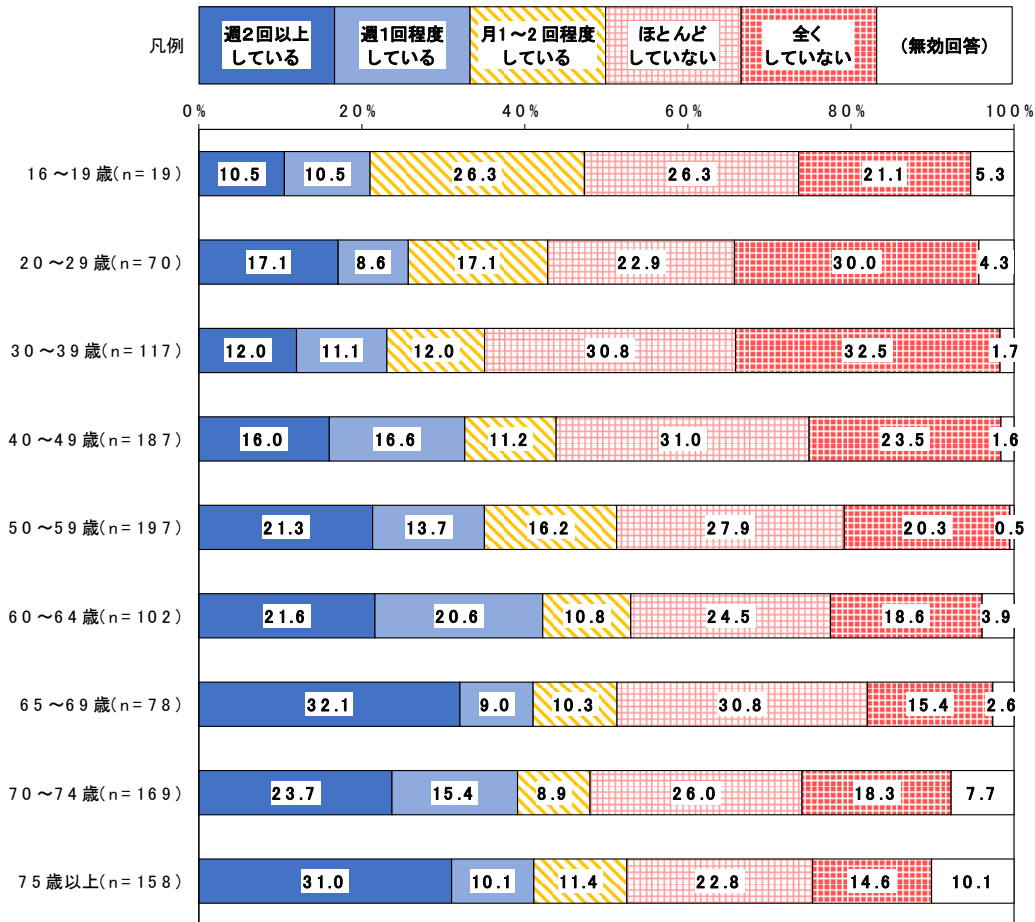
ア スポーツをしている



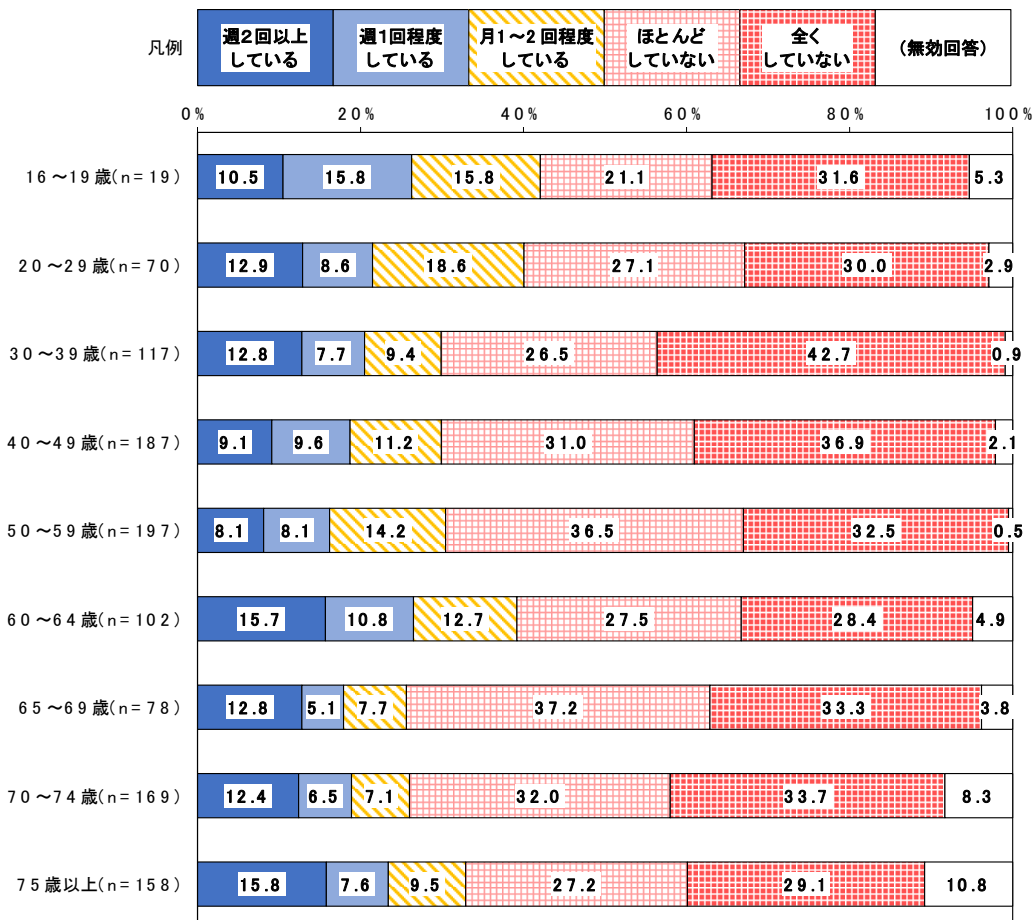
イ 日頃から多く歩くようにしている(電車やバス等の最寄りの駅で降車せず、1駅分多く歩いているなど)



ウ 家事やテレビを見ながらストレッチするなど、「ながら体操」をしている

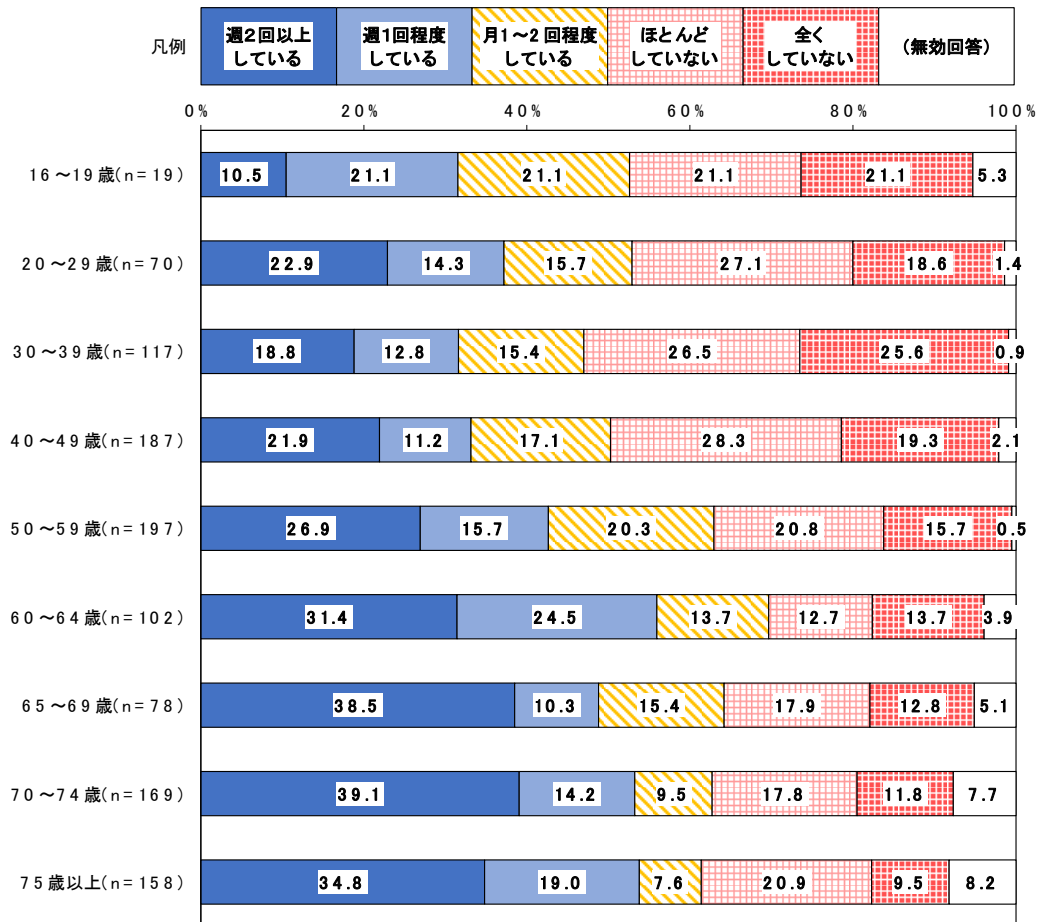


エ テレビやYouTubeなどでエクササイズ番組や動画を見て身体を動かしている



第3章 調査結果<日ごろの意識や行動>

オ その他、時間を見つけて身体を動かしている

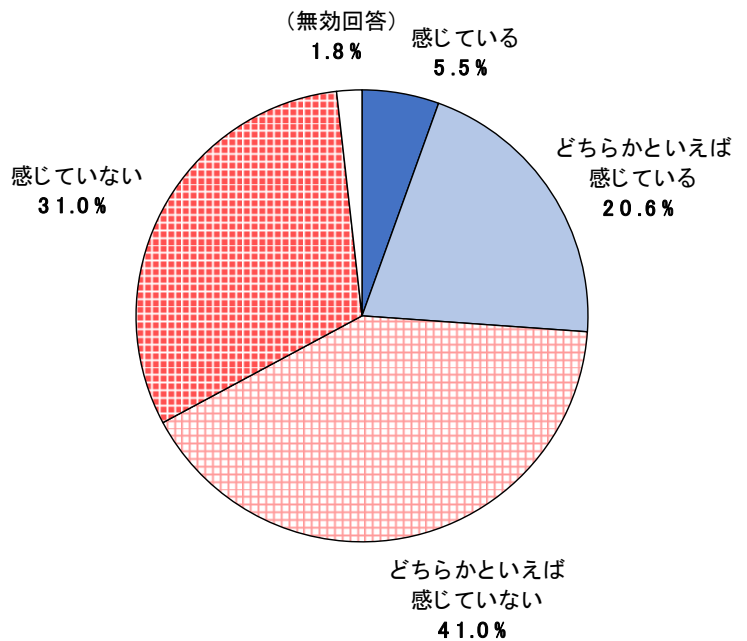


【地域コミュニティについて】

問 36) あなたは、地域の一員としての意識や地域の連帯感を感じていますか。

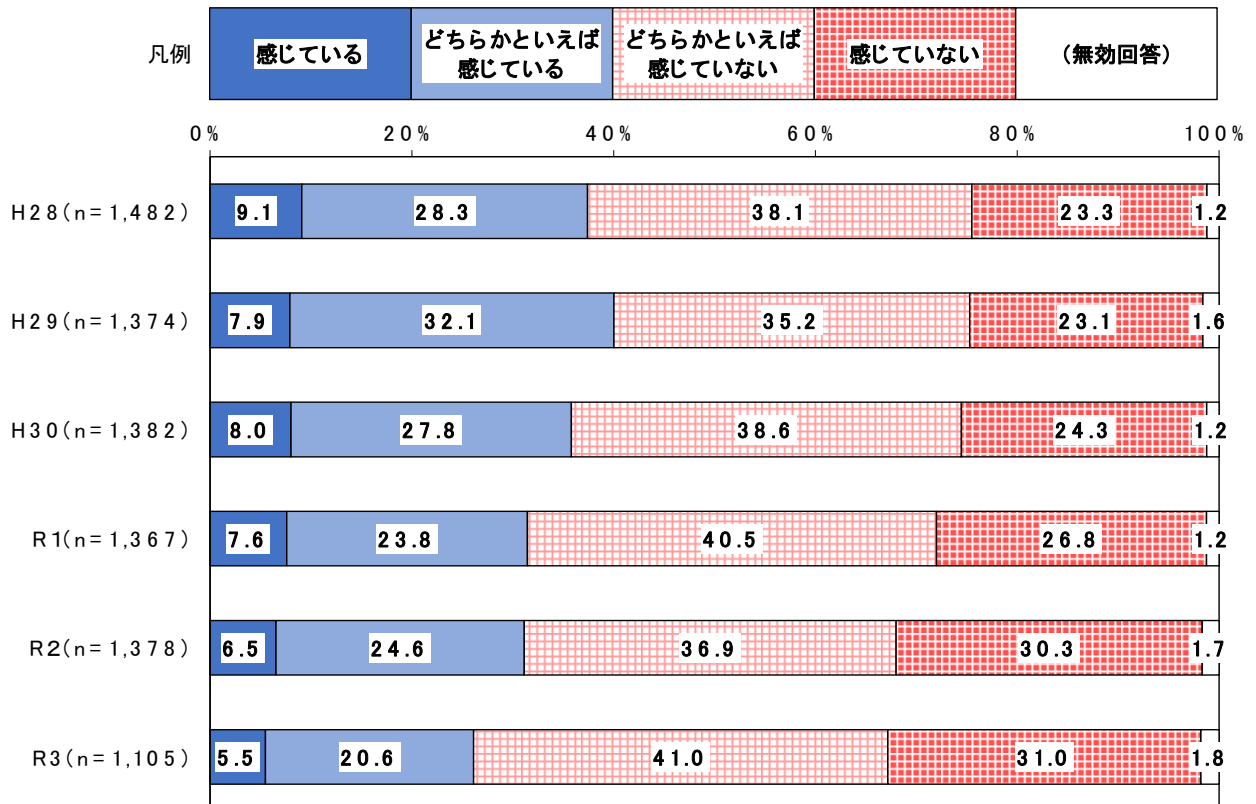
<全体 (n=1105) >

- 地域の一員としての意識や地域の連帯感を「感じている」は5.5%、「どちらかといえば感じている」は20.6%であり、合計で26.1%となっています。
- 一方、「どちらかといえば感じていない」は41.0%、「感じていない」は31.0%であり、合計で72.0%となっています。



<経年比較>

- 地域の一員としての意識や地域の連帯感を「感じている」と「どちらかといえば感じている」の合計(26.1%)は、令和2年度(31.1%)に比べ5.0ポイント減少しています。

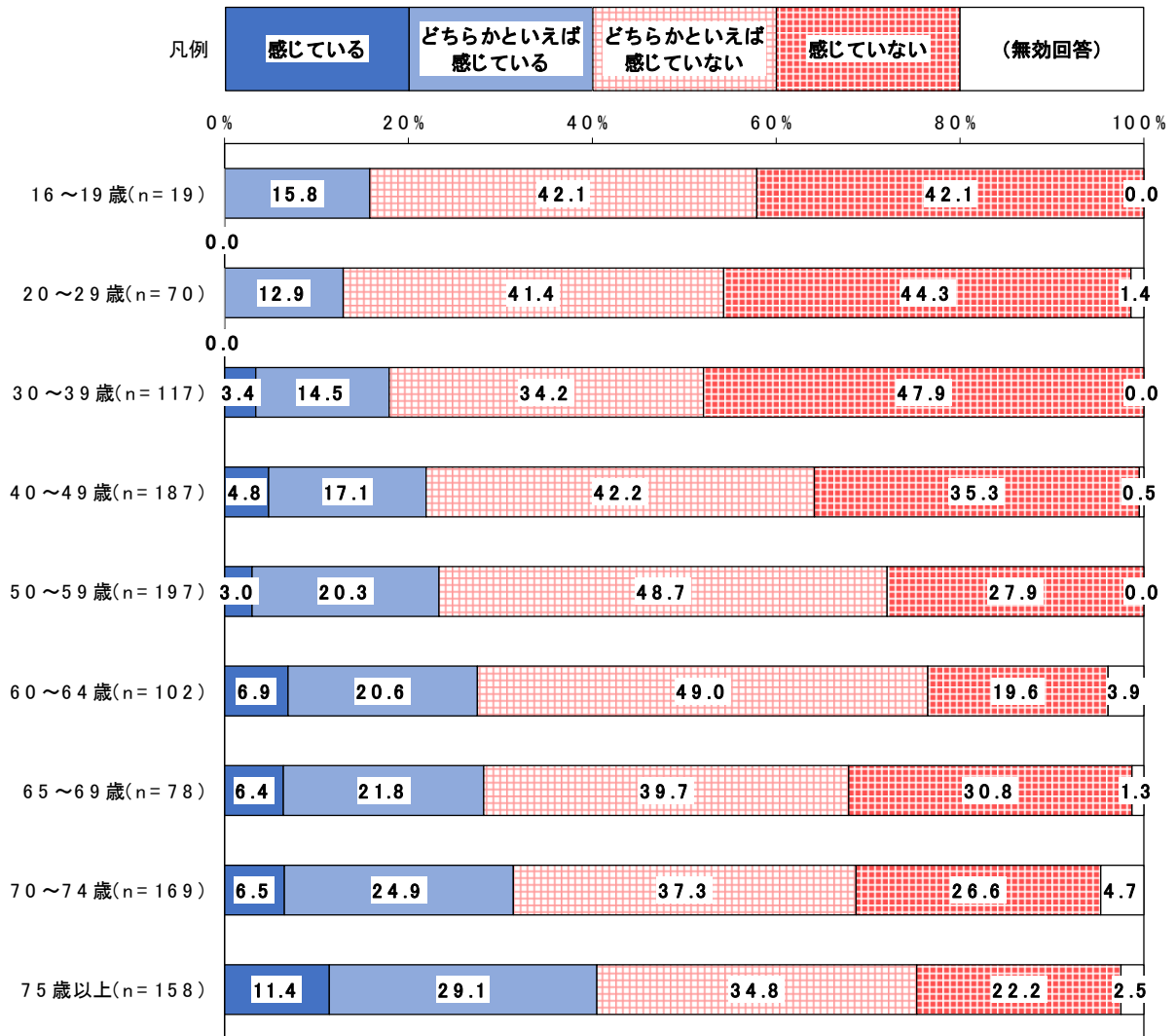


第3章 調査結果<日ごろの意識や行動>

<年齢層別>

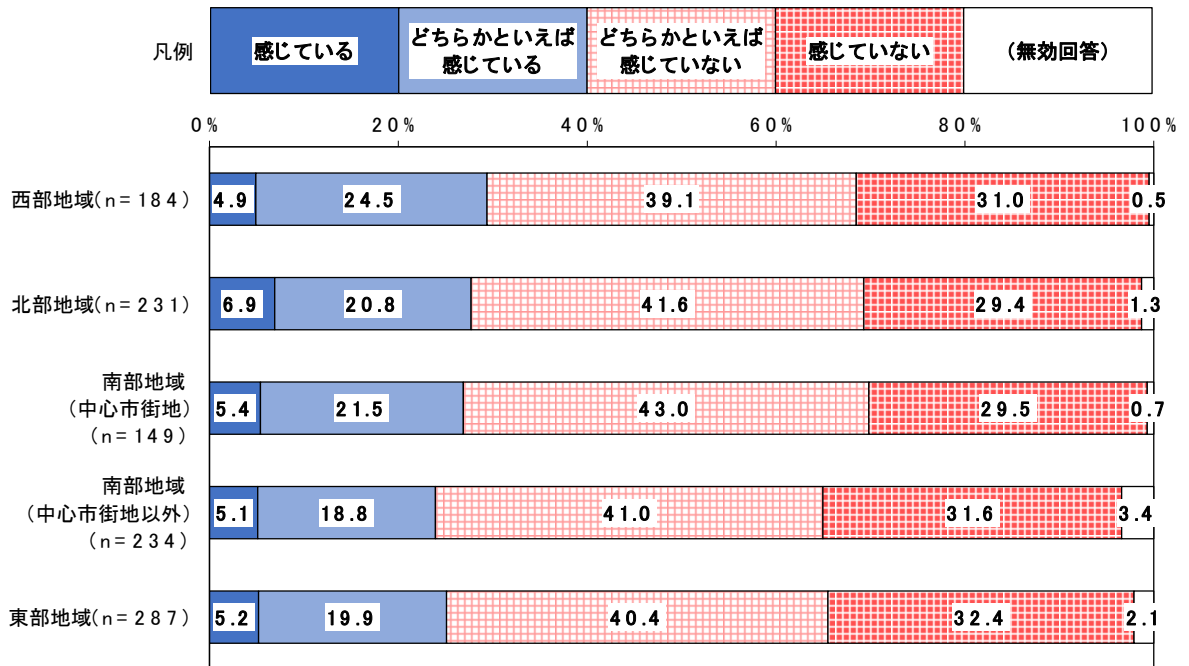
○「感じている」と「どちらかといえば感じている」の合計は、おおむね年齢層が上がるにつれて高くなる傾向にあります。特に75歳以上では、「感じている」と「どちらかといえば感じている」の合計が40.5%となっています。

○一方、「どちらかといえば感じていない」と「感じていない」の合計は、すべての年齢層で50%を上回っており、特に39歳以下では80%を超えています。



<地域別>

○いずれの地域でも「どちらかといえば感じていない」と「感じていない」の合計が70%を超えています。



<自由記述>主な意見を抜粋

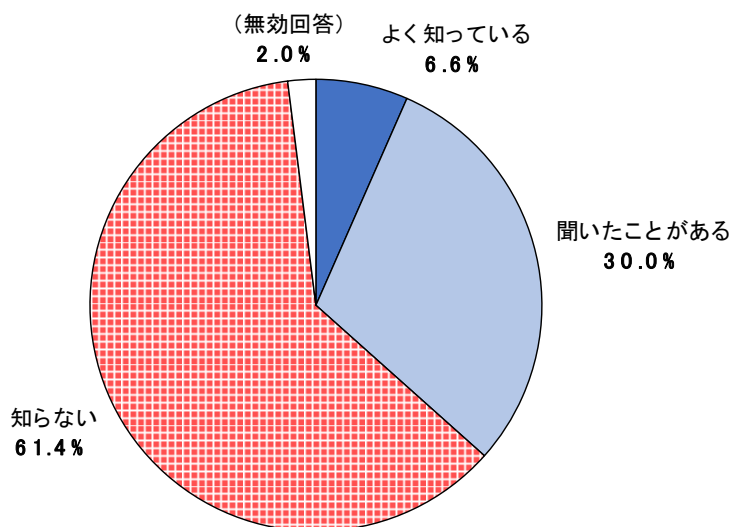
【図表 地域コミュニティに関する施策についてのご意見・ご提案】(46件)

- ・意識や連帯感を強くするイベントを企画して欲しい。
- ・自治会に入っていないけど情報は知りたいといつも思っている。
- ・自治会は遠まきに見ている人は多いが、自発的に協力する人は殆どいない。

問37) あなたは、「地区協議会※」を知っていますか。

<全体 (n=1105) >

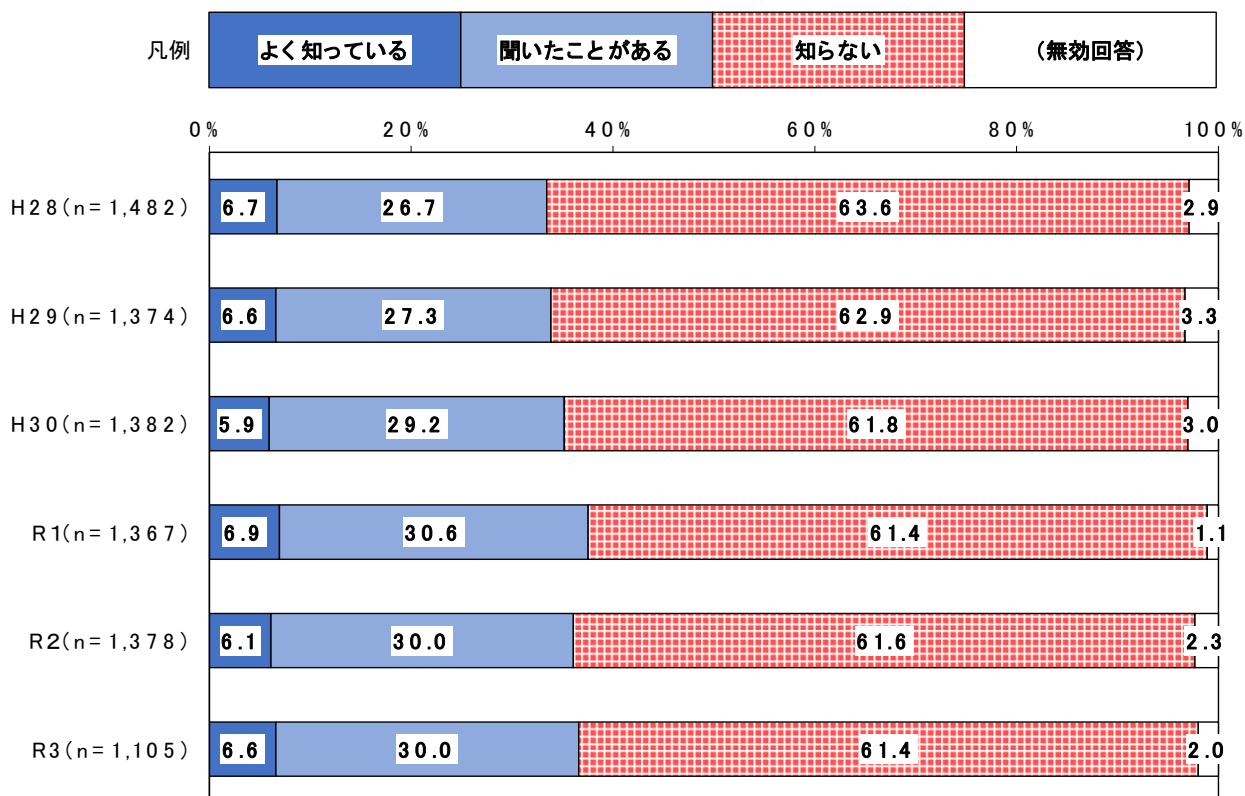
○「よく知っている」が6.6%、「聞いたことがある」が30.0%、合計で36.6%となっています。



※地区協議会とは、自治会をはじめ地域で活動する多様な団体や個人を結ぶ地域主体のネットワーク組織で、地域の情報共有や防災訓練等のまちづくり活動における連携・協力などを行っています。市内に20ある小学校区を単位として、現在17地区で設立されています。

<経年比較>

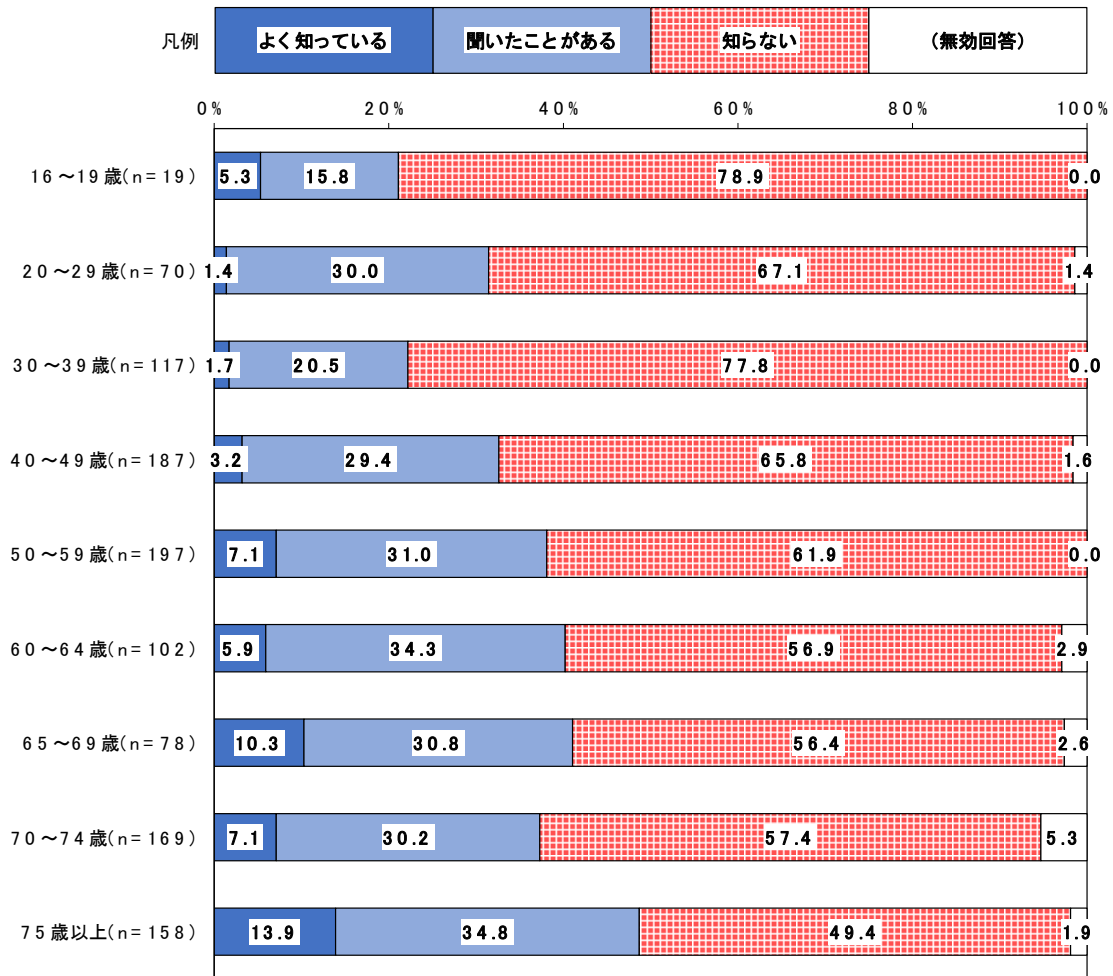
○「よく知っている」と「聞いたことがある」の合計(36.6%)は、令和2年度(36.1%)に比べ0.5ポイント増加しています。



<年齢層別>

○「よく知っている」と「聞いたことがある」の合計は、年齢層が上がるにつれておおむね増加傾向にあります。

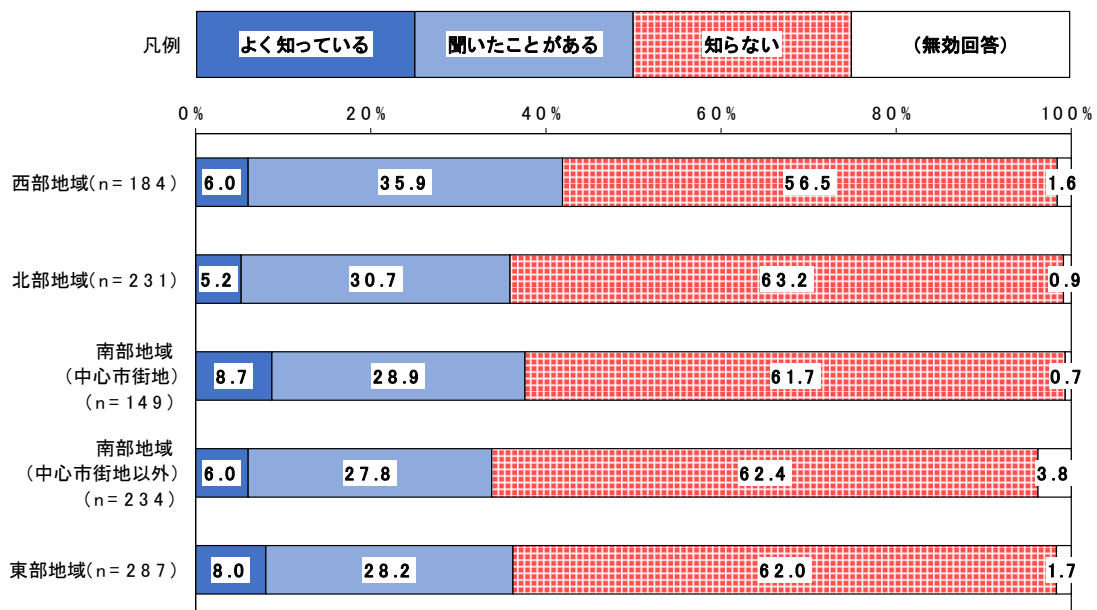
○74歳以下の年齢層では、いずれも「知らない」が50%を超えています。



<地域別>

○「よく知っている」と「聞いたことがある」の合計は、西部地域が41.9%で最も高くなっています。

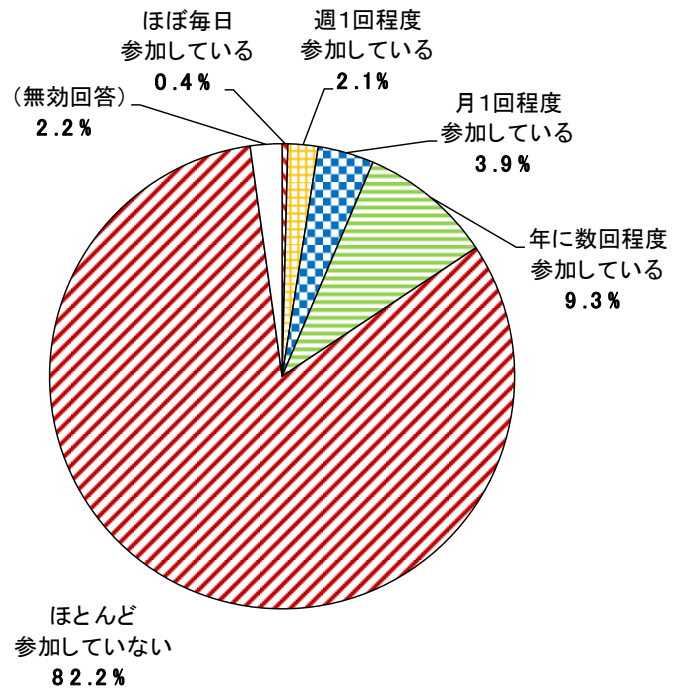
○いずれの地域でも、「知らない」が50%を超えています。



問 38) あなたは、この1年間に、地域の活動やイベントに参加しましたか。

<全体 (n=1105) >

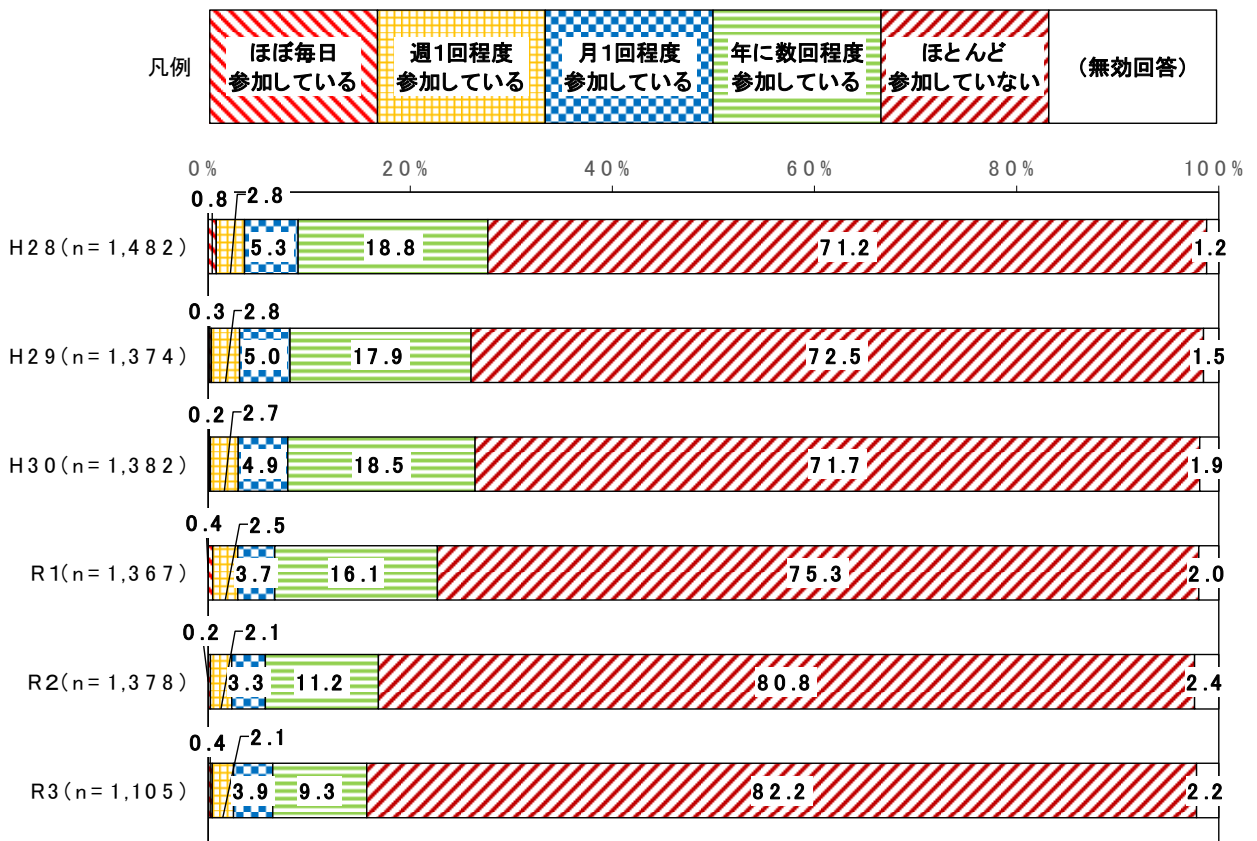
○「ほぼ毎日参加している」、「週1回程度参加している」、「月1回程度参加している」、「年に数回程度参加している」の合計が 15.7% となっています。



<経年比較>

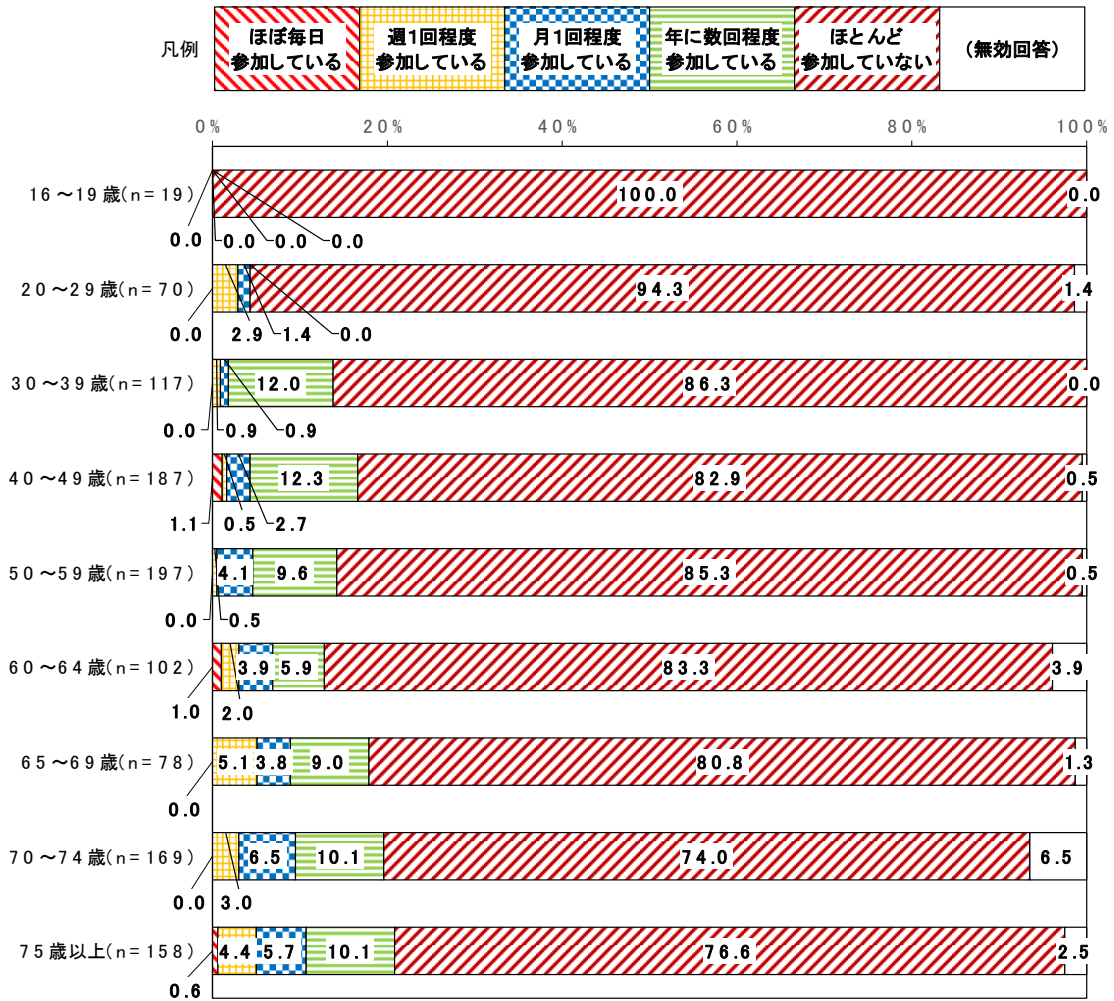
○「ほぼ毎日参加している」、「週1回程度参加している」、「月1回程度参加している」、「年に数回程度参加している」の合計は平成28年度以降、減少傾向で推移しています。

○「ほとんど参加していない」(82.2%)は、平成28年度以降最も高くなっています。



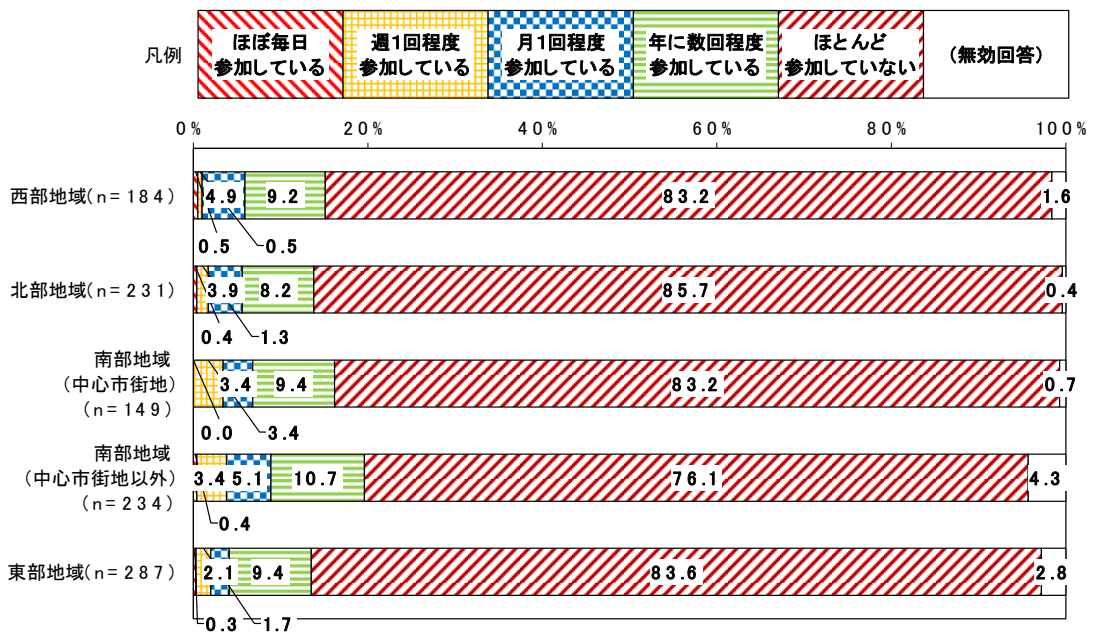
<年齢層別>

○「ほぼ毎日参加している」、「週1回程度参加している」、「月1回程度参加している」、「年に数回程度参加している」の合計は、75歳以上が20.8%で最も高く、次いで70～74歳の19.6%の順となっています。



<地域別>

○いずれの地域も「ほぼ毎日参加している」、「週1回程度参加している」、「月1回程度参加している」、「年に数回程度参加している」の合計が、10%台となっています。

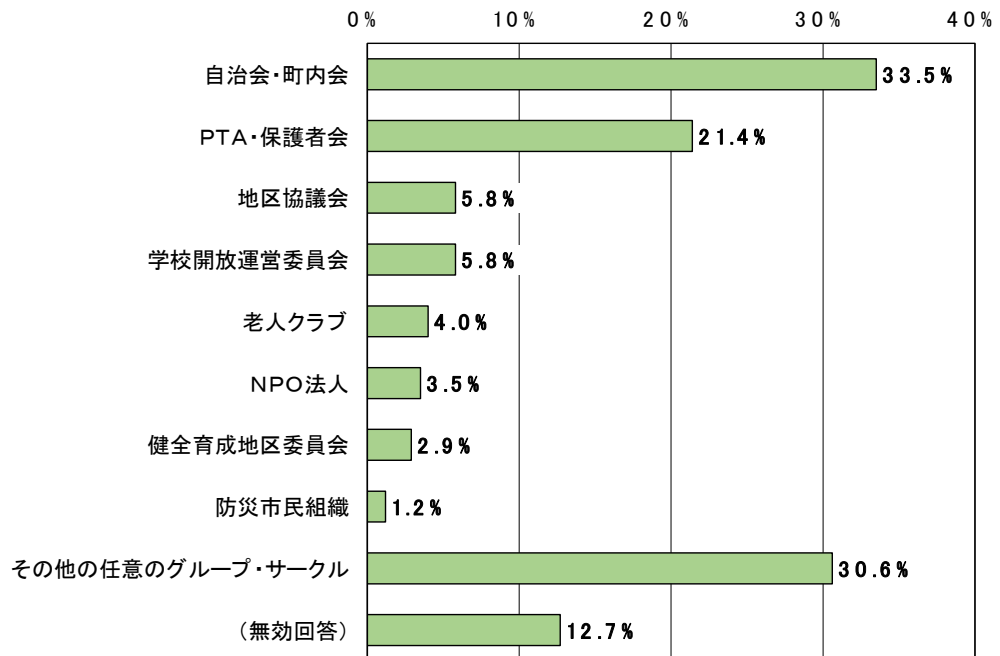


問 38-1) 参加した団体，活動，場所について，あてはまるものに○をつけてください。

団体

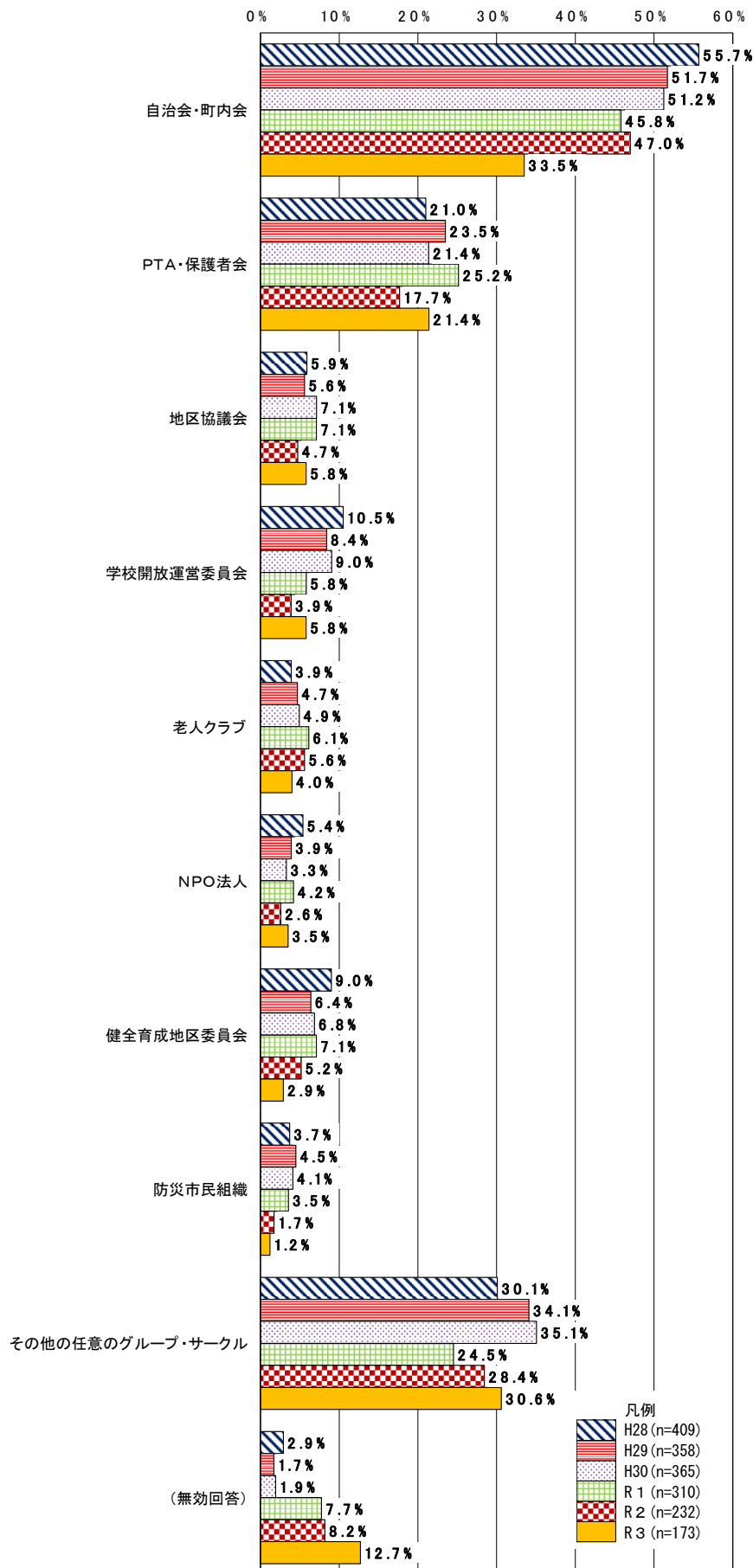
<全体 (n=173) >

○「自治会・町内会」が 33.5%で最も高く，次いで「その他の任意のグループ・サークル」の 30.6%の順となっています。



<経年比較>

○「自治会・町内会」は、令和元年度（45.8%）から令和2年度（47.0%）にかけて増加しましたが、令和3年度（33.5%）には13.5ポイント減少しています。また、「PTA・保護者会」（21.4%）は、令和2年度（17.7%）に比べ3.7ポイント増加しています。



第3章 調査結果<日ごろの意識や行動>

<年齢層別>

○50～69歳，75歳以上では「自治会・町内会」，30～49歳では「PTA・保護者会」が最も高くなっています。

選択肢	合計	16～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75歳以上
全体	173	0	3	16	31	28	13	14	33	33
	100.0%	0.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
自治会・町内会	58	0	0	2	1	9	6	9	14	17
	33.5%	0.0%	0.0%	12.5%	3.2%	32.1%	46.2%	64.3%	42.4%	51.5%
PTA・保護者会	37	0	0	6	23	7	0	0	0	0
	21.4%	0.0%	0.0%	37.5%	74.2%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
地区協議会	10	0	0	0	0	4	1	1	2	2
	5.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	14.3%	7.7%	7.1%	6.1%	6.1%
学校開放運営委員会	10	0	0	0	3	4	0	1	1	1
	5.8%	0.0%	0.0%	0.0%	9.7%	14.3%	0.0%	7.1%	3.0%	3.0%
老人クラブ	7	0	0	0	0	0	0	2	3	2
	4.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	14.3%	9.1%	6.1%
NPO法人	6	0	0	0	0	3	1	0	1	1
	3.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	10.7%	7.7%	0.0%	3.0%	3.0%
健全育成地区委員会	5	0	0	1	2	1	0	0	0	1
	2.9%	0.0%	0.0%	6.3%	6.5%	3.6%	0.0%	0.0%	0.0%	3.0%
防災市民組織	2	0	0	0	0	0	0	1	0	1
	1.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	7.1%	0.0%	3.0%
その他の任意のグループ・サークル	53	0	0	5	3	3	6	7	15	13
	30.6%	0.0%	0.0%	31.3%	9.7%	10.7%	46.2%	50.0%	45.5%	39.4%
(無効回答)	22	0	3	6	4	3	0	1	2	3
	12.7%	0.0%	100.0%	37.5%	12.9%	10.7%	0.0%	7.1%	6.1%	9.1%

(上段：実数(人)，下段：構成比)

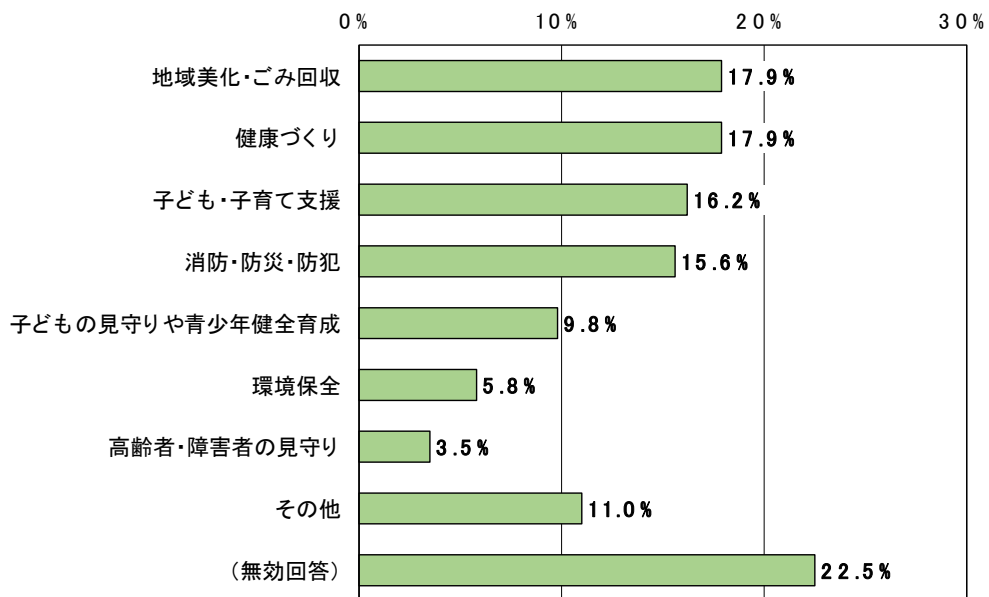
回答割合が最も高い：

回答割合が2番目に高い：

内容

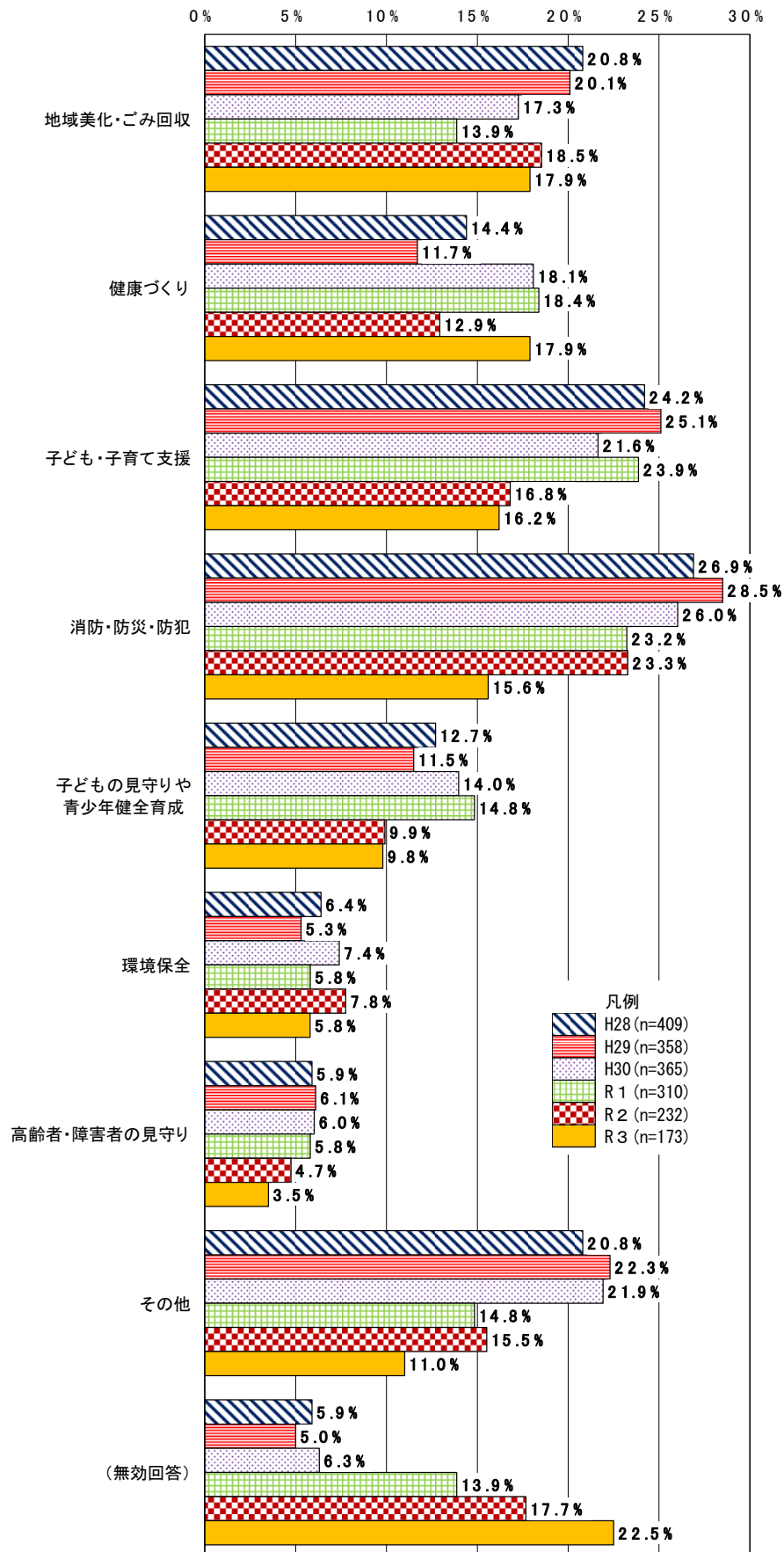
<全体 (n=173)>

○「地域美化・ごみ回収」及び「健康づくり」が17.9%で最も高く，次いで「子ども・子育て支援」の16.2%，「消防・防災・防犯」の15.6%の順となっています。



<経年比較>

○「地域美化・ごみ回収」は、令和元年度（13.9%）から令和2年度（18.5%）にかけて4.6ポイント増加しましたが、令和3年度（17.9%）には0.6ポイント減少しています。また、「消防・防災・防犯」は、平成29年度を境に減少傾向で推移しています。



第3章 調査結果<日ごろの意識や行動>

<年齢層別>

○30～59歳では「子ども・子育て支援」、65歳以上では「健康づくり」が高くなっています。

選択肢	合計	16～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75歳以上
全体	173	0	3	16	31	28	13	14	33	33
	100.0%	0.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
地域美化・ごみ回収	31	0	0	3	4	5	4	1	6	7
	17.9%	0.0%	0.0%	18.8%	12.9%	17.9%	30.8%	7.1%	18.2%	21.2%
健康づくり	31	0	0	0	2	5	2	7	7	8
	17.9%	0.0%	0.0%	0.0%	6.5%	17.9%	15.4%	50.0%	21.2%	24.2%
子ども・子育て支援	28	0	0	8	9	9	1	0	1	0
	16.2%	0.0%	0.0%	50.0%	29.0%	32.1%	7.7%	0.0%	3.0%	0.0%
消防・防災・防犯	27	0	0	0	1	3	4	5	7	7
	15.6%	0.0%	0.0%	0.0%	3.2%	10.7%	30.8%	35.7%	21.2%	21.2%
子どもの見守りや青少年健全育成	17	0	0	1	9	4	1	1	0	1
	9.8%	0.0%	0.0%	6.3%	29.0%	14.3%	7.7%	7.1%	0.0%	3.0%
環境保全	10	0	0	0	0	2	1	2	2	3
	5.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	7.1%	7.7%	14.3%	6.1%	9.1%
高齢者・障害者の見守り	6	0	0	0	0	2	1	1	2	0
	3.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	7.1%	7.7%	7.1%	6.1%	0.0%
その他	19	0	0	0	1	2	3	0	7	6
	11.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.2%	7.1%	23.1%	0.0%	21.2%	18.2%
(無効回答)	39	0	3	5	10	6	0	2	5	7
	22.5%	0.0%	100.0%	31.3%	32.3%	21.4%	0.0%	14.3%	15.2%	21.2%

(上段：実数(人)，下段：構成比)

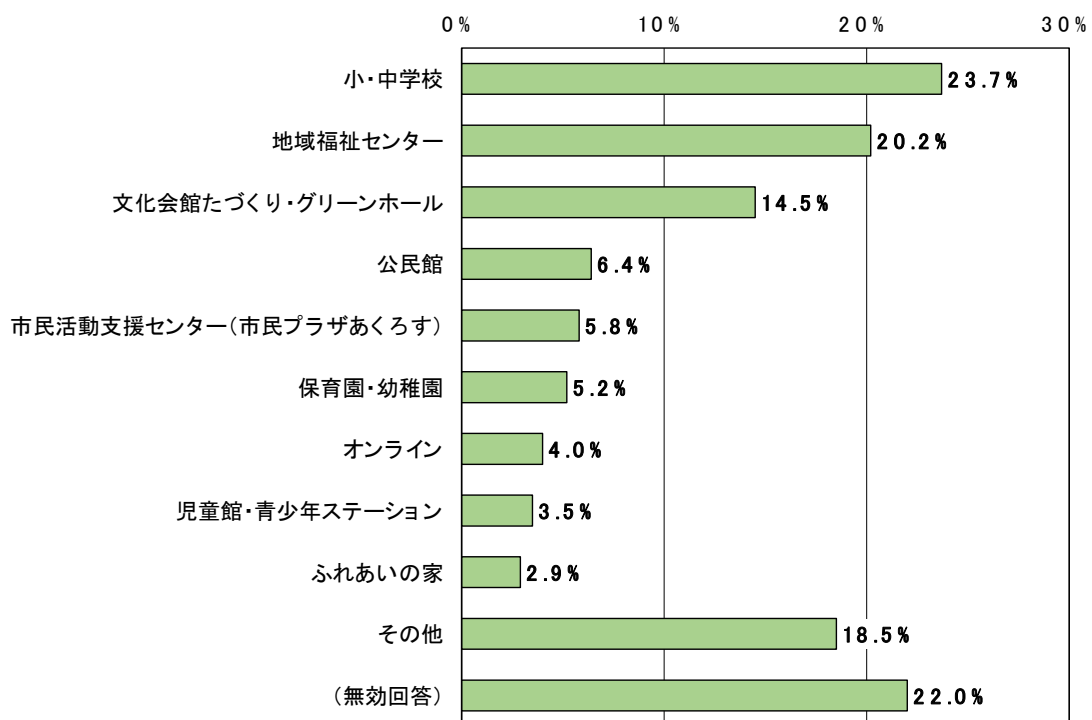
回答割合が最も高い：

回答割合が2番目に高い：

活動場所

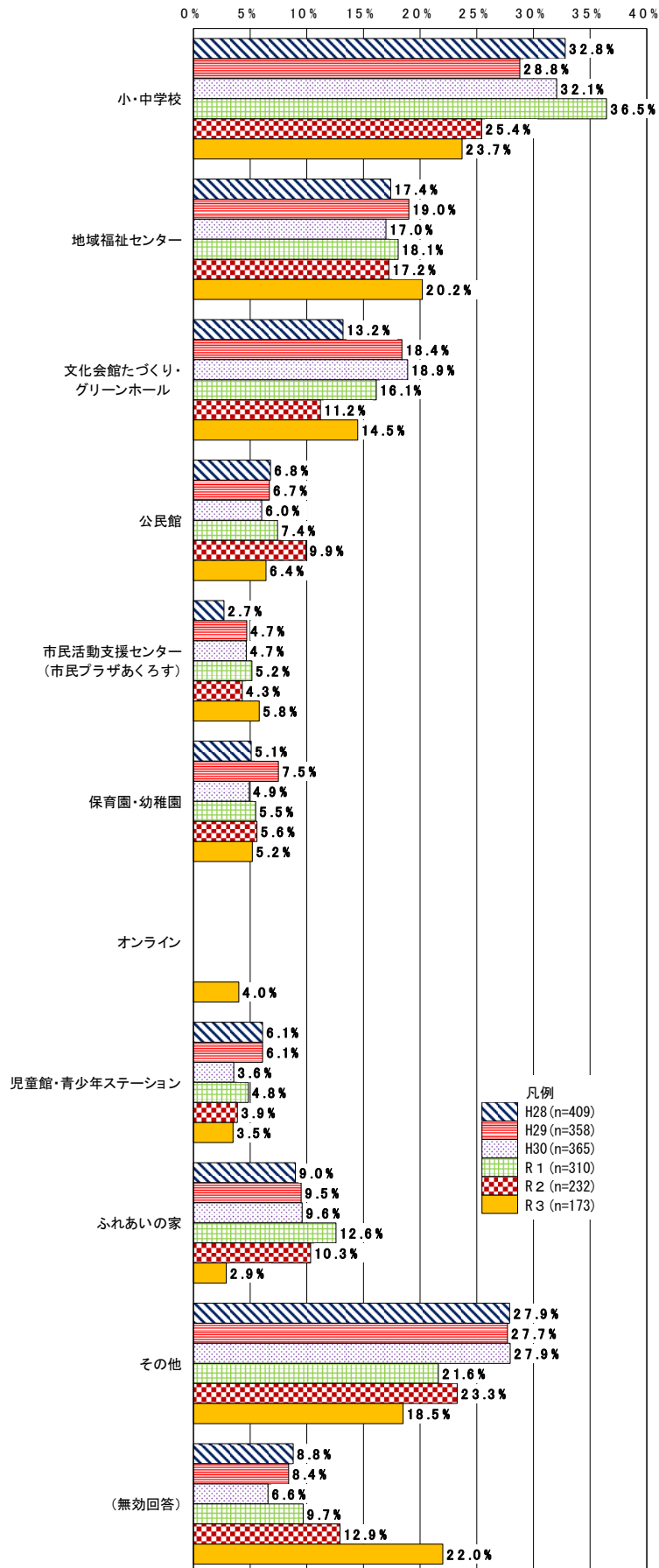
<全体 (n=173)>

○「小・中学校」が23.7%で最も高く、次いで「地域福祉センター」の20.2%、「その他」の18.5%の順になっています。



<経年比較>

○いずれの年度も「小・中学校」が最も高くなっていますが、令和3年度(23.7%)は令和2年度(25.4%)に比べ1.7ポイント減少している一方、「地域福祉センター」は3.0ポイント、「文化会館たづくり・グリーンホール」は3.3ポイント増加しています。



第3章 調査結果<日ごろの意識や行動>

<年齢層別>

○40～59歳では、「小・中学校」が最も高くなっています。

また、20～29歳及び70歳以上では、「地域福祉センター」が最も高くなっています。

選択肢	合計	16～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75歳以上
全体	173	0	3	16	31	28	13	14	33	33
	100.0%	0.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
小・中学校	41	0	0	4	17	13	1	2	2	2
	23.7%	0.0%	0.0%	25.0%	54.8%	46.4%	7.7%	14.3%	6.1%	6.1%
地域福祉センター	35	0	1	1	1	4	3	4	10	11
	20.2%	0.0%	33.3%	6.3%	3.2%	14.3%	23.1%	28.6%	30.3%	33.3%
文化会館たづくり・グリーンホール	25	0	0	2	1	2	2	4	10	4
	14.5%	0.0%	0.0%	12.5%	3.2%	7.1%	15.4%	28.6%	30.3%	12.1%
公民館	11	0	0	2	1	0	1	0	2	5
	6.4%	0.0%	0.0%	12.5%	3.2%	0.0%	7.7%	0.0%	6.1%	15.2%
市民活動支援センター（市民プラザあくろす）	10	0	0	0	0	3	1	0	6	0
	5.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	10.7%	7.7%	0.0%	18.2%	0.0%
保育園・幼稚園	9	0	1	5	3	0	0	0	0	0
	5.2%	0.0%	33.3%	31.3%	9.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
オンライン	7	0	0	3	3	0	0	1	0	0
	4.0%	0.0%	0.0%	18.8%	9.7%	0.0%	0.0%	7.1%	0.0%	0.0%
児童館・青少年ステーション	6	0	1	3	1	0	0	0	0	1
	3.5%	0.0%	33.3%	18.8%	3.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.0%
ふれあいの家	5	0	0	1	1	2	1	0	0	0
	2.9%	0.0%	0.0%	6.3%	3.2%	7.1%	7.7%	0.0%	0.0%	0.0%
その他	32	0	0	1	2	3	4	6	8	7
	18.5%	0.0%	0.0%	6.3%	6.5%	10.7%	30.8%	42.9%	24.2%	21.2%
（無効回答）	38	0	1	2	8	8	2	1	5	10
	22.0%	0.0%	33.3%	12.5%	25.8%	28.6%	15.4%	7.1%	15.2%	30.3%

（上段：実数（人），下段：構成比）

回答割合が最も高い：

回答割合が2番目に高い：

<自由記述>主な意見を抜粋

【図表 活動場所のその他の例】（27件）

・ 自宅周辺	・ 体育館
・ 多摩川	・ 地域

<自由記述>主な意見を抜粋

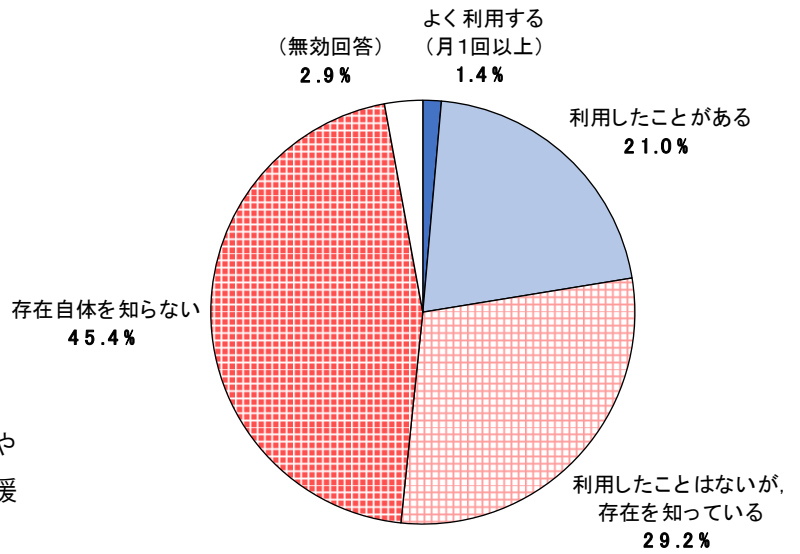
【図表 子育て支援や青少年健全育成に関する施策についてのご意見・ご提案】（15件）

・ 子育てや、子供の教育などには、地域の温かい思いや働きかけが必要。
・ 子供食堂の拡充。虐待対策の強化。

問 39) あなたは、調布市市民活動支援センター※（市民プラザあくろす 2 階（国領駅北側コクティーン内））を利用したことがありますか。

<全体 (n=1105) >

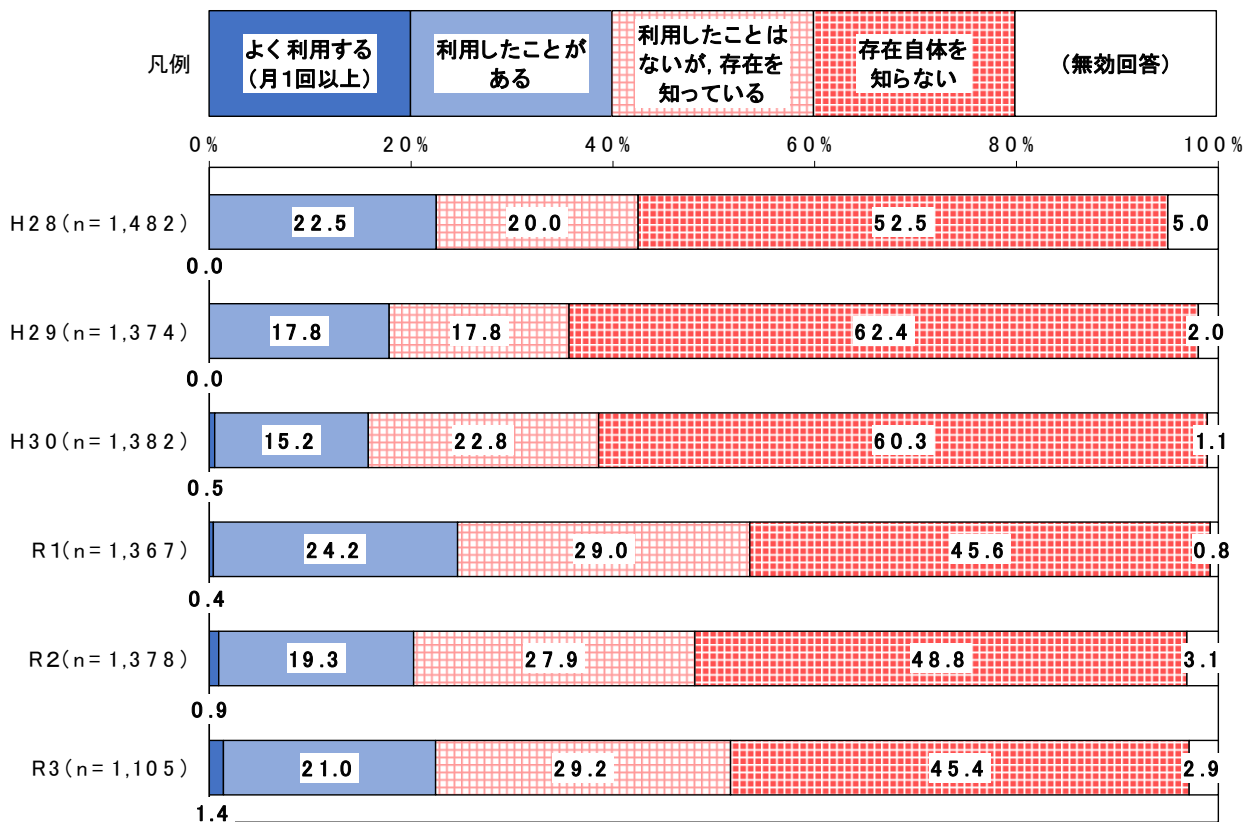
- 「よく利用する（月 1 回以上）」が 1.4%、「利用したことがある」が 21.0%で、合計 22.4%となっています。
- 一方、「利用したことはないが、存在を知っている」は 29.2%、「存在自体を知らない」は 45.4%となっており、合計で 74.6%を占めています。



※市民活動支援センターは、市内の NPO 活動やボランティア活動など幅広い市民活動を支援するための拠点です。

<経年比較>

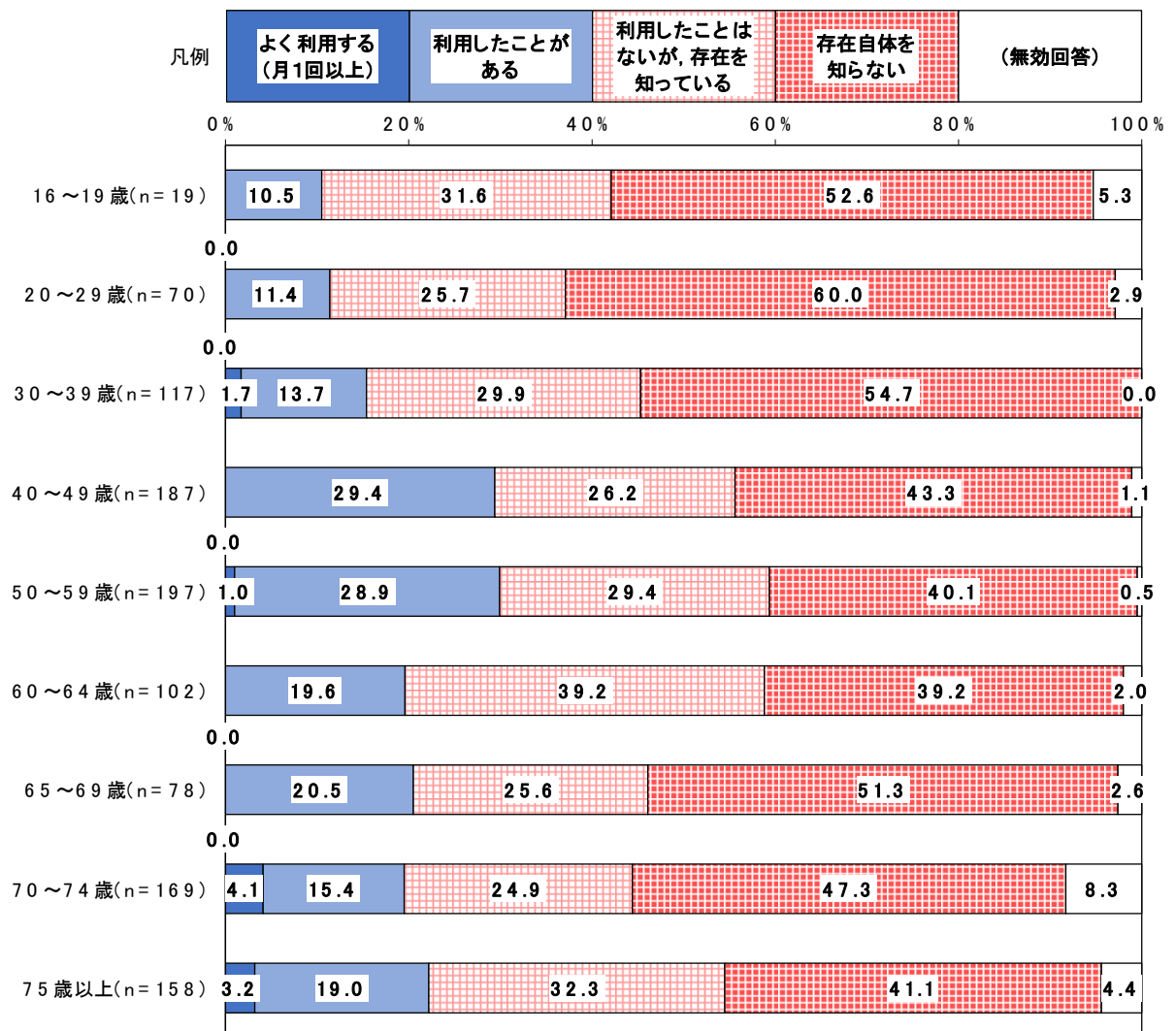
- 「よく利用する（月 1 回以上）」と「利用したことがある」の合計（22.4%）は、令和 2 年度（20.2%）に比べ 2.2 ポイント増加しています。



第3章 調査結果<日ごろの意識や行動>

<年齢層別>

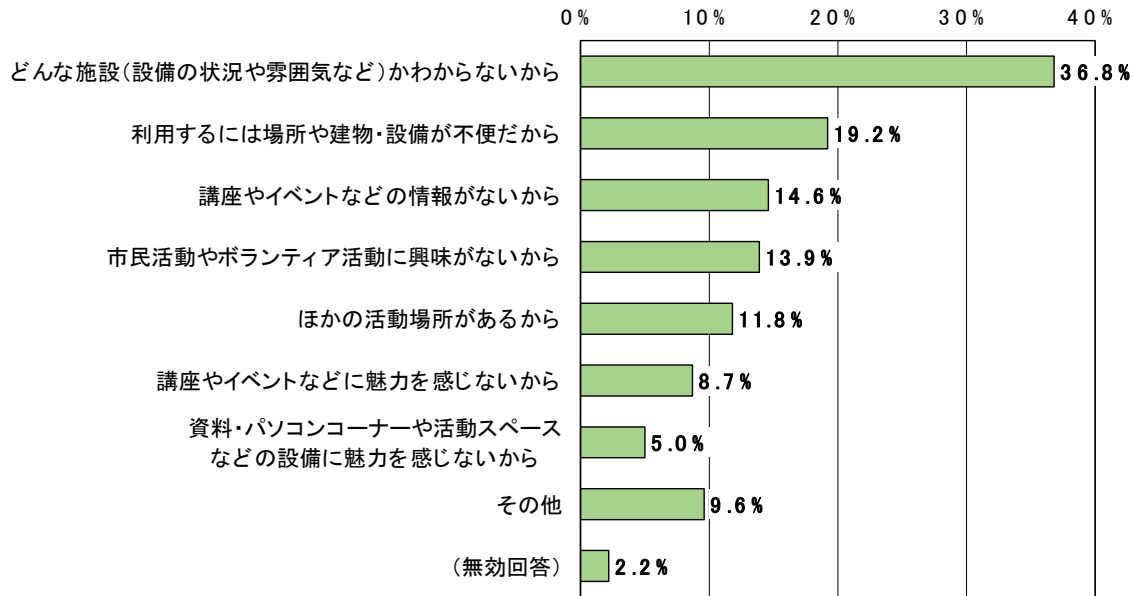
○いずれの年齢層でも、「よく利用する（月1回以上）」と「利用したことがある」の合計は30%を下回っています。



問 39-1) 調布市市民活動支援センターを利用しない理由は何ですか。

<全体 (n=323) >

○「どんな施設（設備の状況や雰囲気など）かわからないから」が36.8%で最も高く、次いで「利用するには場所や建物・設備が不便だから」の19.2%、「講座やイベントなどの情報がないから」の14.6%の順となっています。



<年齢層別>

○40～49歳では「利用するには場所や建物・設備が不便だから」が最も高くなっています。それ以外の年齢層では「どんな施設（設備の状況や雰囲気など）かわからないから」が最も高くなっています。

選択肢	合計	16～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75歳以上
全体	323	6	18	35	49	58	40	20	42	51
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
どんな施設（設備の状況や雰囲気など）かわからないから	119	4	9	21	14	22	15	5	15	13
	36.8%	66.7%	50.0%	60.0%	28.6%	37.9%	37.5%	25.0%	35.7%	25.5%
利用するには場所や建物・設備が不便だから	62	1	0	5	15	13	6	3	6	13
	19.2%	16.7%	0.0%	14.3%	30.6%	22.4%	15.0%	15.0%	14.3%	25.5%
講座やイベントなどの情報がないから	47	0	3	8	4	6	8	3	2	12
	14.6%	0.0%	16.7%	22.9%	8.2%	10.3%	20.0%	15.0%	4.8%	23.5%
市民活動やボランティア活動に興味が無いから	45	1	1	5	4	6	8	4	8	7
	13.9%	16.7%	5.6%	14.3%	8.2%	10.3%	20.0%	20.0%	19.0%	13.7%
ほかの活動場所があるから	38	0	3	2	7	6	1	4	5	9
	11.8%	0.0%	16.7%	5.7%	14.3%	10.3%	2.5%	20.0%	11.9%	17.6%
講座やイベントなどに魅力を感じないから	28	0	1	1	2	10	6	1	3	4
	8.7%	0.0%	5.6%	2.9%	4.1%	17.2%	15.0%	5.0%	7.1%	7.8%
資料・パソコンコーナーや活動スペースなどの設備に魅力を感じないから	16	0	2	1	0	4	2	1	4	2
	5.0%	0.0%	11.1%	2.9%	0.0%	6.9%	5.0%	5.0%	9.5%	3.9%
その他	31	0	1	3	9	4	4	2	4	4
	9.6%	0.0%	5.6%	8.6%	18.4%	6.9%	10.0%	10.0%	9.5%	7.8%
(無効回答)	7	0	0	0	2	1	0	0	1	3
	2.2%	0.0%	0.0%	0.0%	4.1%	1.7%	0.0%	0.0%	2.4%	5.9%

(上段：実数（人）、下段：構成比)

回答割合が最も高い：



回答割合が2番目に高い：

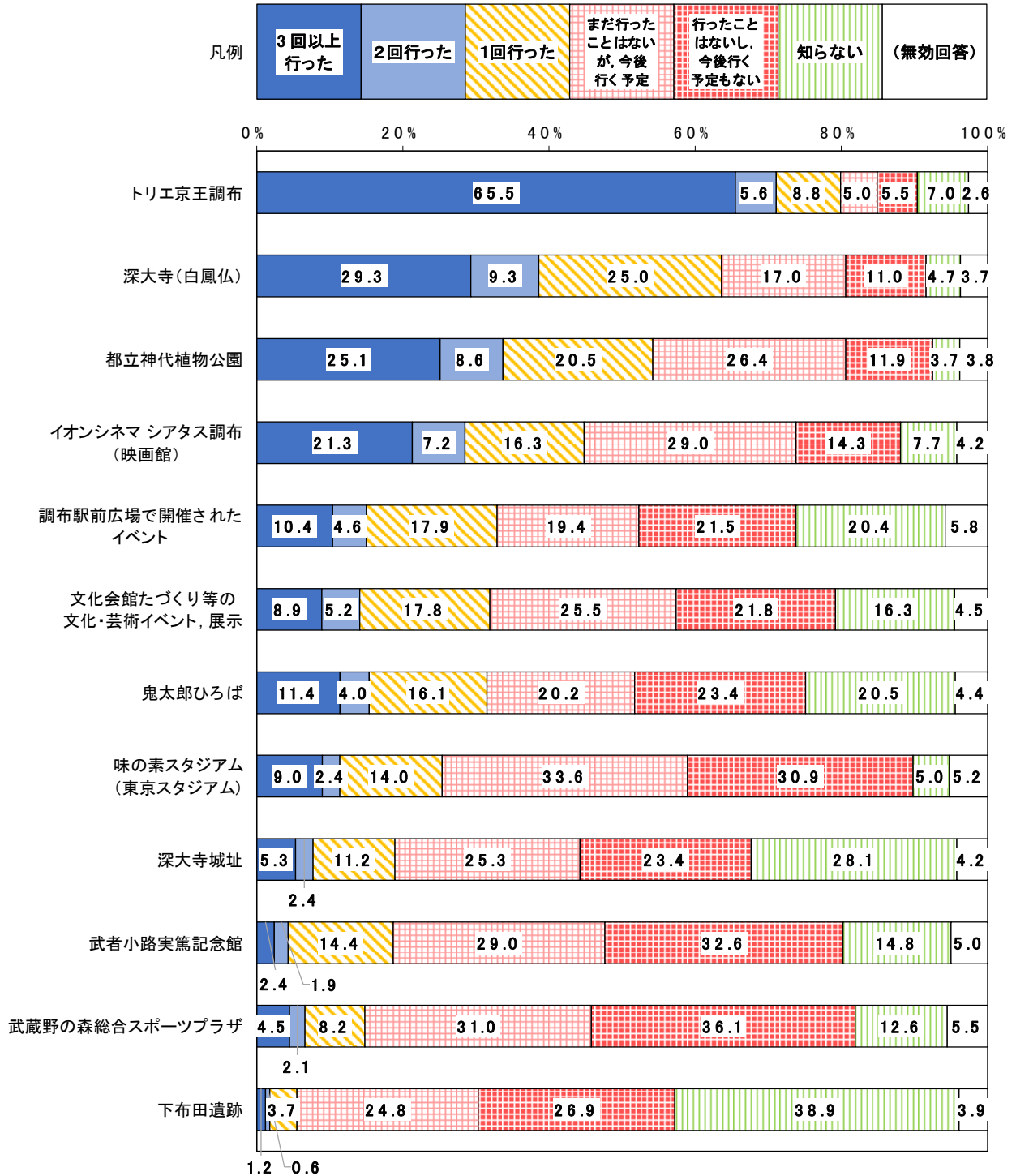


【産業・農業について】

問 40) あなたは、この1年間に次のイベントや施設・場所に行ったことがありますか。

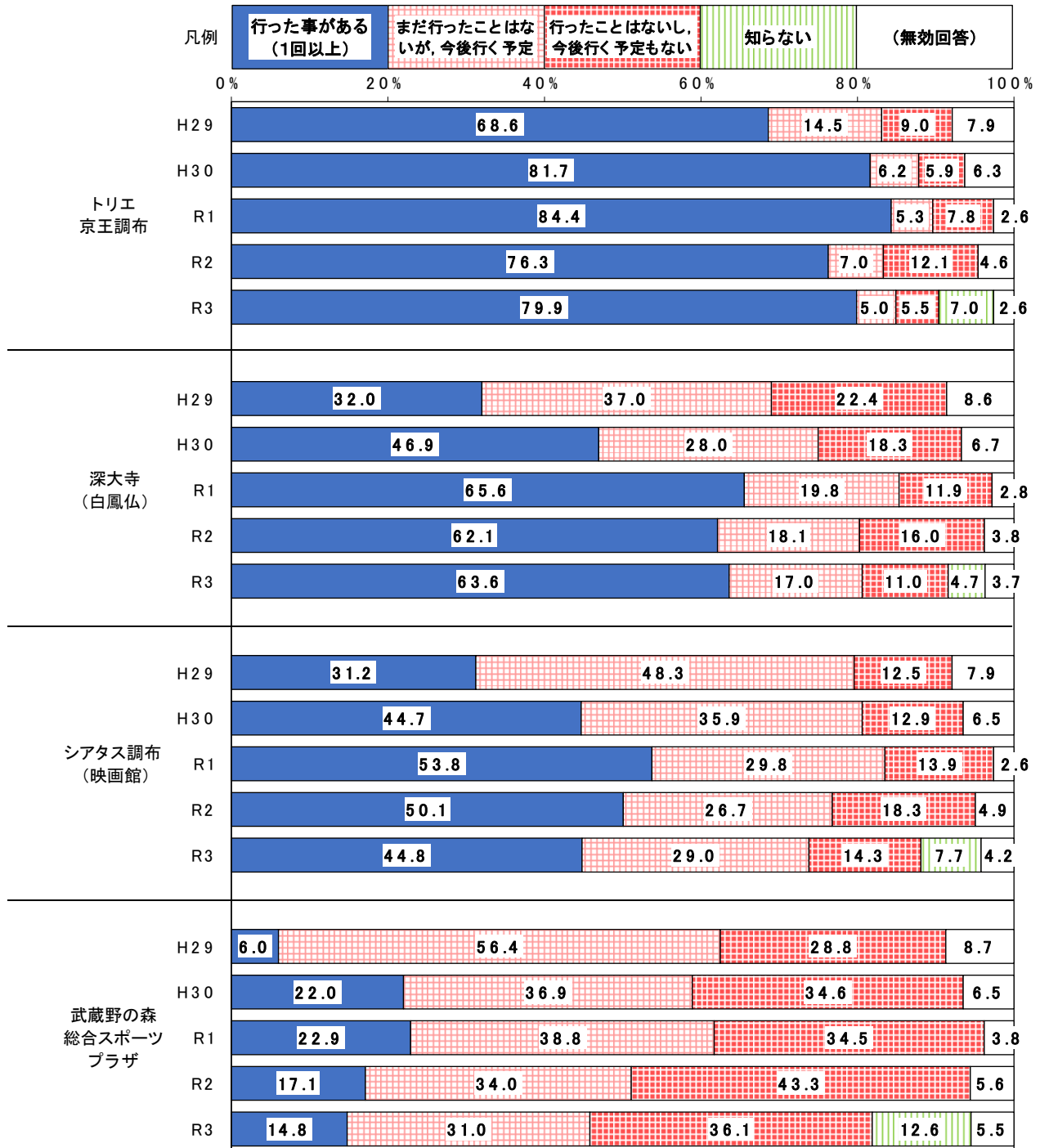
<全体 (n=1105) >

- 「1回行った」、「2回行った」、「3回以上行った」の合計が50%を超えているのは、「トリエ京王調布」、「深大寺（白鳳仏）」、「都立神代植物公園」となっています。
- 「味の素スタジアム（東京スタジアム）」、「武者小路実篤記念館」、「武蔵野の森総合スポーツプラザ」は、「まだ行ったことはないが、今後行く予定」と「行ったことはないし、今後行く予定もない」の合計が60%を超えています。



<経年比較>

○平成 29 年度以降，増加傾向にあった「トリエ京王調布」，「深大寺（白鳳仏）」，「シアタス調布（映画館）」，「武蔵野の森総合スポーツプラザ」に「行ったことがある（1 回以上）」と回答した方の割合は，令和元年度に比べ令和 2 年度には減少しましたが，「トリエ京王調布」，「深大寺（白鳳仏）」は令和 3 年度に増加しています。

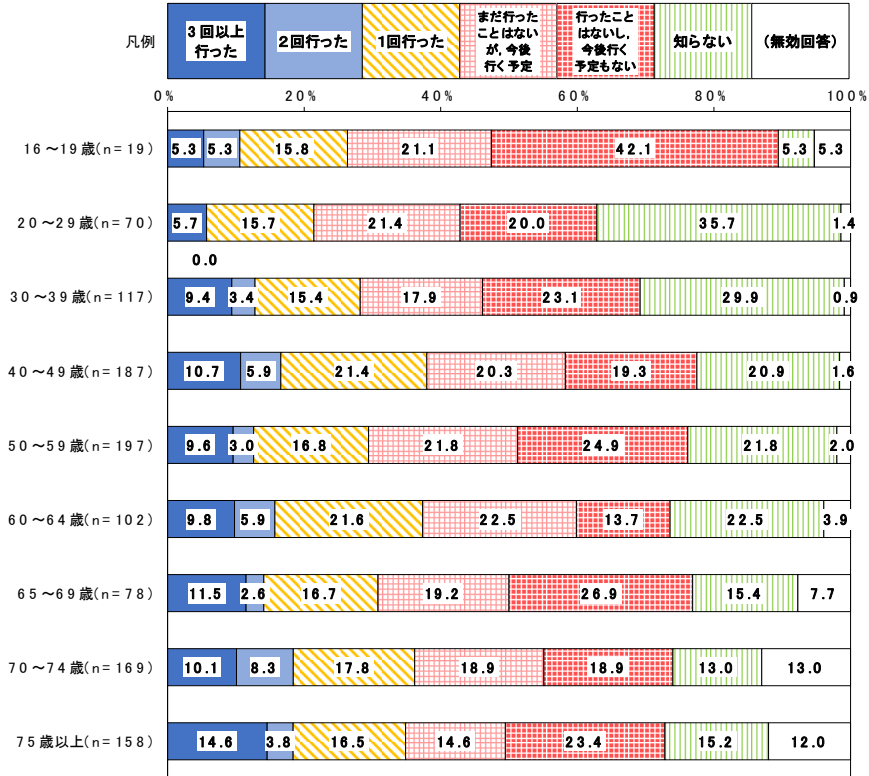


第3章 調査結果<日ごろの意識や行動>

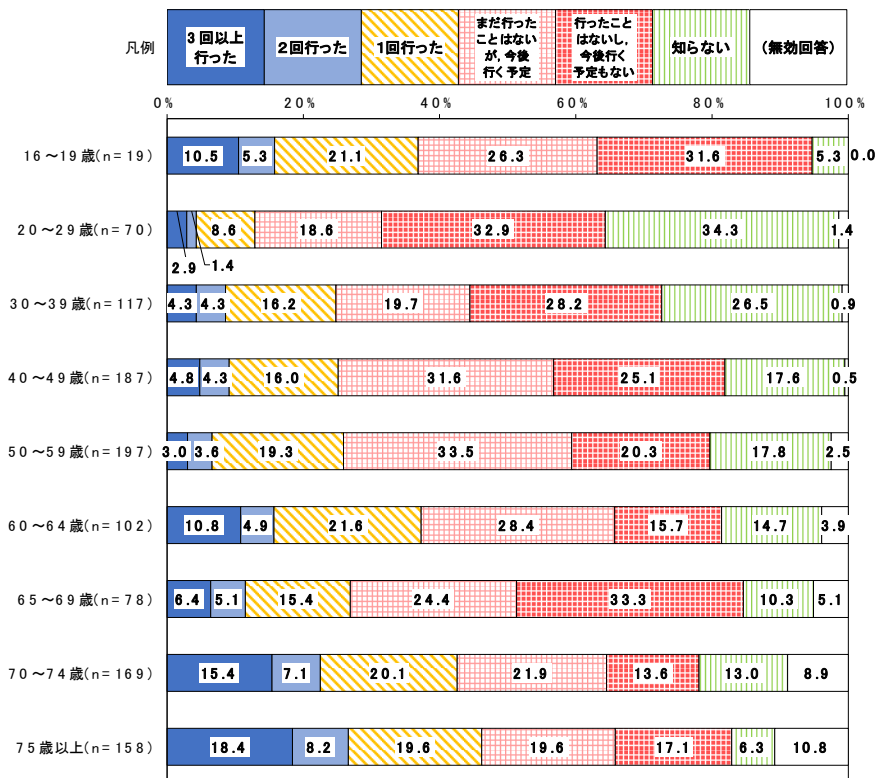
<年齢層別>

○「エトリエ京王調布」や「オイオンシネマシアタス調布（映画館）」は年代が下がるほど、「東京都立神代植物公園」は年代が上がるほど「1回行った」、「2回行った」、「3回以上行った」の合計が高くなる傾向にあります。

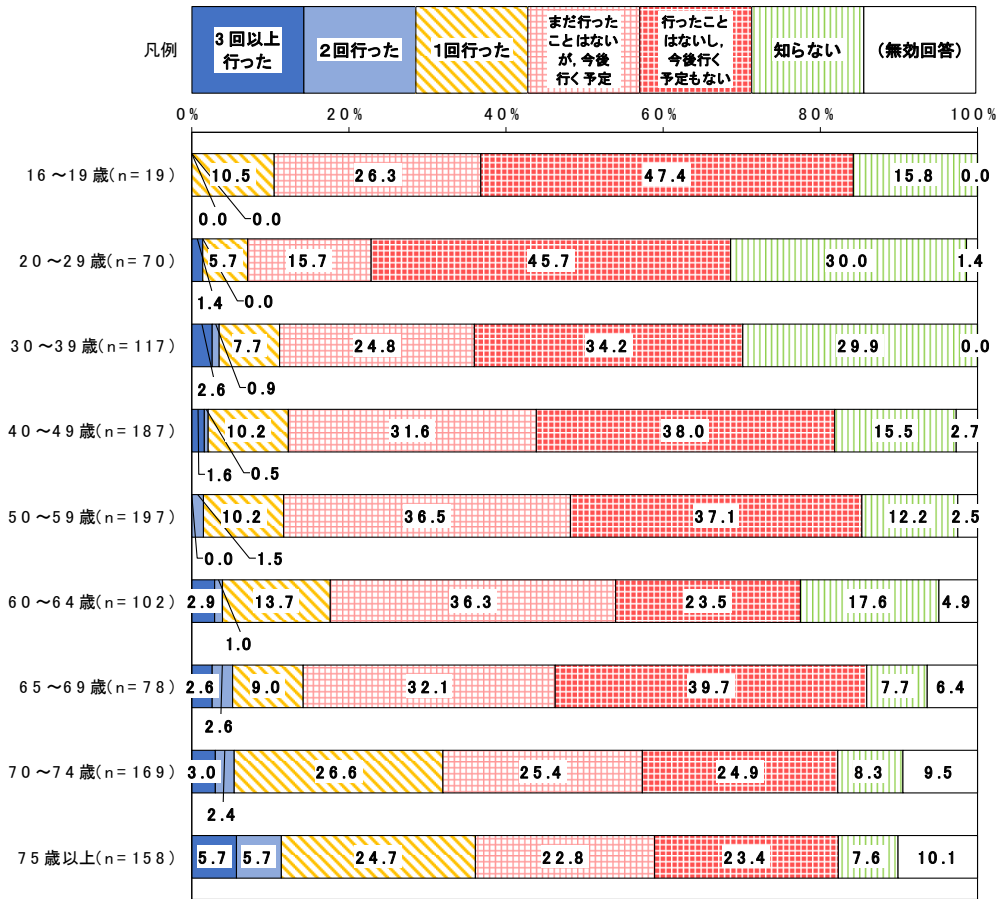
ア 調布駅前広場で開催されたイベント



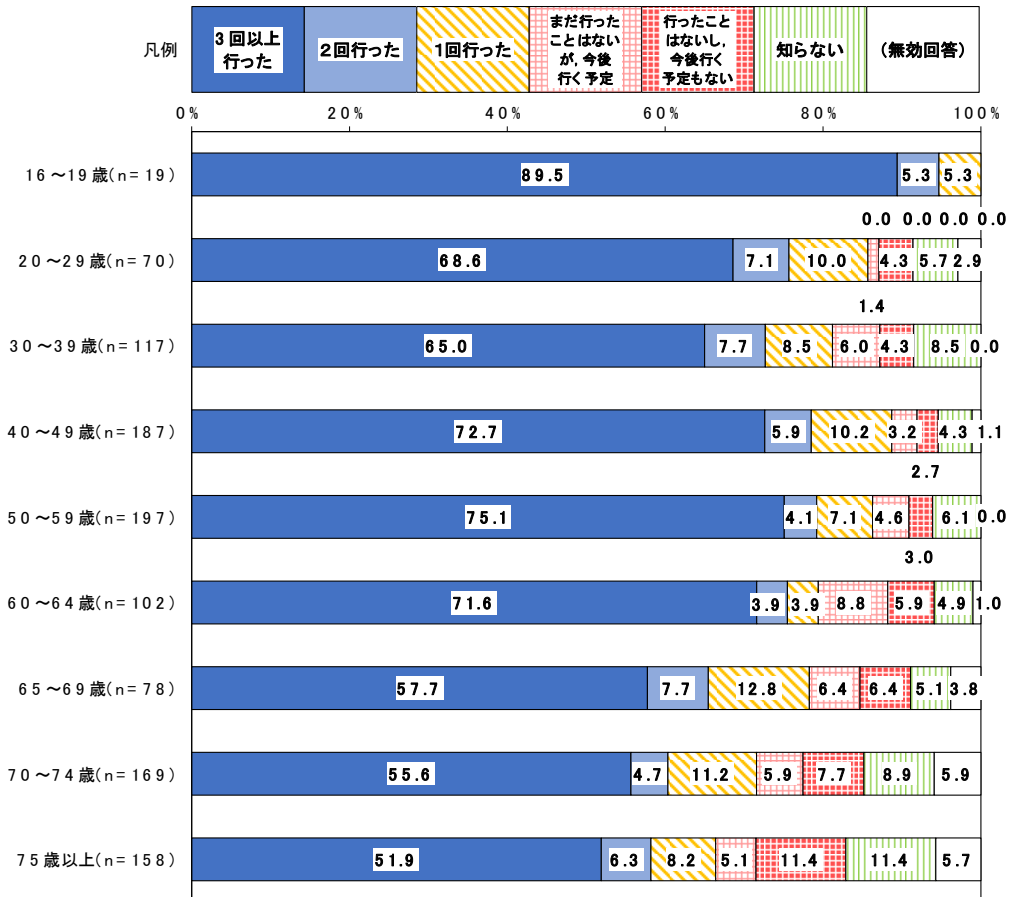
イ 文化会館たづくり等の文化・芸術イベント、展示



ウ 武者小路実篤記念館

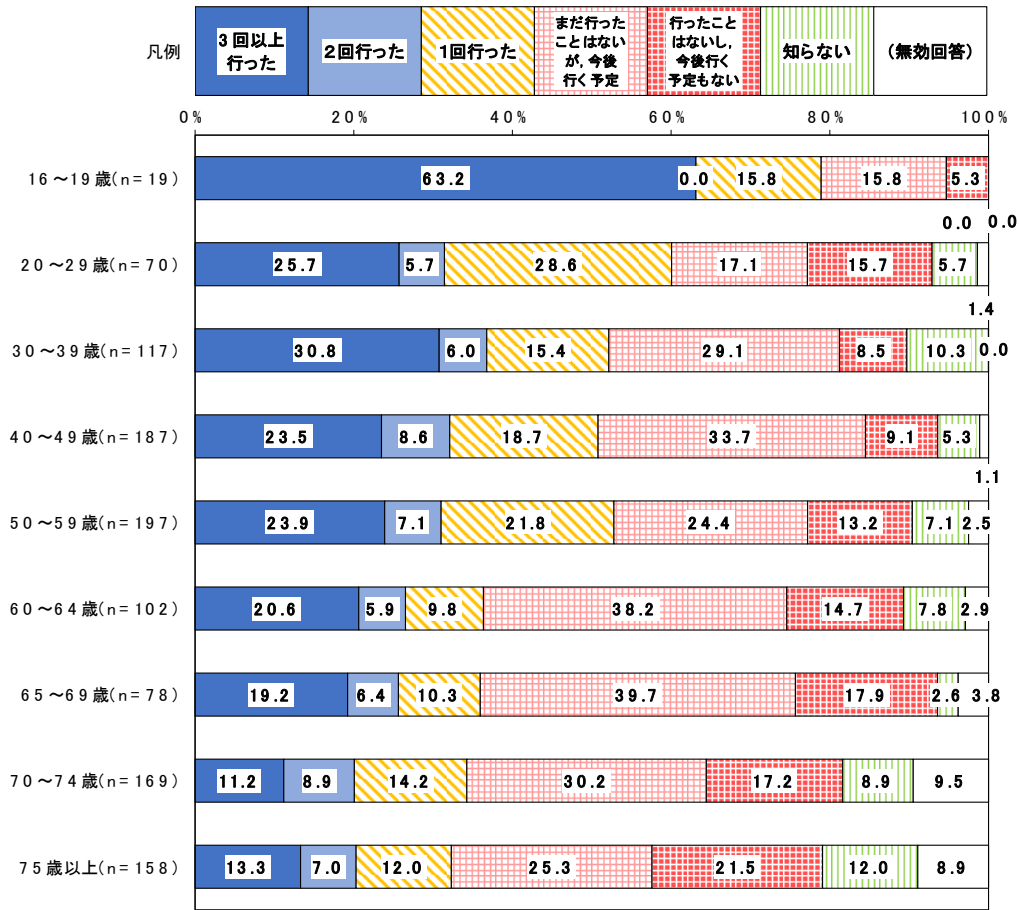


エ トリエ京王調布

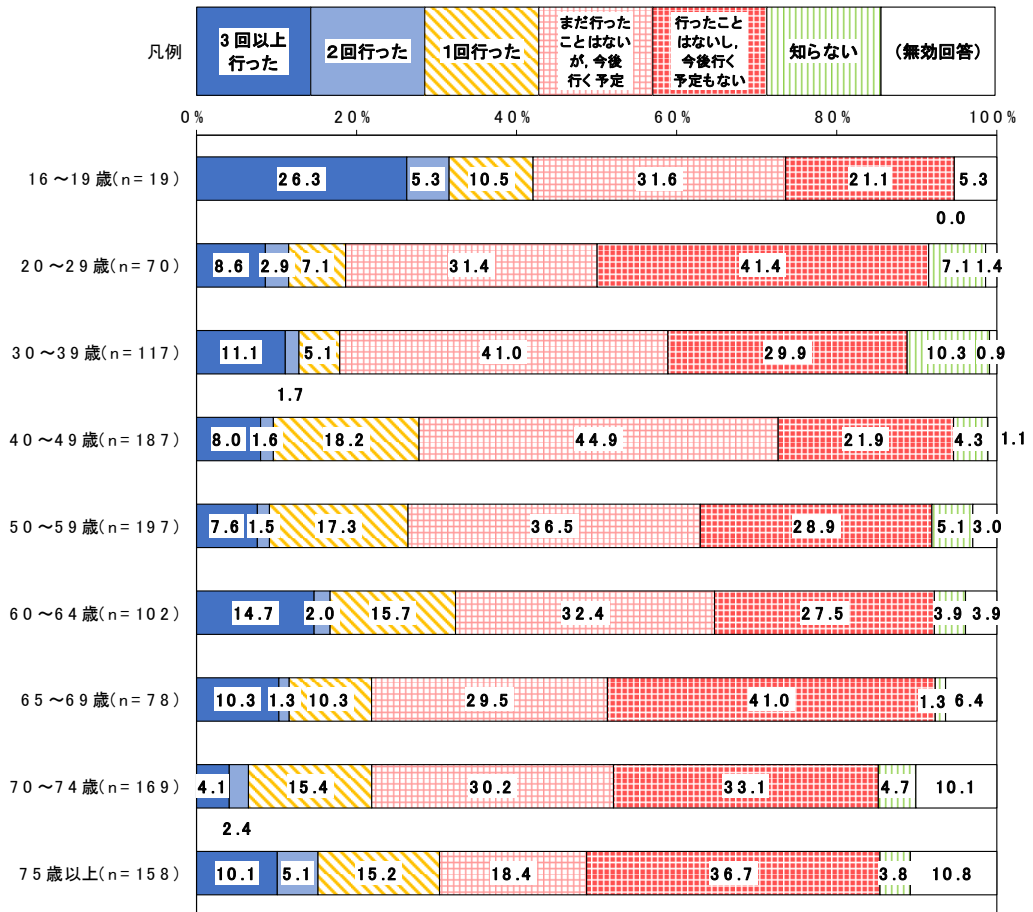


第3章 調査結果<日ごろの意識や行動>

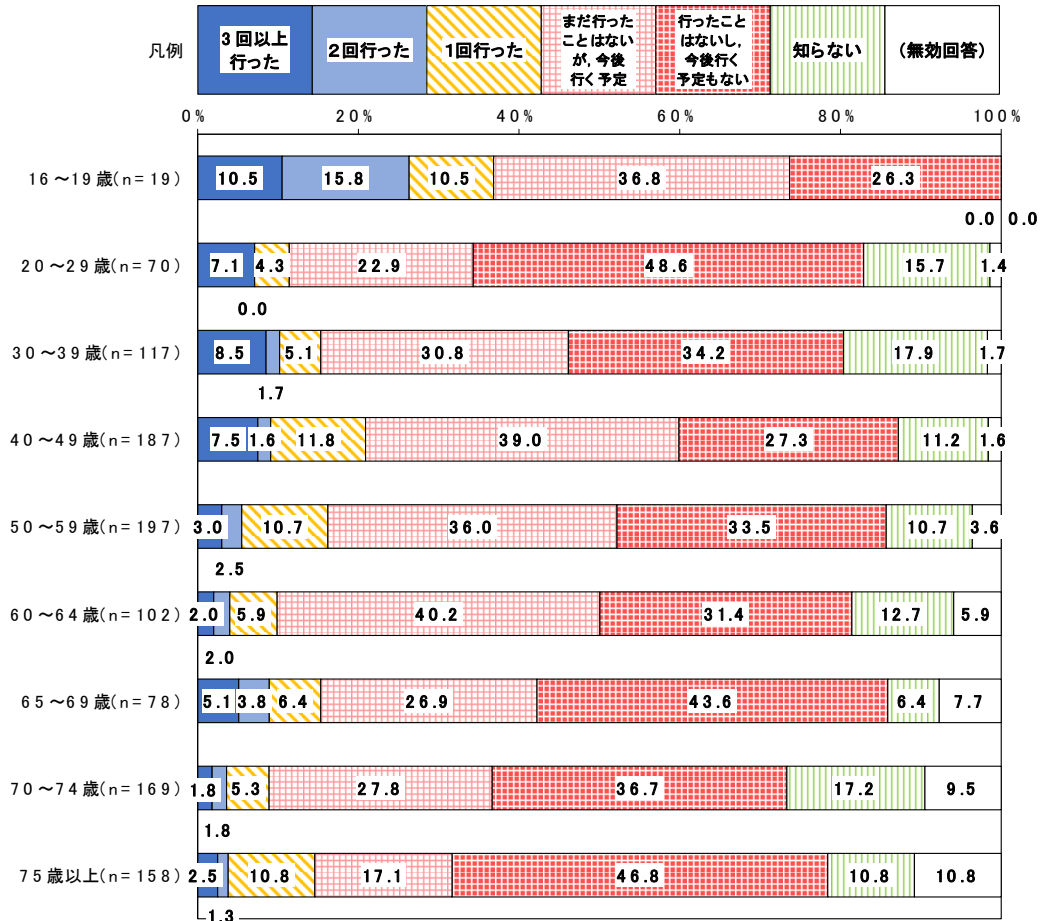
オ イオンシネマ シアタス調布（映画館）



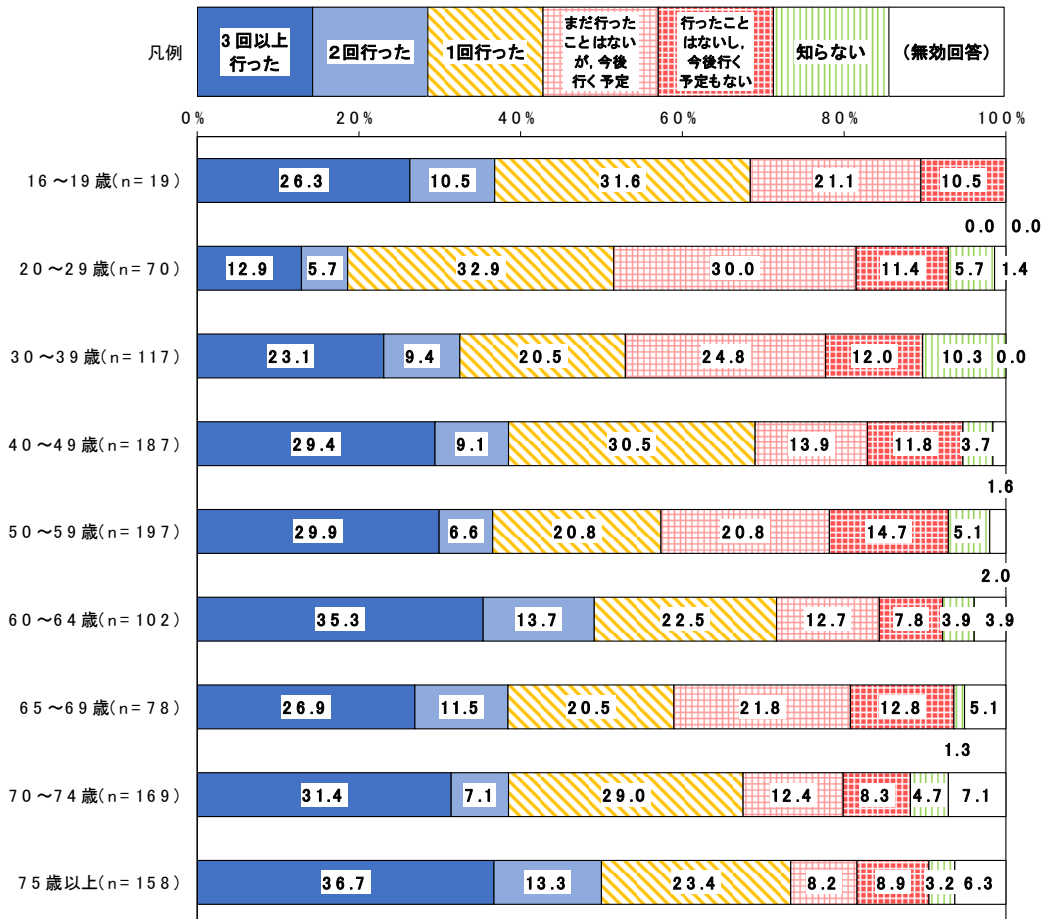
カ 味の素スタジアム（東京スタジアム）



キ 武蔵野の森総合スポーツプラザ

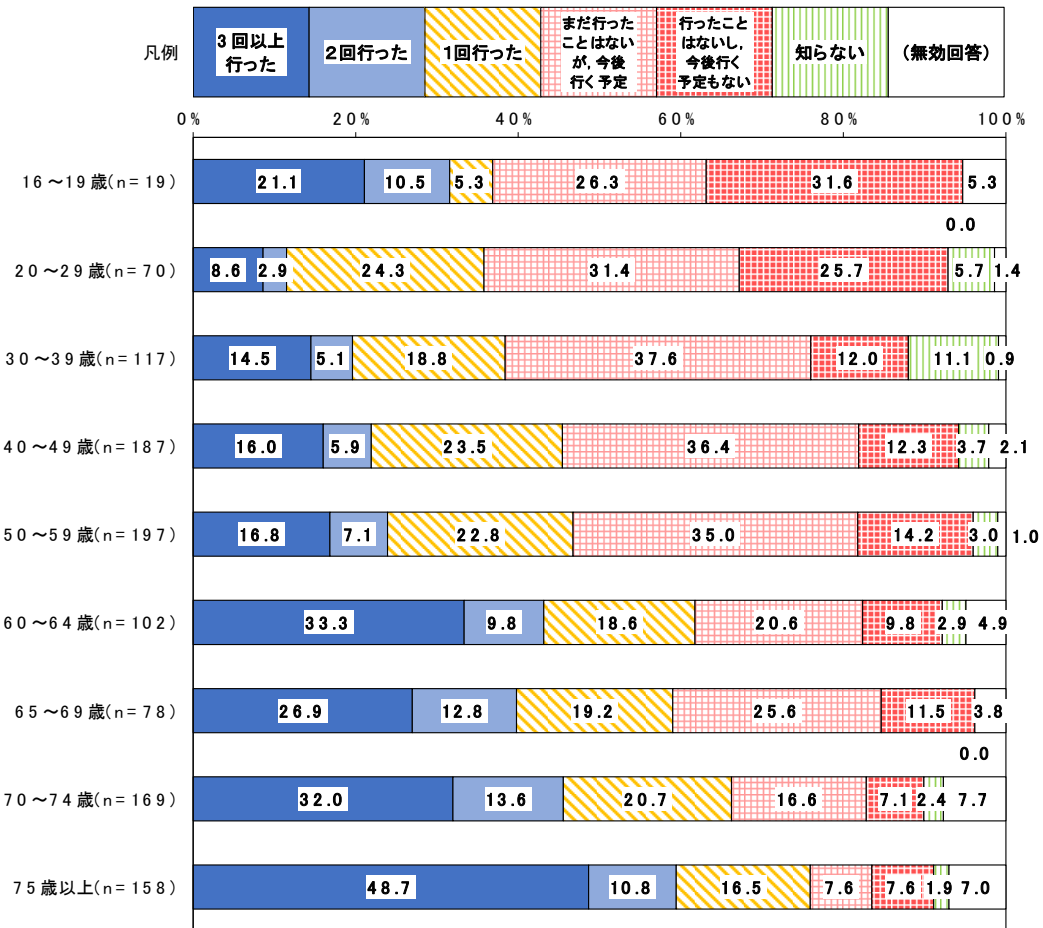


ク 深大寺（白鳳仏）

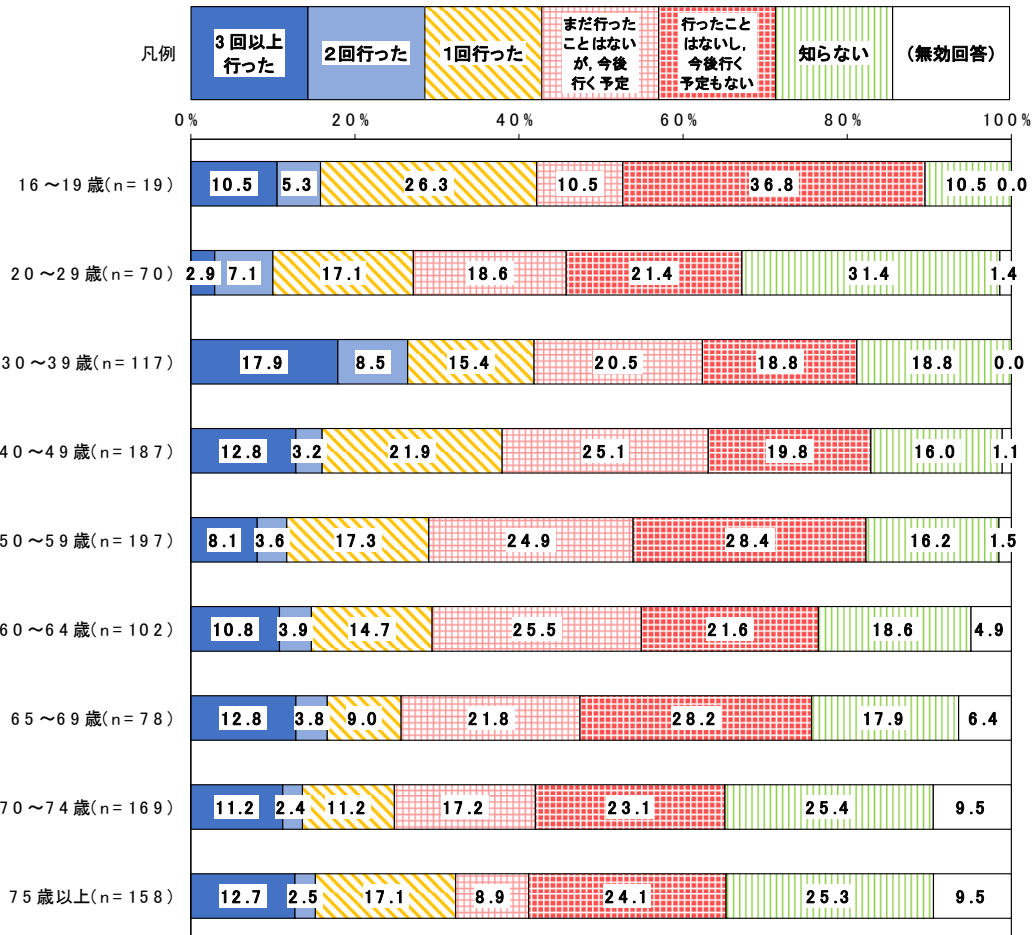


第3章 調査結果<日ごろの意識や行動>

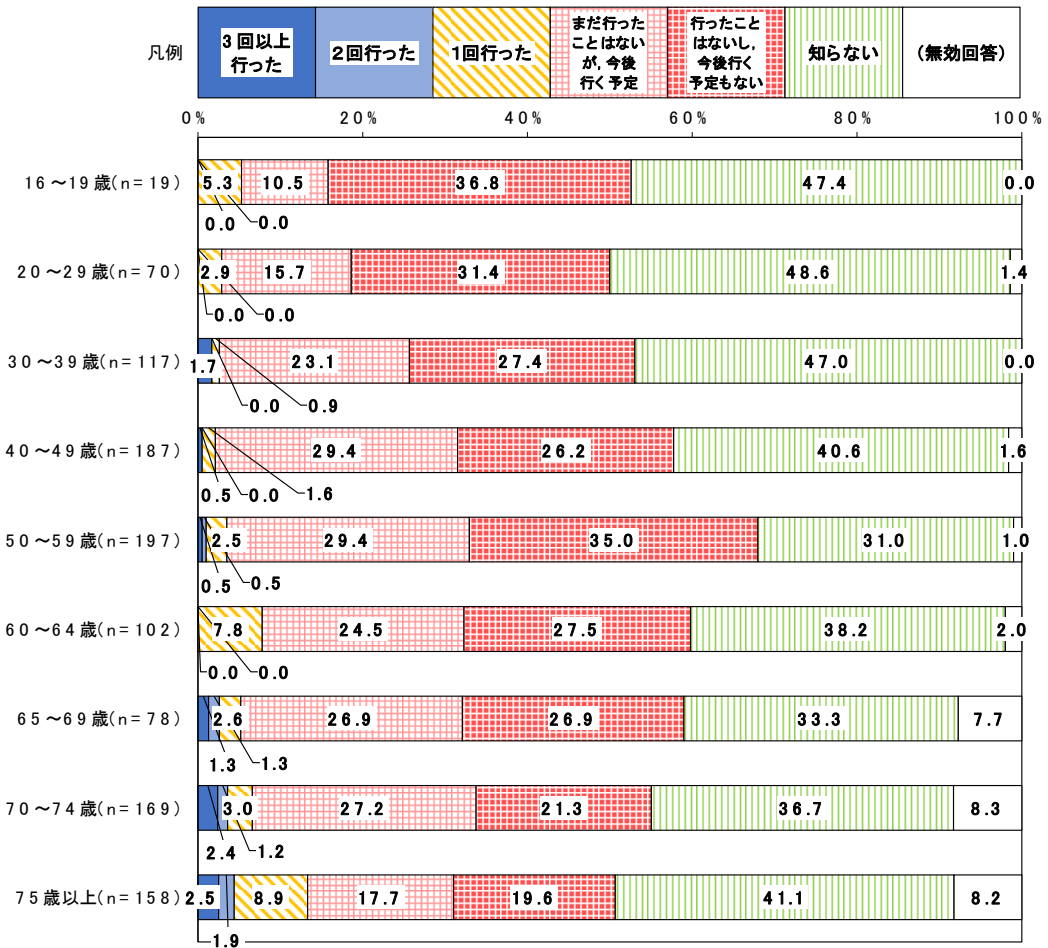
ケ 都立神代植物公園



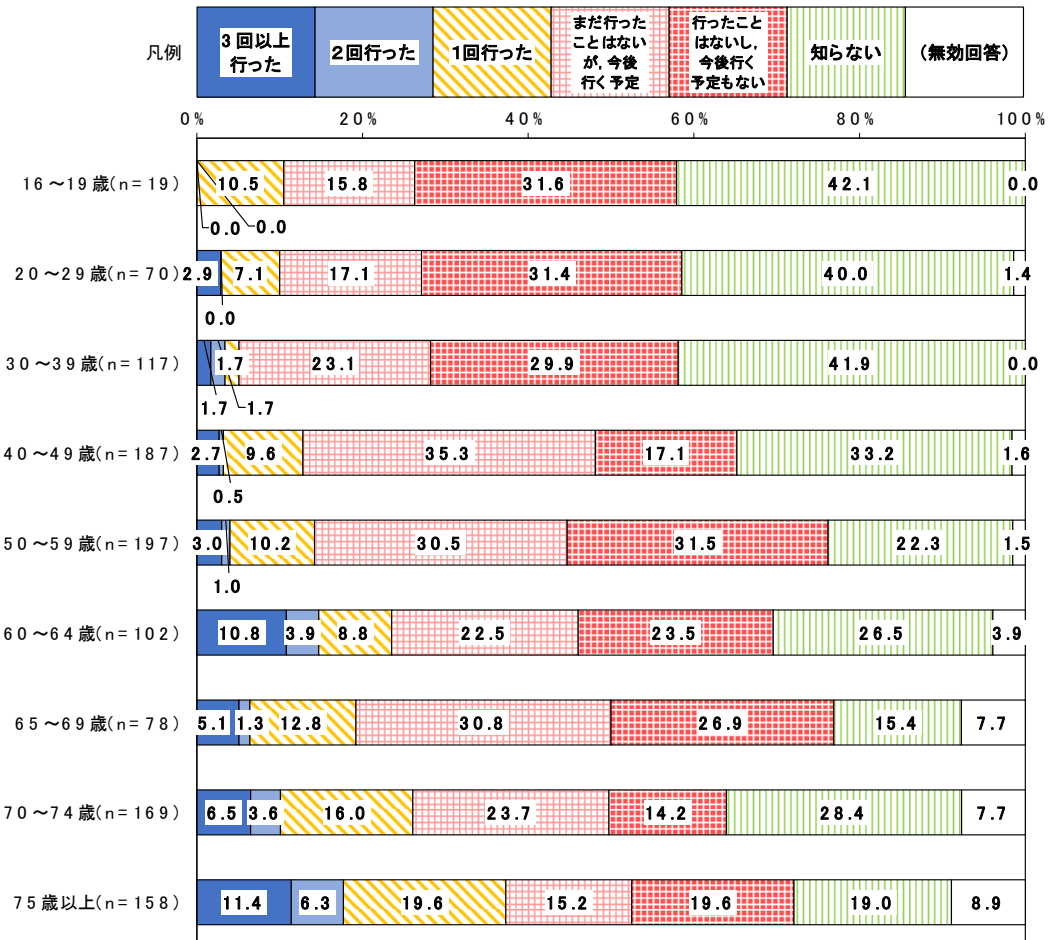
コ 鬼太郎ひろば



サ 下布田遺跡



シ 深大寺城址

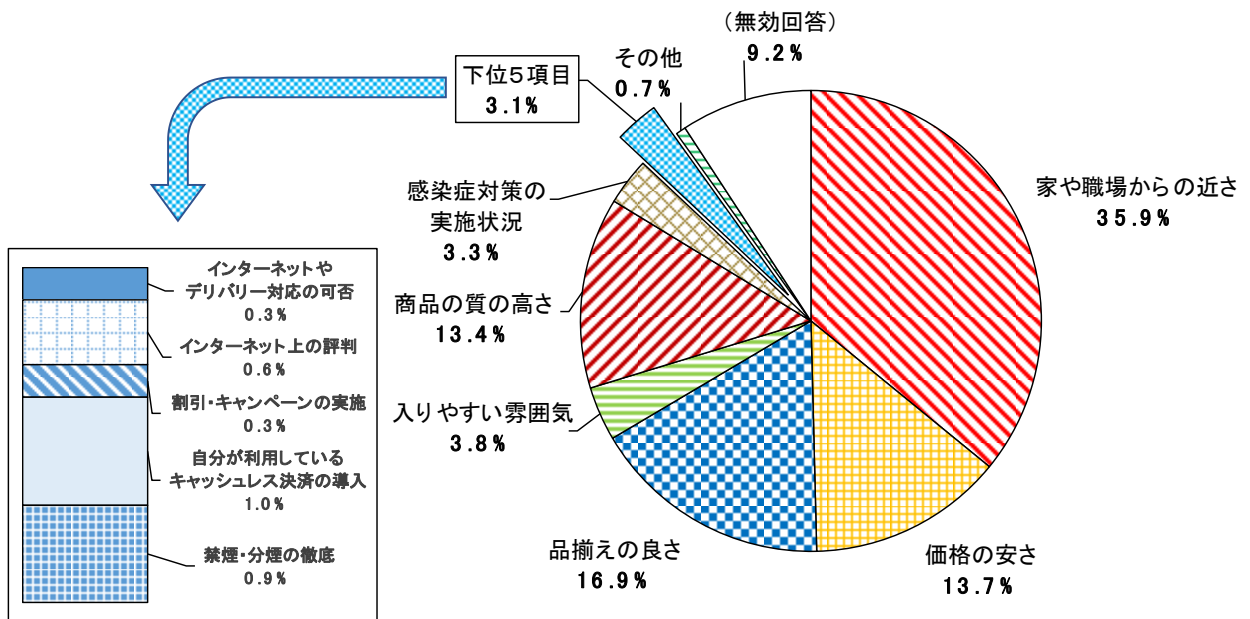


問 41) 買い物や食事など、お店選びで重視していることは何ですか。

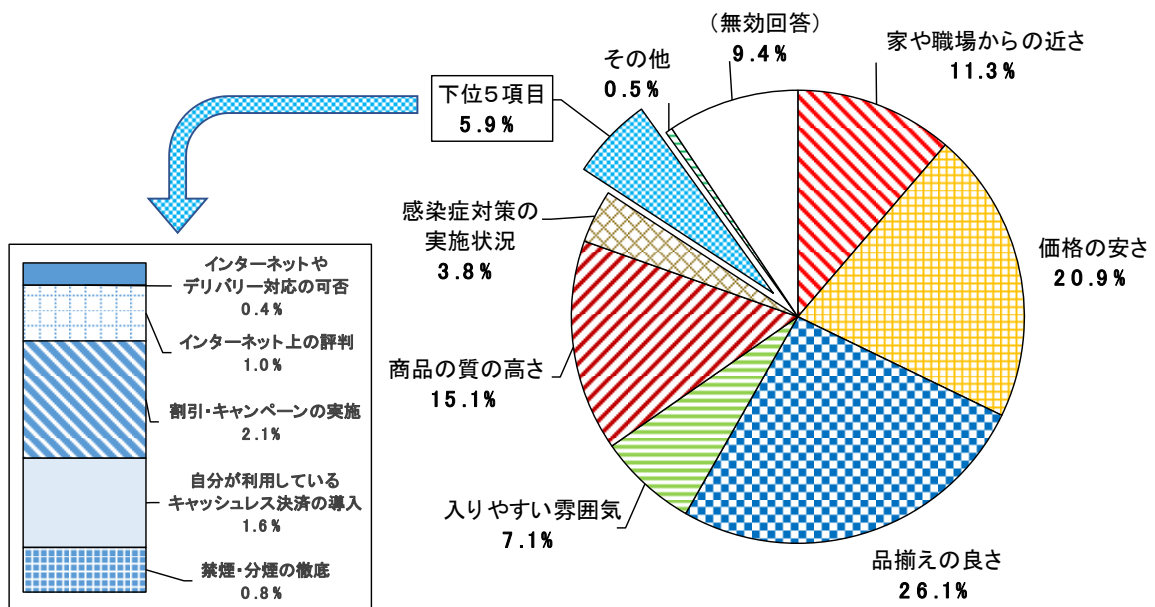
<全体 (n=1105) >

- 一番目に重視していることは、「家や職場からの近さ」が 35.9%で最も高く、次いで「品揃えの良さ」の 16.9%、「価格の安さ」の 13.7%の順となっています。
- 二番目に重視していることは、「品揃えの良さ」が 26.1%で最も高く、次いで「価格の安さ」の 20.9%、「商品の質の高さ」の 15.1%の順となっています。
- 三番目に重視していることは、「商品の質の高さ」が 17.6%で最も高く、次いで「品揃えの良さ」の 17.5%、「価格の安さ」の 12.7%の順となっています。

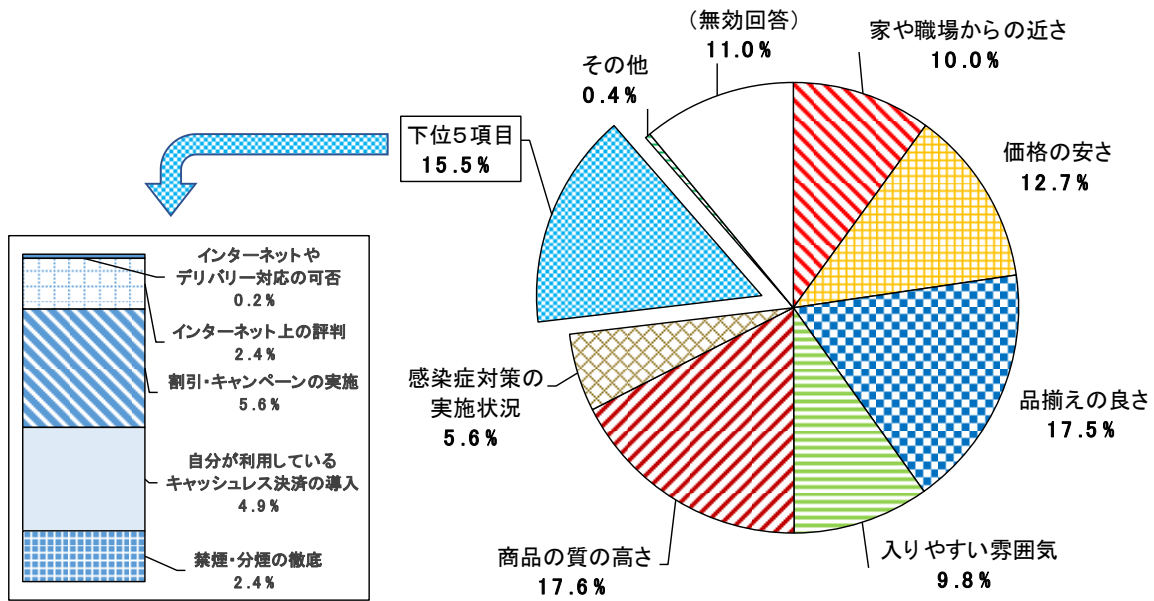
1 番目に重視していること



2 番目に重視していること



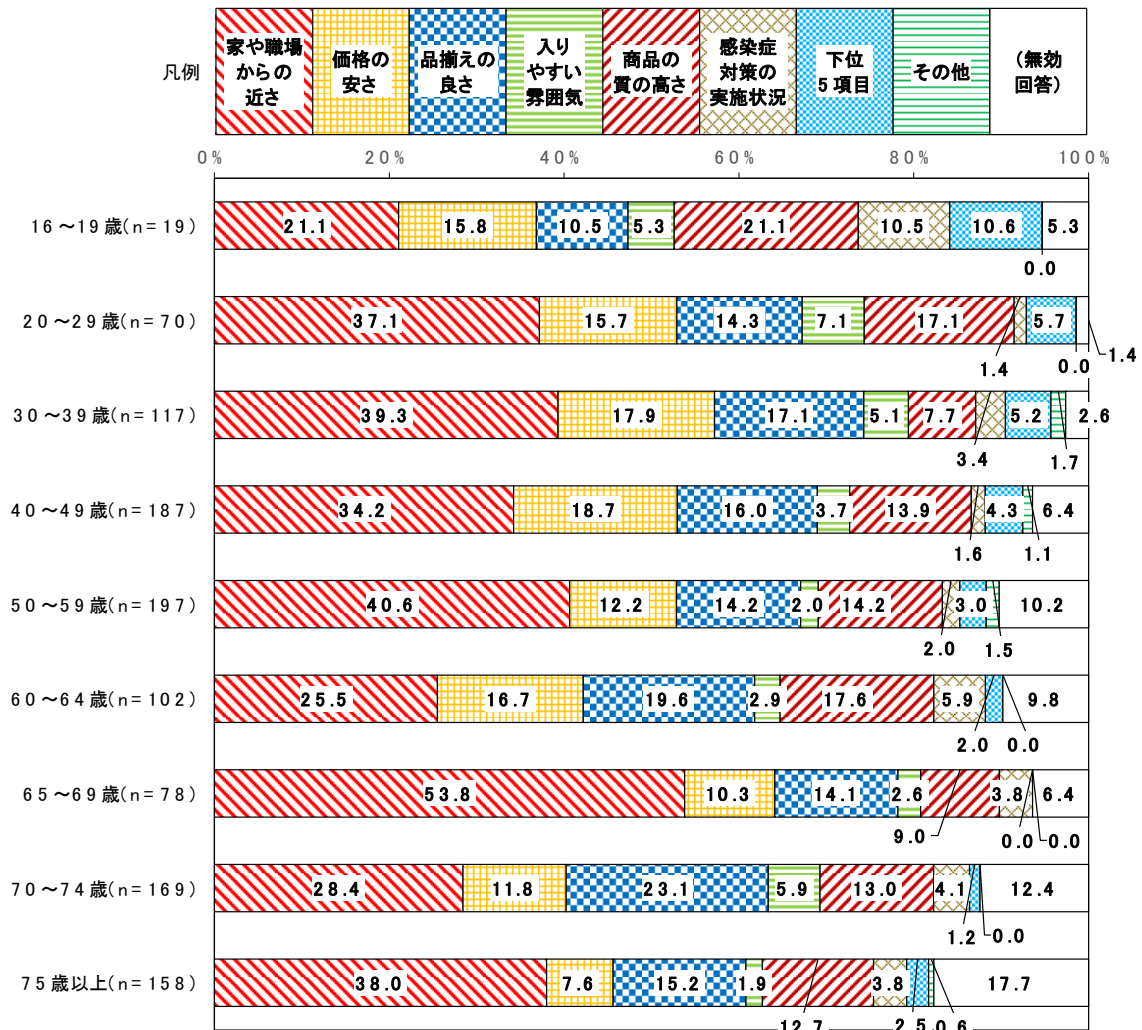
3番目に重視していること



<年齢層別>

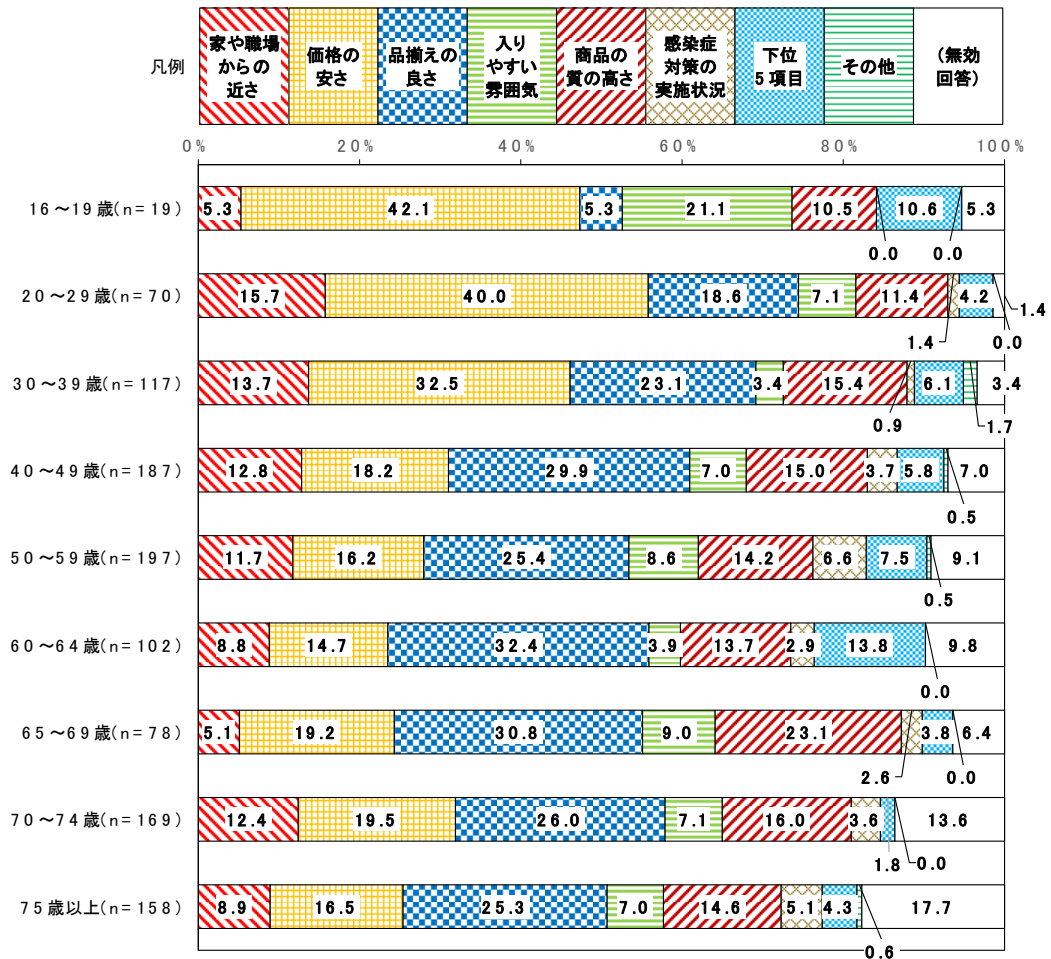
○1番目に重視していることは、いずれの年齢層も「家や職場からの近さ」が最も高く、2番目に重視していることは、年齢が上がるほど「品揃えの良さ」、年齢が下がるほど「価格の安さ」が高くなる傾向にあります。

1番目に重視していること

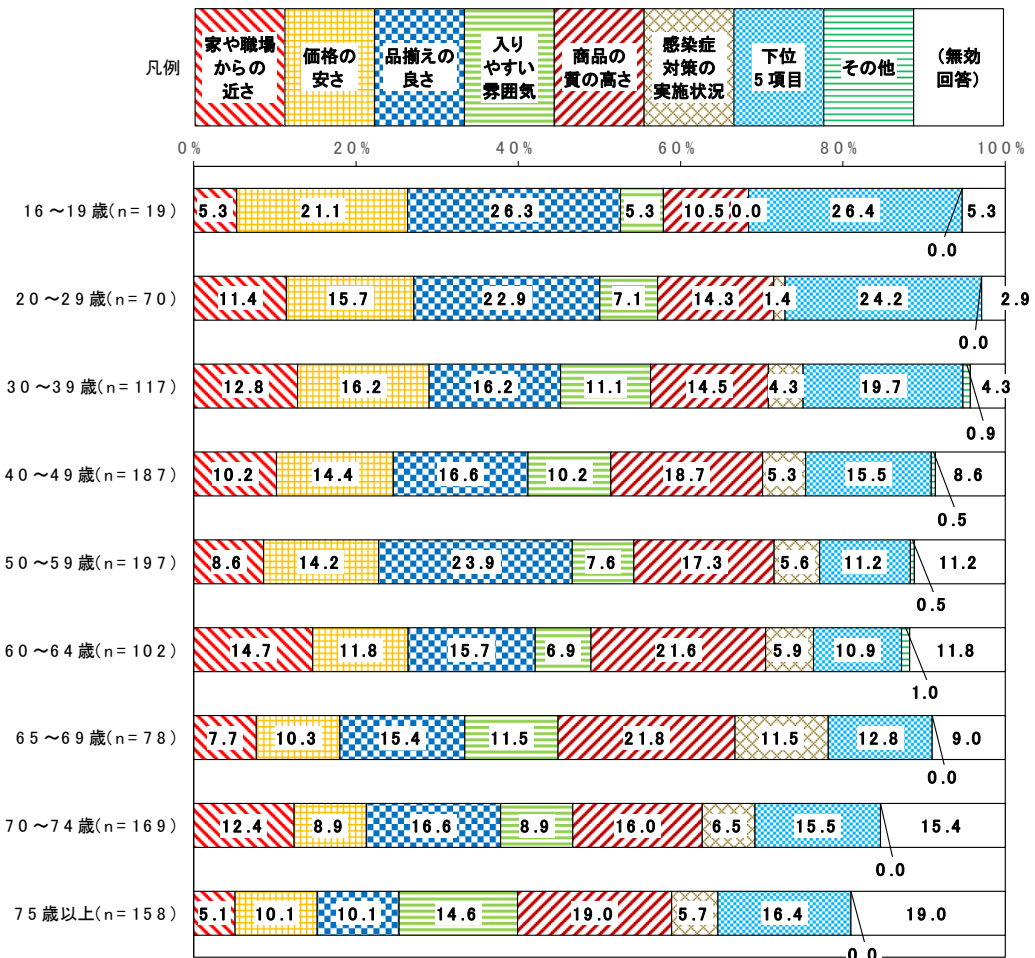


第3章 調査結果<日ごろの意識や行動>

2番目に重視していること



3番目に重視していること



<自由記述>主な意見を抜粋

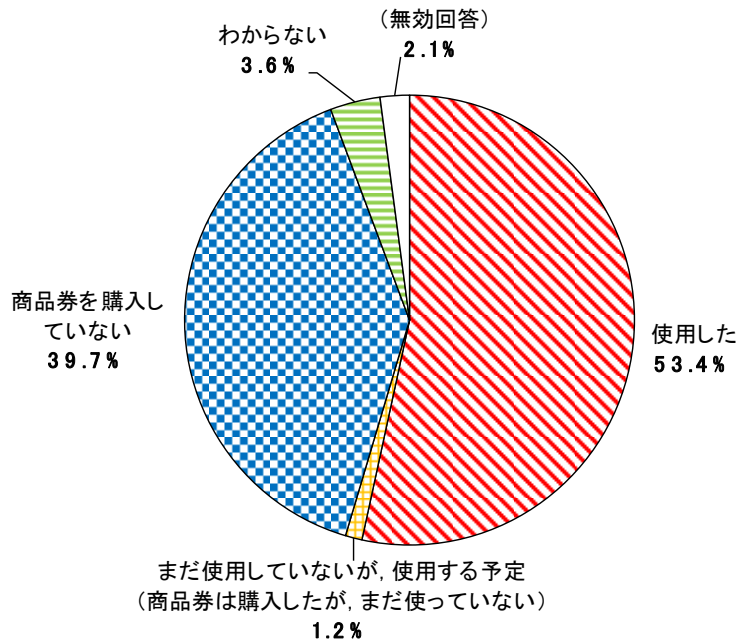
【図表 産業振興に関する施策についてのご意見・ご提案】(45件)

- ・ 個人商店への支援
- ・ スタートアップが来やすいようなビジネス環境作り。
- ・ ドラマ、映画の撮影誘致を活発化すべき。

問42) 調布市プレミアム付商品券※事業についてうかがいます。あなたは、当商品券を購入・使用しましたか。

<全体 (n=1105) >

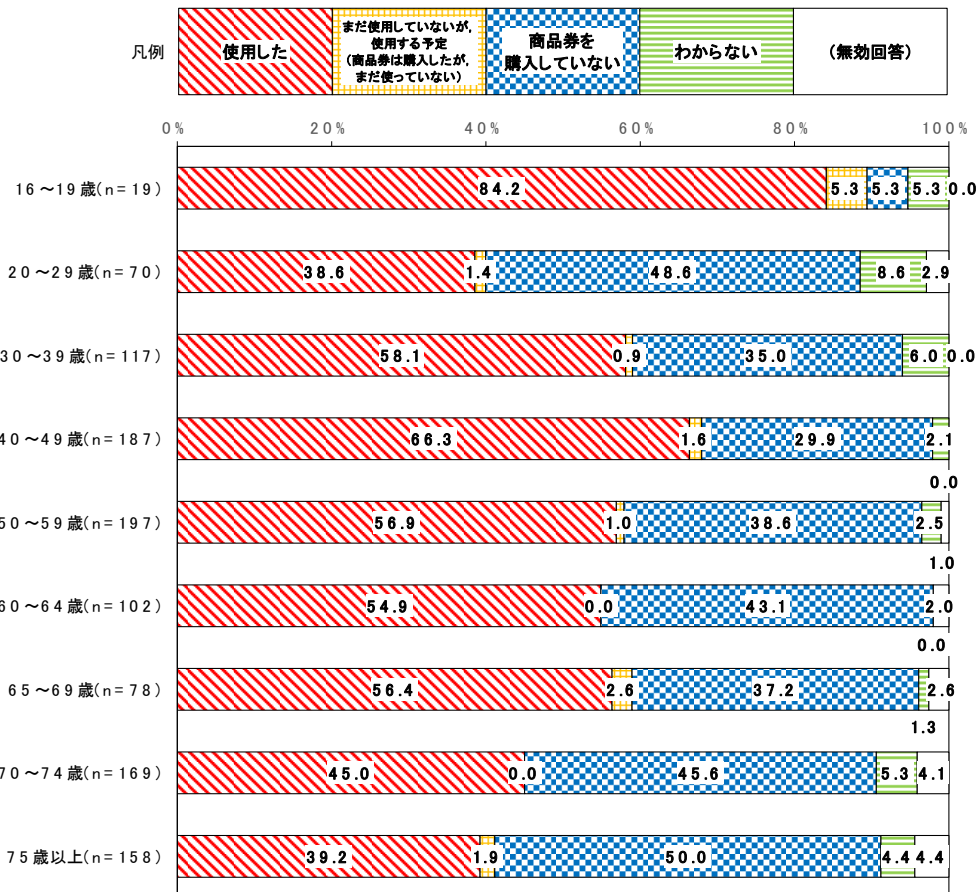
- 「使用した」は53.4%、「まだ使用していないが、今後使用する予定(商品券は購入したが、まだ使っていない)」は1.2%で合計は54.6%となっています。
- また、「商品券を購入していない」は39.7%となっています。



※消費喚起を目的としたプレミアム率30パーセントの商品券【第1弾利用期間：令和3年8月2日(月)～10月31日(日)，第2弾利用期間：令和3年11月17日(水)～令和4年2月28日(月)】

<年齢層別>

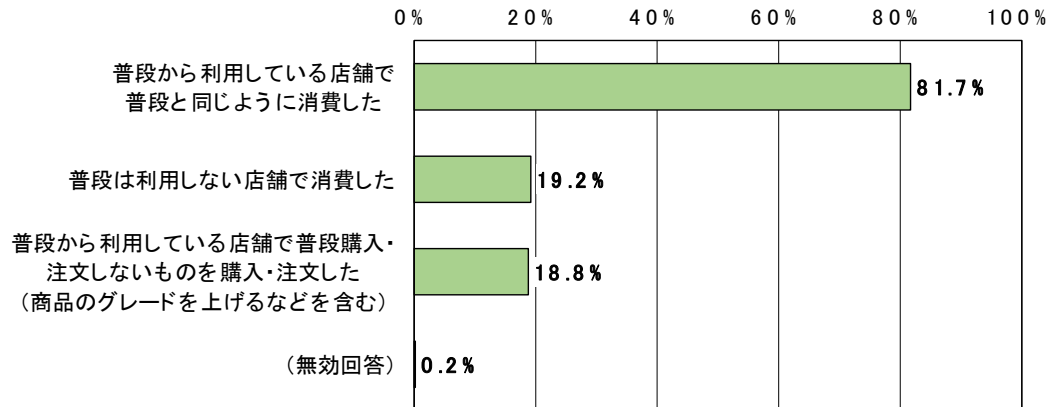
- 「使用した」と「まだ使用していないが、今後使用する予定(商品券は購入したが、まだ使っていない)」の合計は、16～19歳が89.5%で最も高く、次いで40～49歳が67.9%、30～39歳及び65～69歳が59.0%の順となっています。



問 42-1) 問 42 で「使用した」と回答した方にかがいます。あなたは、この商品券をどのように使用しましたか。

<全体 (n=590) >

○「普段から利用している店舗で普段と同じように消費した」が81.7%で最も高く、次いで「普段は利用しない店舗で消費した」の19.2%、「普段から利用している店舗で普段購入・注文しないものを購入・注文した（商品のグレードを上げるなどを含む）」の18.8%の順となっています。



<年齢層別>

○すべての年齢層で「普段から利用している店舗で普段と同じように消費した」が最も高くなっています。

選択肢	合計	16~19歳	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~64歳	65~69歳	70~74歳	75歳以上
全体	590	16	27	68	124	112	56	44	76	62
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
普段から利用している店舗で普段と同じよ うに消費した	482	12	24	46	89	95	49	40	69	55
	81.7%	75.0%	88.9%	67.6%	71.8%	84.8%	87.5%	90.9%	90.8%	88.7%
普段は利用しない店舗で消費した	113	2	4	16	31	24	10	6	9	10
	19.2%	12.5%	14.8%	23.5%	25.0%	21.4%	17.9%	13.6%	11.8%	16.1%
普段から利用している店舗で普段購入・注文しないものを 購入・注文した (商品のグレードを上げるなどを含む)	111	2	3	23	32	20	6	2	11	10
	18.8%	12.5%	11.1%	33.8%	25.8%	17.9%	10.7%	4.5%	14.5%	16.1%
(無効回答)	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0
	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

(上段：実数 (人)， 下段：構成比)

回答割合が最も高い：



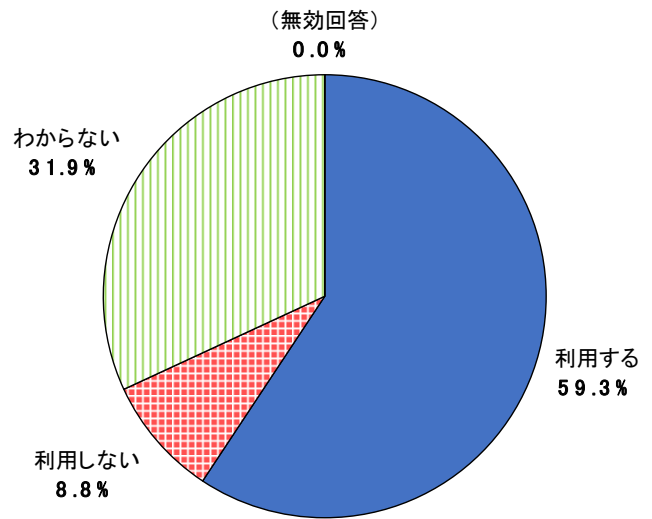
回答割合が2番目に高い：



問 42-2) 問 42-1 で「普段は利用しない店舗で消費した」と回答した方にうかがいます。今回利用した、「普段は利用しない店舗」について、今後も同店舗を利用しますか。

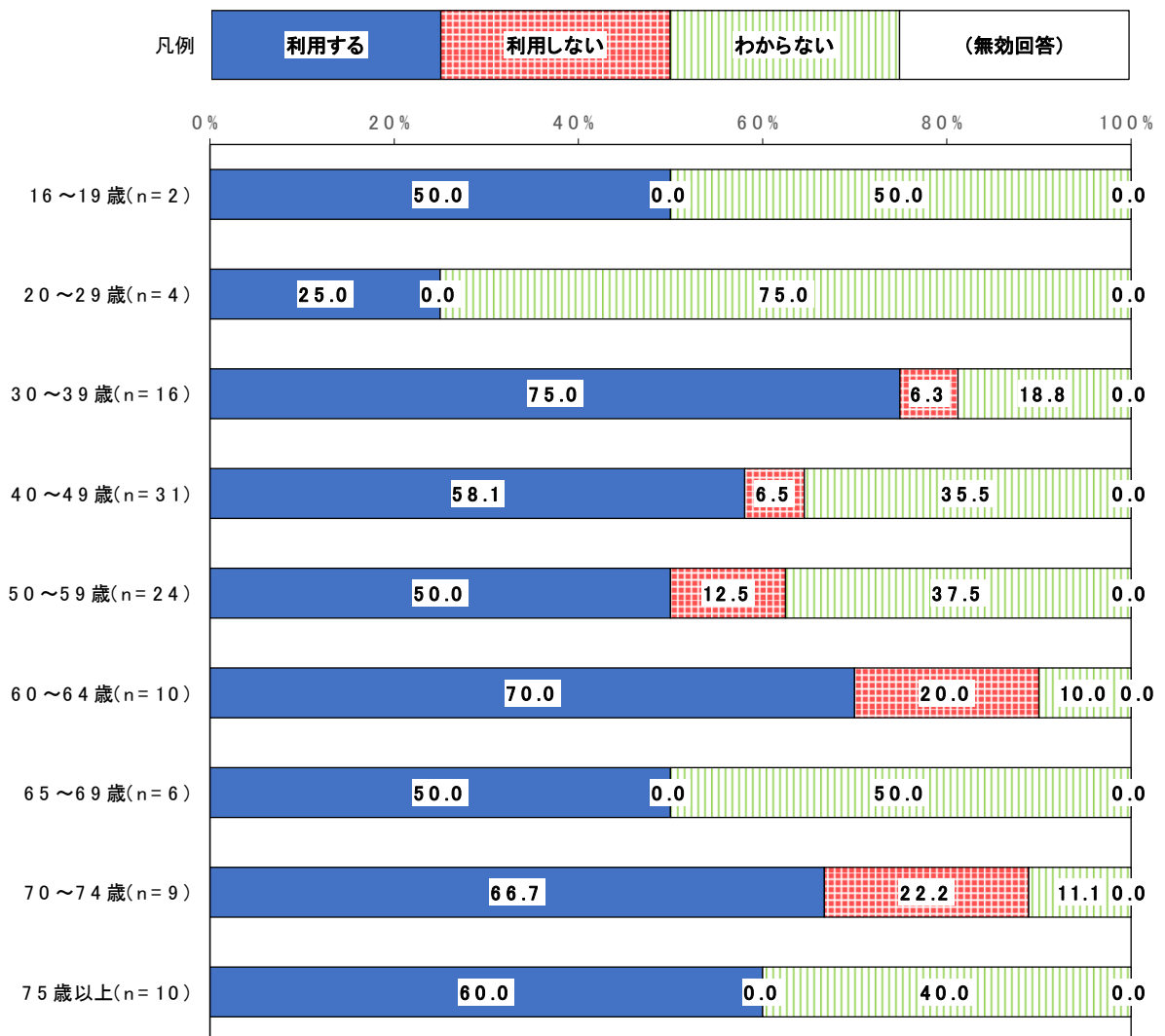
<全体 (n=113) >

○「利用する」が 59.3%で最も高く、次いで「わからない」の 31.9%、「利用しない」の 8.8%の順となっています。



<年齢層別>

○30～39 歳では、75.0%の方が「利用する」と回答しています。

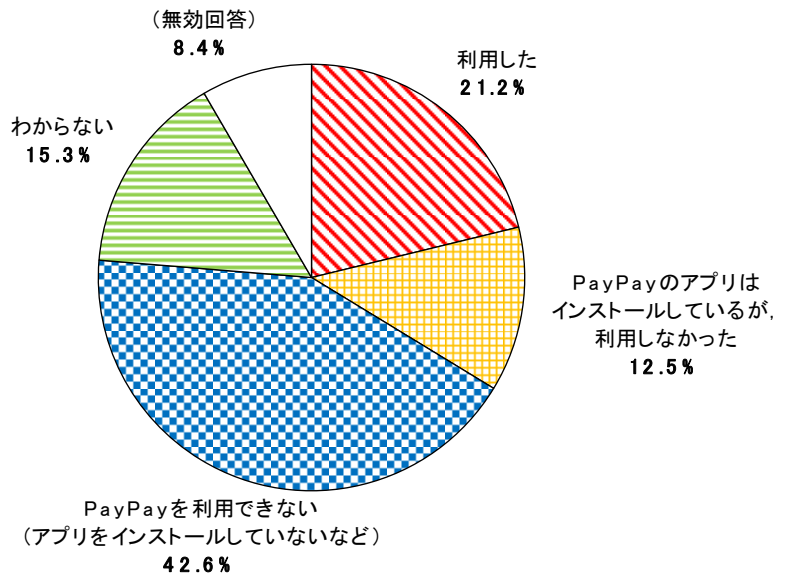


問 43) キャッシュレス決済ポイント還元*事業についてうかがいます。あなたは、この事業を利用しましたか。

<全体 (n=1105) >

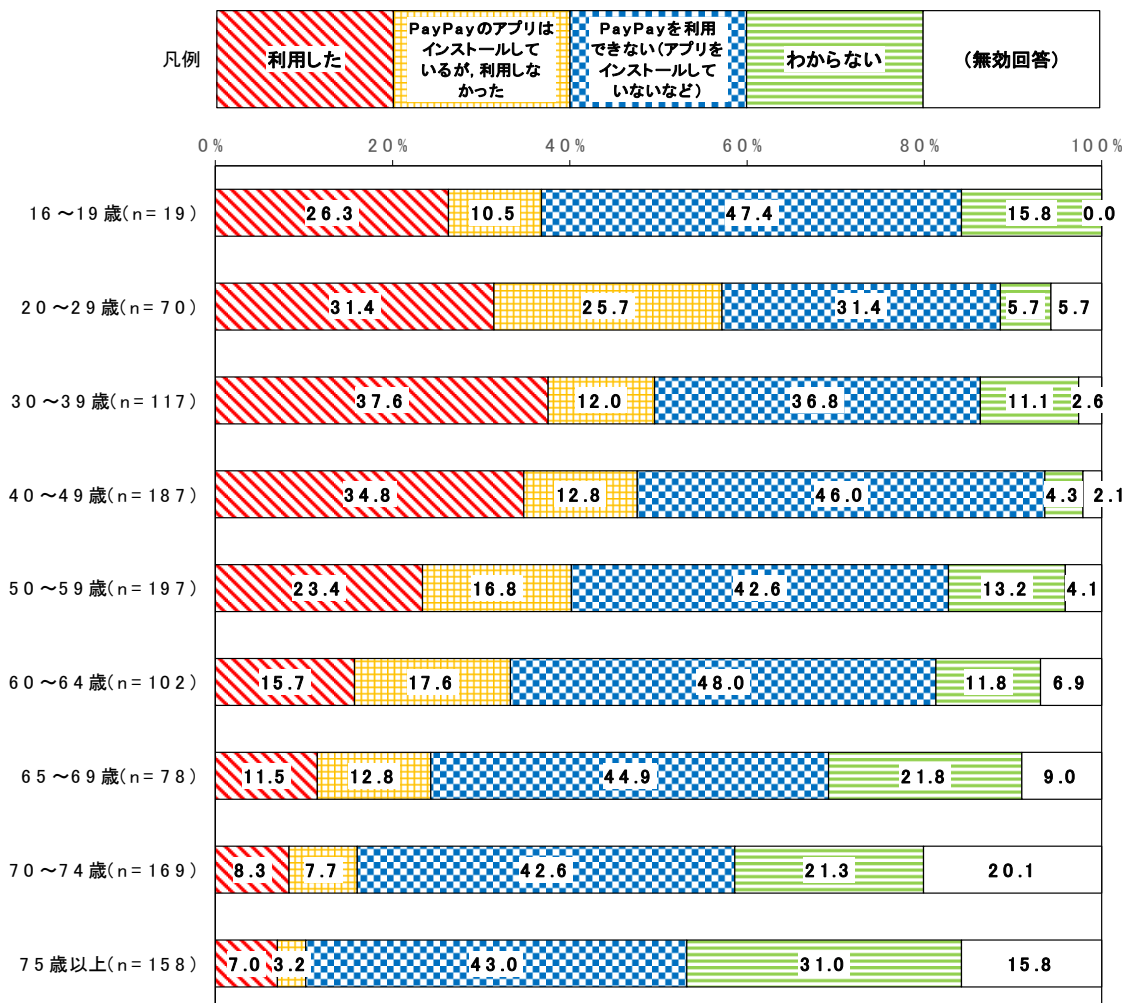
○「PayPay を利用できない（アプリをインストールしていないなど）」が 42.6% で最も高く、次いで「利用した」の 21.2%、「PayPay のアプリはインストールしているが、利用しなかった」の 12.5%の順となっています。

※市内対象店舗で、キャッシュレス決済サービス「PayPay」を利用した場合に、決済額の最大 20 パーセントがポイントで戻ってくる事業です。【事業実施期間：令和 3 年 11 月 1 日（月）～令和 4 年 1 月 16 日（日）】



<年齢層別>

○20～49 歳で「利用した」が 30%以上となっている一方、16～19 歳、40 歳以上で「PayPay を利用できない（アプリをインストールしていないなど）」が 40%以上となっています。

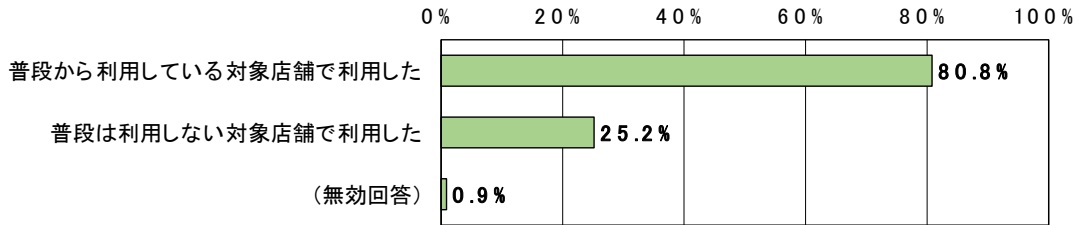


第3章 調査結果<日ごろの意識や行動>

問 43-1) 問 43-1 で「利用した」と回答した方にうかがいます。あなたは、この事業をどこで利用しましたか。

<全体 (n=234) >

○「普段から利用している対象店舗で利用した」が80.8%、「普段は利用しない対象店舗で利用した」は25.2%となっています。



<年齢層別>

○いずれの年齢層も「普段から利用している対象店舗で利用した」が最も高くなっています。

選択肢	合計	16~19歳	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~64歳	65~69歳	70~74歳	75歳以上
全体	234	5	22	44	65	46	16	9	14	11
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
普段から利用している対象店舗で利用した	189	5	19	40	50	34	14	9	8	8
	80.8%	100.0%	86.4%	90.9%	76.9%	73.9%	87.5%	100.0%	57.1%	72.7%
普段は利用しない対象店舗で利用した	59	0	4	8	19	16	3	0	5	4
	25.2%	0.0%	18.2%	18.2%	29.2%	34.8%	18.8%	0.0%	35.7%	36.4%
(無効回答)	2	0	0	0	1	0	0	0	1	0
	0.9%	0.0%	0.0%	0.0%	1.5%	0.0%	0.0%	0.0%	7.1%	0.0%

(上段：実数(人)，下段：構成比)

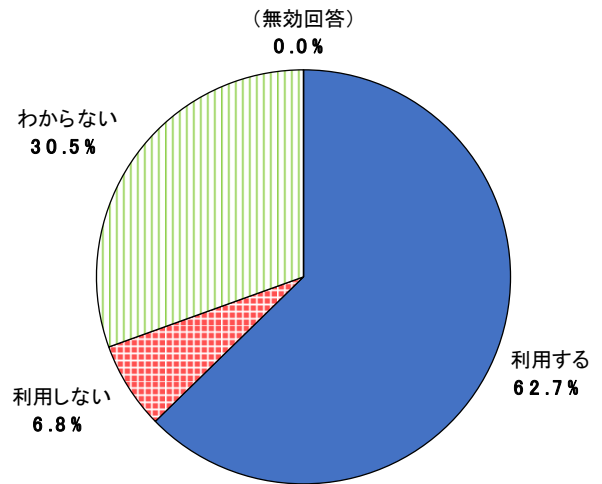
回答割合が最も高い：

回答割合が2番目に高い：

問 43-2) 問 43-1 で「普段は利用しない対象店舗で利用した」と回答した方にうかがいます。今回利用した、「普段は利用しない対象店舗」について、今後も同店舗を利用しますか。

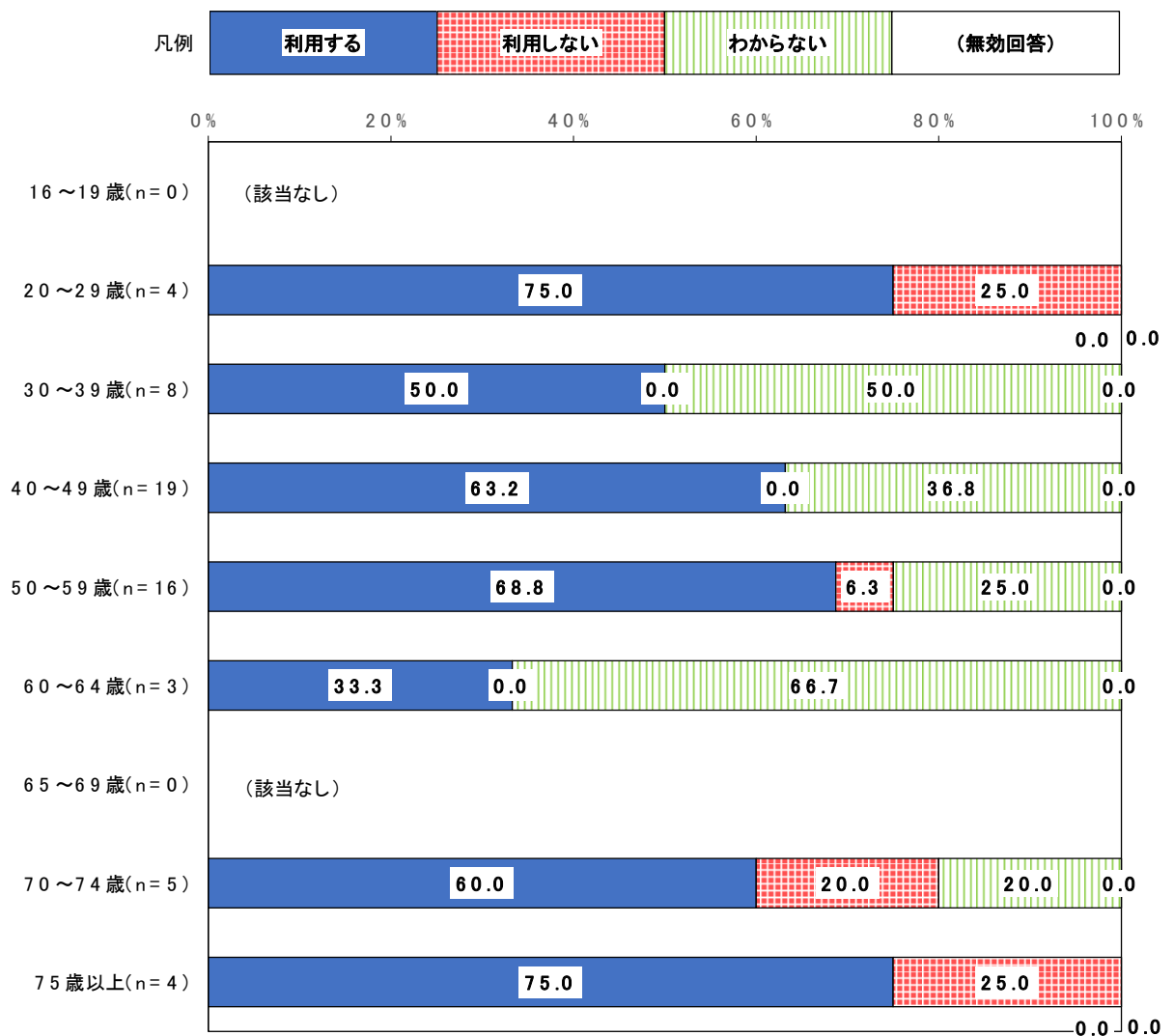
<全体 (n=59) >

○「利用する」が62.7%、「利用しない」は6.8%となっています。



<年齢層別>

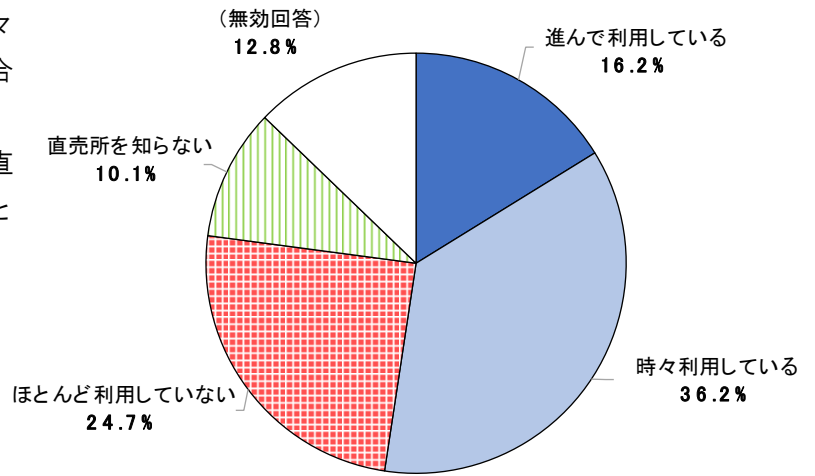
○60～69歳を除く年齢層で「利用する」が半数を超えています。



問 44) あなたは、市内農家の農産物直売所（市内スーパーの直売コーナー、農協直売コーナーを含む）を利用していますか。

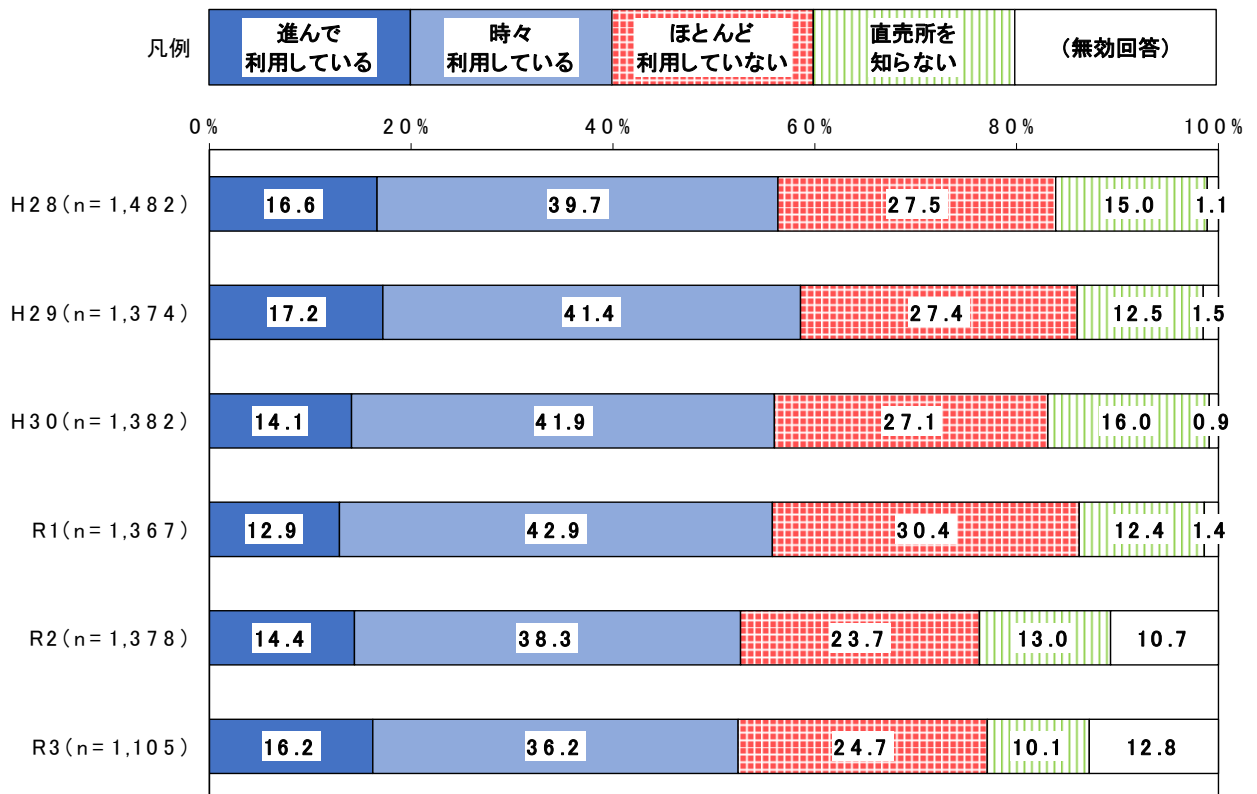
<全体 (n=1105) >

- 「進んで利用している」は 16.2%、「時々利用している」は 36.2%となっており、合計で 52.4%を占めています。
- 「ほとんど利用していない」が 24.7%、「直売所を知らない」が 10.1%で、合計すると 34.8%となっています。



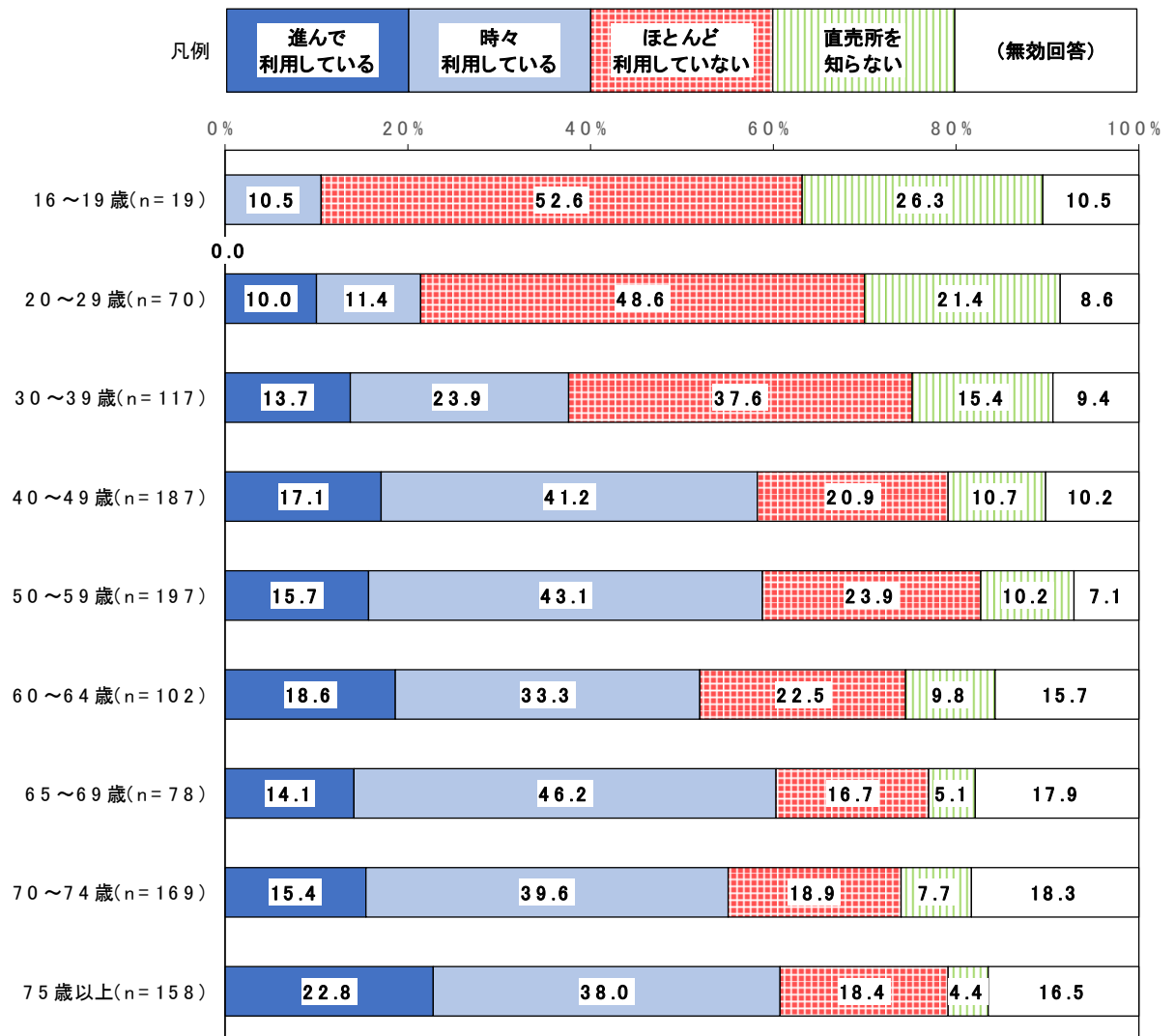
<経年比較>

- 「進んで利用している」と「時々利用している」の合計は、平成 29 年度以降減少傾向で推移しており、令和 3 年度 (52.4%) は、令和 2 年度 (52.7%) に比べて 0.3 ポイント減少しています。



<年齢層別>

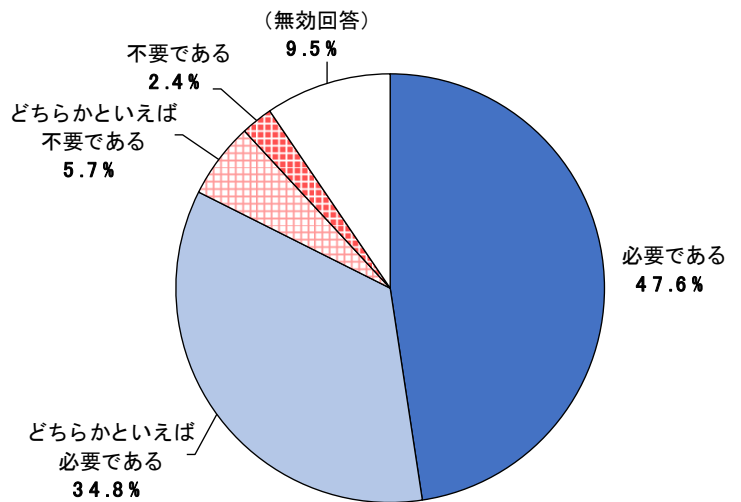
- おおむね年齢が上がるほど「進んで利用している」と「時々利用している」の合計が高くなっています。
- 16～39歳では、「ほとんど利用していない」と「直売所を知らない」の合計が50%を超えています。



問45) あなたは、市内に農地が必要だと思いますか。

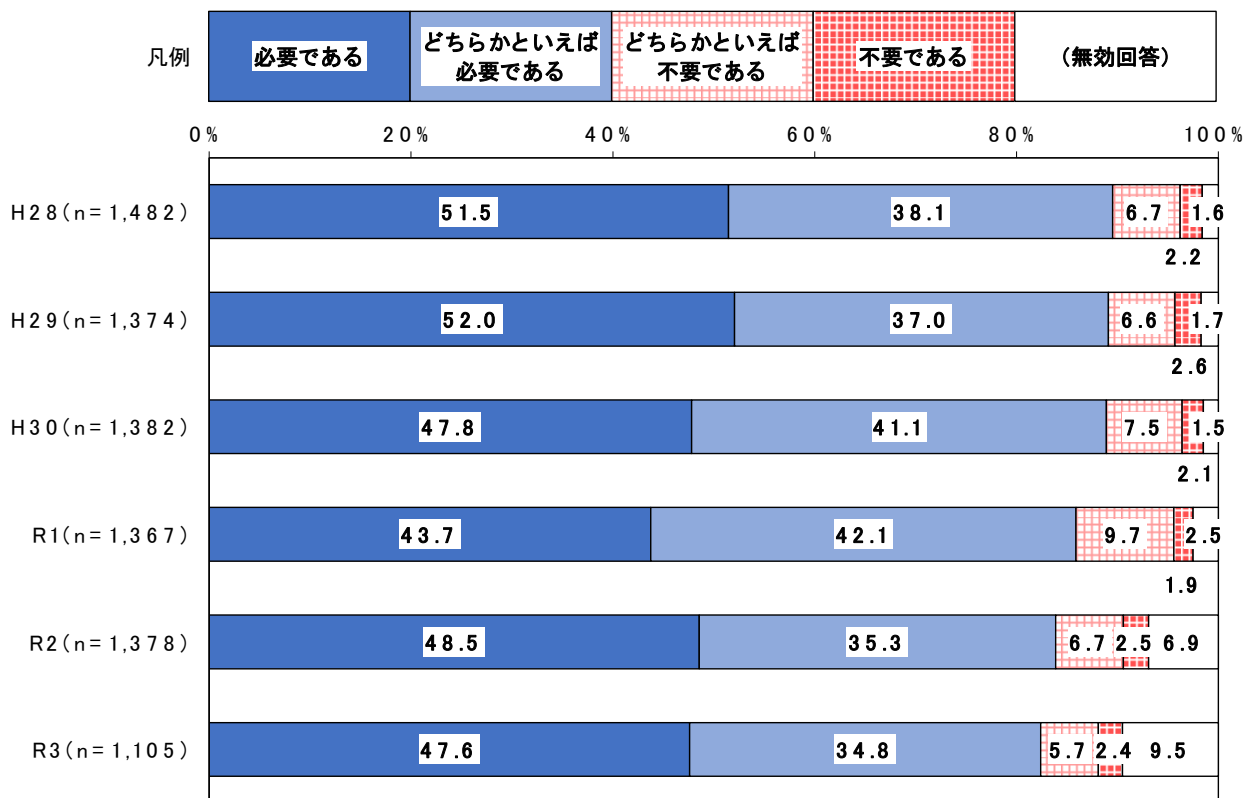
<全体 (n=1105) >

○市内に農地が「必要である」は47.6%,「どちらかといえば必要である」は34.8%であり、合計で82.4%を占めています。



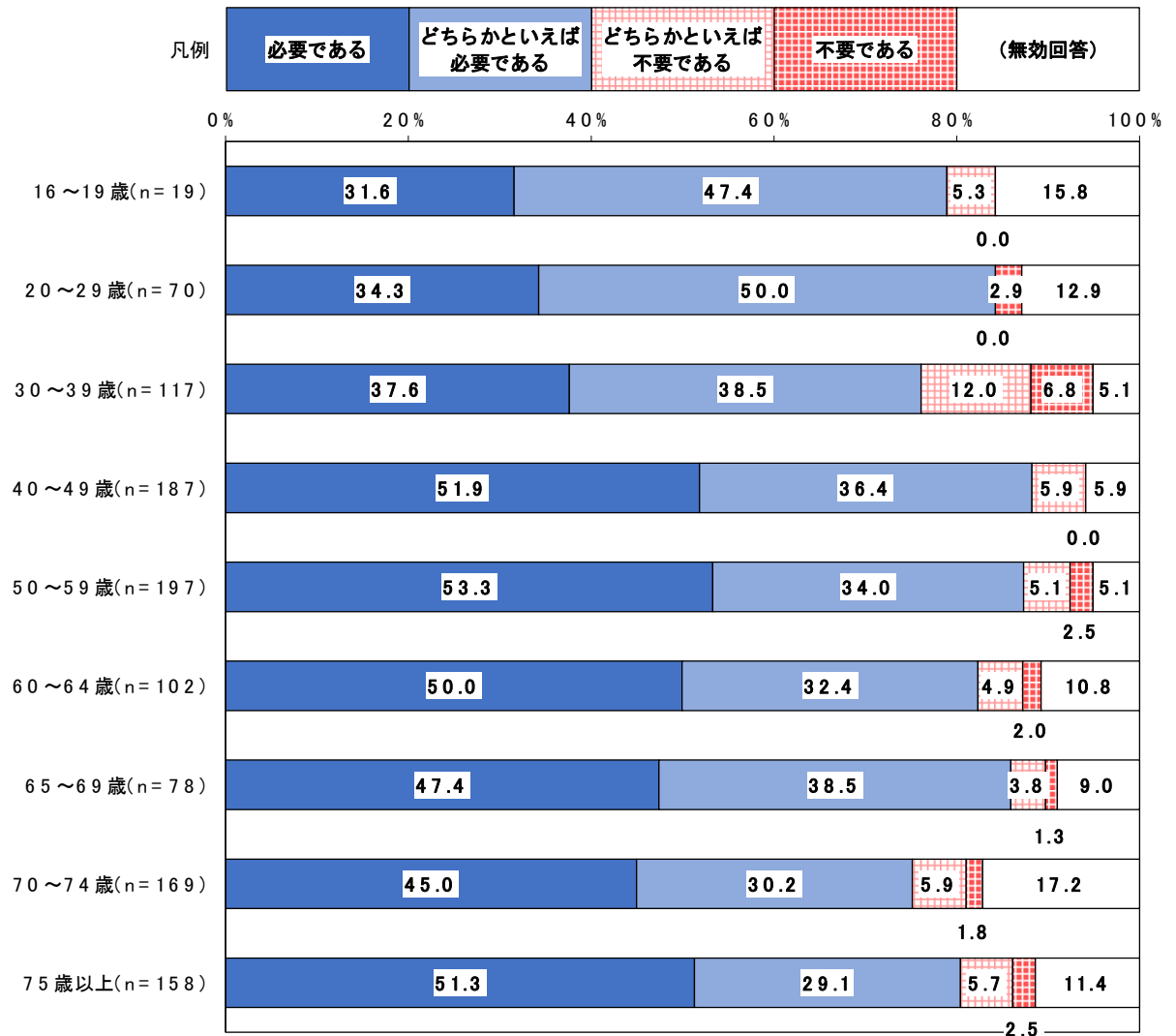
<経年比較>

○平成28年度以降、「必要である」と「どちらかといえば必要である」の合計は、一貫して80%台にありますが、微減傾向で推移しています。



<年齢層別>

○16～19歳，30～39歳，70～74歳を除いていずれの年齢層でも「必要である」と「どちらかといえば必要である」の合計は，80%台となっています。

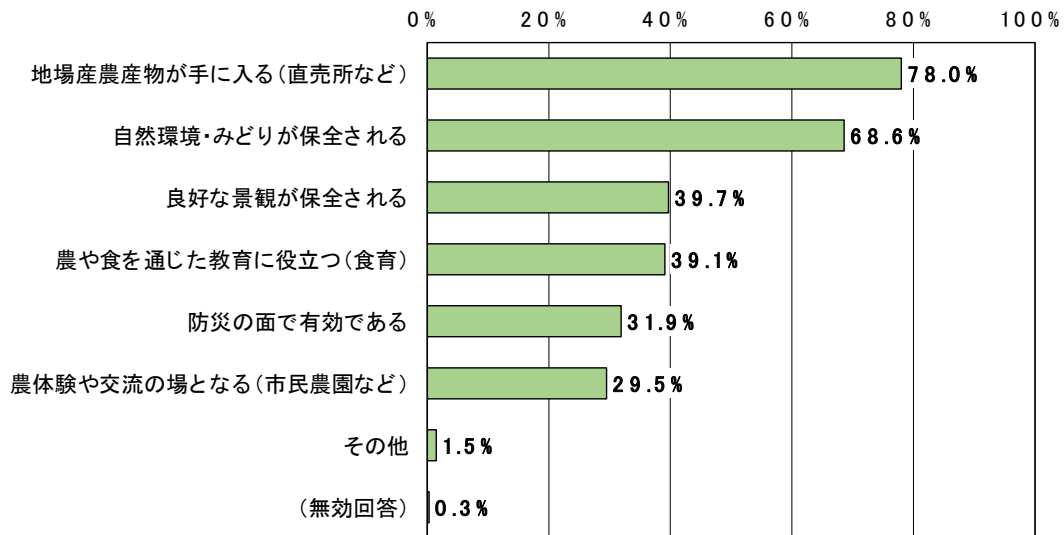


第3章 調査結果<日ごろの意識や行動>

問45-1) 問45で「必要である」「どちらかといえば必要である」と回答した方にうかがいます。市内に農地が必要だと思う理由は何ですか。

<全体 (n=910) >

○「地場産農産物が手に入る(直売所など)」が78.0%で最も高く、次いで「自然環境・みどりが保全される」の68.6%の順となっています。



<年齢層別>

○「いずれの年齢層も、「地場産農産物が手に入る(直売所など)」、「自然環境・みどりが保全される」が高くなっています。

選択肢	合計	16~19歳	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~64歳	65~69歳	70~74歳	75歳以上
全体	910	15	59	89	165	172	84	67	127	127
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
地場産農産物が手に入る(直売所など)	710	10	39	58	124	144	63	56	106	106
	78.0%	66.7%	66.1%	65.2%	75.2%	83.7%	75.0%	83.6%	83.5%	83.5%
自然環境・みどりが保全される	624	6	30	56	116	123	66	44	92	87
	68.6%	40.0%	50.8%	62.9%	70.3%	71.5%	78.6%	65.7%	72.4%	68.5%
良好な景観が保全される	361	4	23	34	69	68	40	19	53	49
	39.7%	26.7%	39.0%	38.2%	41.8%	39.5%	47.6%	28.4%	41.7%	38.6%
農や食を通じた教育に役立つ(食育)	356	6	29	37	73	66	34	25	41	40
	39.1%	40.0%	49.2%	41.6%	44.2%	38.4%	40.5%	37.3%	32.3%	31.5%
防災の面で有効である	290	4	11	23	41	48	27	29	49	56
	31.9%	26.7%	18.6%	25.8%	24.8%	27.9%	32.1%	43.3%	38.6%	44.1%
農体験や交流の場となる(市民農園など)	268	2	22	33	56	51	21	20	36	25
	29.5%	13.3%	37.3%	37.1%	33.9%	29.7%	25.0%	29.9%	28.3%	19.7%
その他	14	0	2	0	4	4	3	0	0	0
	1.5%	0.0%	3.4%	0.0%	2.4%	2.3%	3.6%	0.0%	0.0%	0.0%
(無効回答)	3	0	0	0	1	0	0	0	1	1
	0.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.8%	0.8%

(上段:実数(人), 下段:構成比)

回答割合が最も高い:

回答割合が2番目に高い:

<自由記述> 主な意見を抜粋

【図表 農業に関する施策についてのご意見・ご提案】(49件)

- ・ 調布の名産を作ること。
- ・ 市内の保育園・小学校などで、農業体験を必ず行うなど積極的に子どもが「農業に触れる」機会をつくって欲しい。